

令和3年度
沖縄子ども調査 概要版

令和4年3月
沖縄県

目次

調査概要	3
第1章 保護者の状況	16
第2章 学校・学習状況について.....	31
第3章 ふだんの暮らし(児童・生徒).....	41
第4章 ふだんの暮らし(保護者).....	52
第5章 制度の利用状況.....	64
自由記述	75

調查概要

調査の目的

沖縄県の子ども及びその保護者の生活実態や支援ニーズ等の把握・分析を行い、子どもの貧困対策の効果的な実施や、施策の評価に活用することを目的に実施しました。

調査の実施主体

沖縄県から委託を受けて、沖縄県子ども調査事業共同体（学校法人沖縄大学、NPO法人沖縄県学童・保育支援センターによるコンソーシアム）で調査を実施しました。

調査対象

- (1) 小学5年生と中学2年生の児童・生徒及びその保護者
- (2) 0歳から17歳（2003年4月2日～2021年4月1日生まれ）の保護者

調査実施期間

令和3年10月8日から令和3年10月25日 ※一部地域は、郵送の関係により若干延長して実施

調査方法

(1) 小学5年生、中学2年生：学校配布調査

市町村別の人口構成比をもとに県内の小中学校（県内私立学校及び県立中高一貫校除く）を選定。学校を通じて、対象校に在籍する小学5年生及び中学2年生の児童・生徒及びその保護者へ調査票の配布を行い、密封された状態で回収した調査票を学校が取りまとめ、受託事業者へ送付しました。

(2) 0歳から17歳：郵送調査

沖縄県が各市町村へ、住民基本台帳から配布数に相当する世帯を無作為に抽出するよう依頼。その名簿をもとに、郵送にて配布・回収を行いました。

回収状況

回収状況		配布数	有効回答数	有効回答率	マッチング件数
小学5年生	児童	3,331	2,387	71.7%	2,376
	保護者		2,386	71.6%	
中学2年生	生徒	3,317	2,494	75.2%	2,476
	保護者		2,496	75.3%	
0～17歳		13,500	4,568	33.8%	

調査協力研究者

調査の実施にあたり、下記の研究者とともに企画・分析を行いました。(★筆頭研究者)

氏名	所属		執筆分担
★島村 聡	沖縄大学	人文学部 福祉文化学科	第2章、第5章
★山野 良一			第3章 第4章3～5節、10節
阿部 彩	東京都立大学	人文社会学部 人間社会学科	
二宮 元	琉球大学	人文社会学部 国際法政学科	第1章 第4章1～2節、6～9節

備考

1. 図表で示している回答数の割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
2. 調査票の作成・分析にあたり、下記調査を参考にしました。
 - ・内閣府(2021年)「令和3年 子供の生活状況調査」
 - ・文部科学省(2021年)「全国学力・学習状況調査」
 - ・厚生労働省(2019年)「2019年 国民生活基礎調査の概況」
 - ・東京都(2016年)「子供の生活実態調査」

3. 本報告書では、沖縄県が2015年度と2018年度に実施した小中学生調査との経年比較も行っています。また、経済状況別での経年比較においては、2015年、2018年沖縄県調査では、世帯の状況を2区分（貧困線未満の「困窮層」と、貧困線以上の「非困窮層」）で分析していたため、それにあわせる形で本調査の低所得層Ⅰを困窮層に、低所得層Ⅱと一般層を非困窮層に分けて比較しています。

あわせて、本調査の中学2年生については、内閣府が2021年に実施した「子供の生活状況調査」（中学2年生のみを対象）との比較も行っており、数値は、報告書（「令和3年 子供の生活状況調査の分析報告書」。以下、本文中では「内閣府報告書」と表記）として公表されている数値を参考にしています。

4. 保護者を対象に実施した調査では、問3で回答者について聞いています。回答者が施設職員などの場合は、問4以降の設問については回答せずに提出するよう依頼したため、問4以降の回答者総数と有効回答数が異なっています。

5. 児童・生徒及び保護者を対象に実施した小学5年生、中学2年生の集計では、児童・生徒票のみの項目は児童・生徒票の全サンプル、保護者票のみの項目は保護者票の全サンプル、クロス集計はマッチングができた票で集計を行っています。

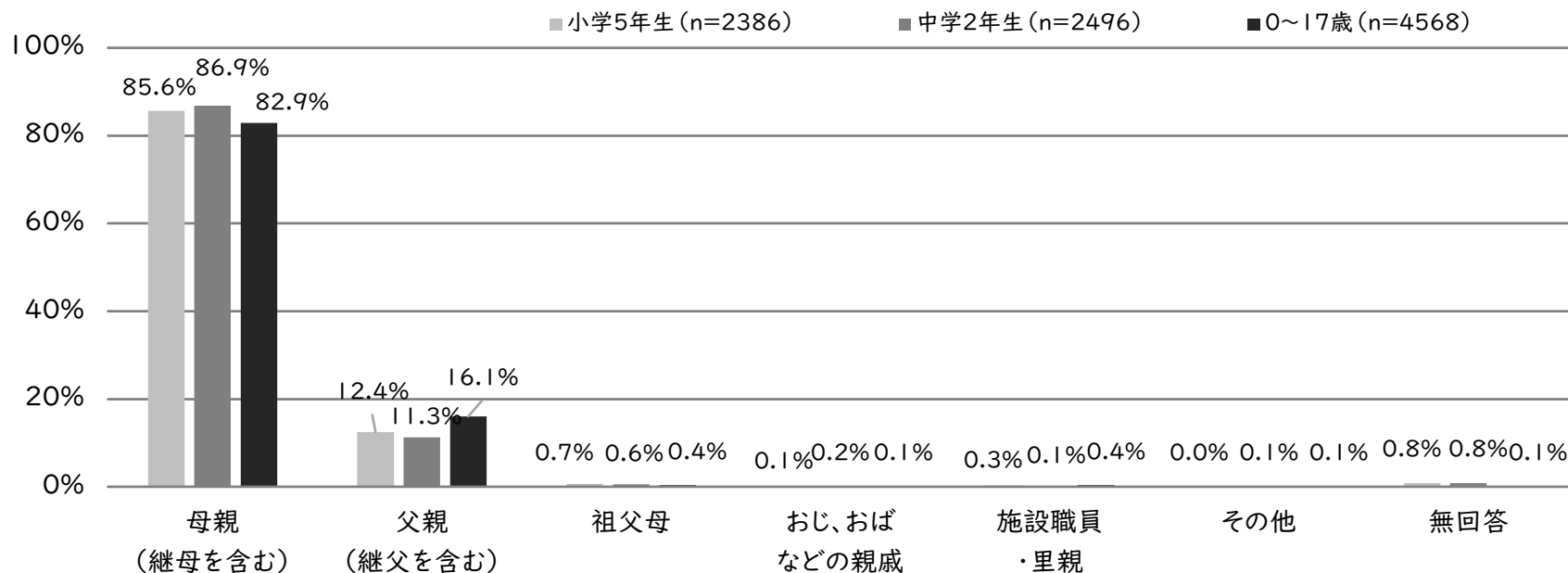
6. 経済状況別でのクロス集計で示している「全体」の数値は、等価可処分所得がわかる世帯で集計したものになります。

7. 必要な図表に関して、低所得層Ⅰ、低所得層Ⅱ、一般層の3群について、カイニ乗検定（場合によっては正確検定）の結果として、p値の大きさを参考に掲載しています。一部、世帯類型別などでも検定を行っています。なお、経年比較や全国調査との比較では検定を行っておらず、p値も掲載していません。

回答者の属性

小学5年生、中学2年生、0~17歳、すべてにおいて「母親」が約8割と最も高くなっています。

図2-1 【保護者】回答者の属性

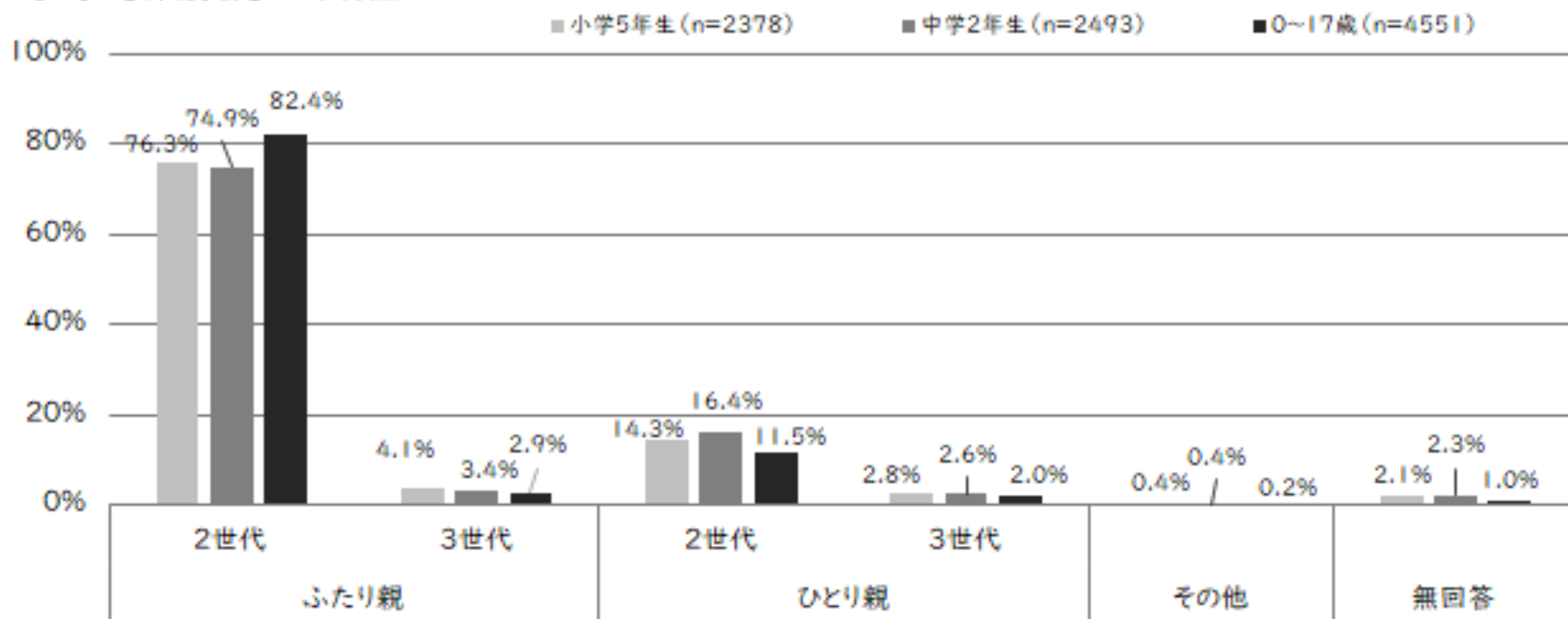


世帯類型

ひとり親世帯の割合は、小学5年生が17.3%、中学2年生が18.9%、0~17歳が13.4%となっています。

参考までに沖縄県が過去に実施した調査におけるひとり親世帯の割合は、2015年沖縄県調査、2018年沖縄県調査の順で、小学5年生が16.9%、17.0%、中学2年生が16.6%、20.5%となっています。

参考【保護者】世帯類型



世帯収入

経年比較が可能な小学5年生、中学2年生においては、200～300万円未満の層が減少し、300～400万未満の層が上昇傾向にあるのが見て取れます。

一方で、200万円未満の層では、2015年、2018年、2021年沖縄県調査の順に、小学5年生で19.0%、16.6%、17.8%、中学2年生で20.5%、17.2%、18.0%と、ほぼ横ばいでした。

図4-1* 【小5保護者／経年比較】世帯収入

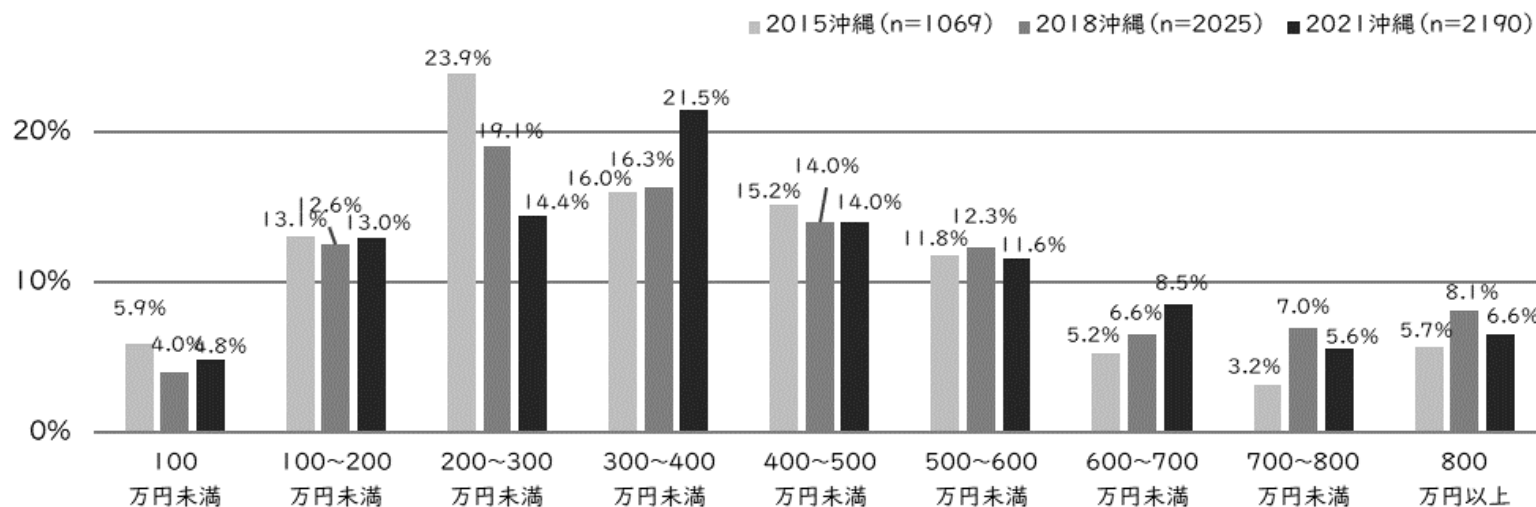


図4-2* 【中2保護者／経年比較】世帯収入

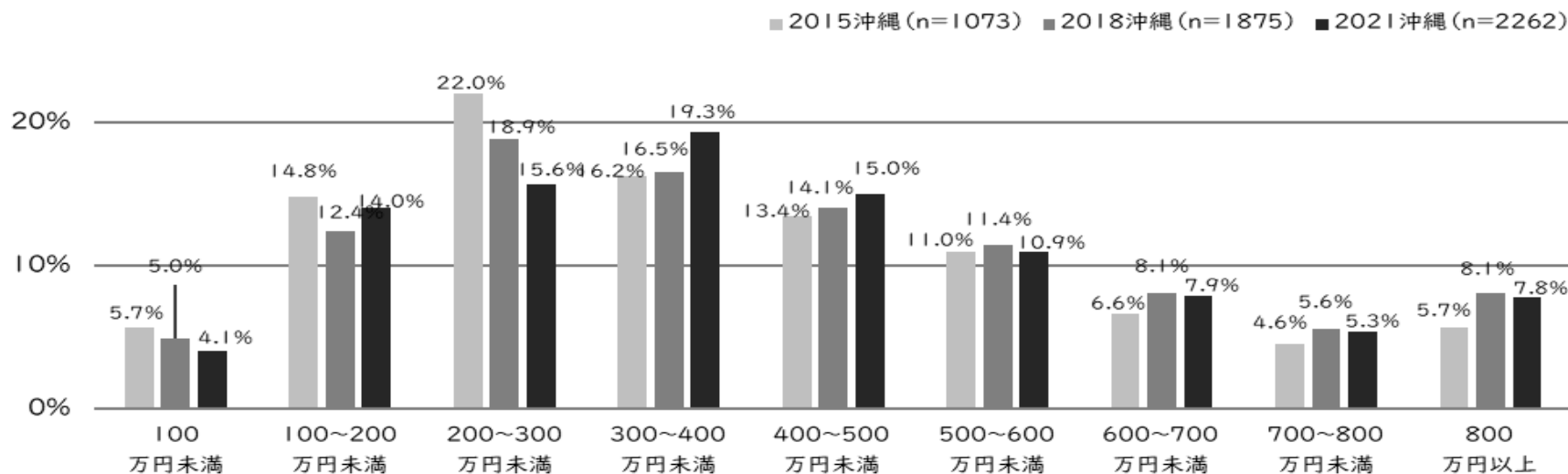
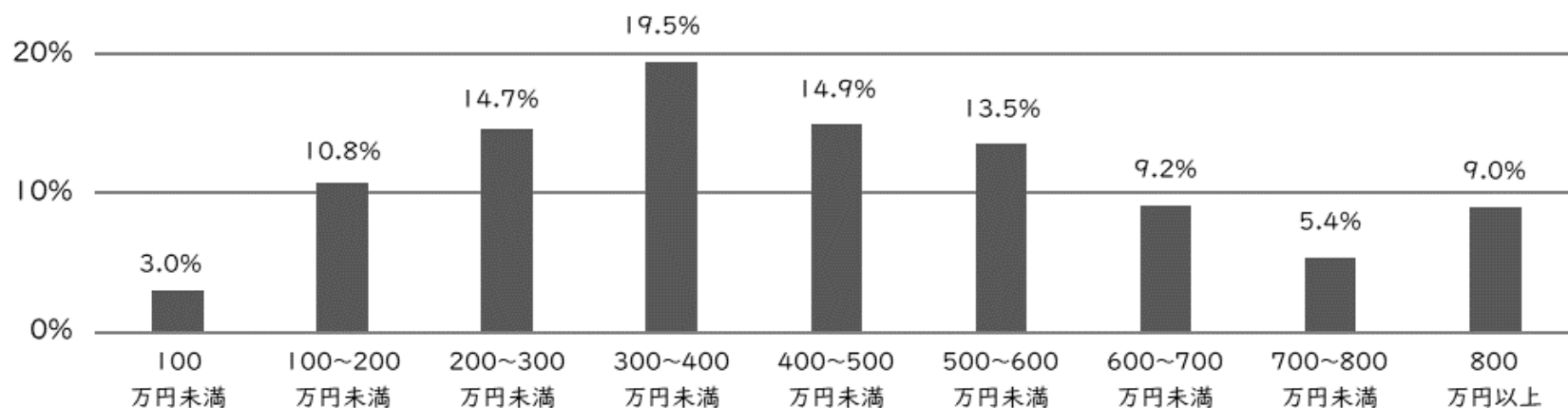


図4-3* 【0~17歳保護者】世帯収入 (n=4333)



困窮率

本調査では、経済状況による影響を分析するため、世帯の人数と世帯収入（税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入）から等価可処分所得（世帯の可処分所得（手取り収入）を世帯人数の平方根で割った額）を算出し、世帯の困窮程度を3つの区分に分類しています。

分類にあたっては、厚生労働省の「2019年国民生活基礎調査」における貧困線を基準にしています。あわせて、貧困線以上ではあるものの、周辺の世界帯の状況を把握することを目的に、貧困線の1.5倍の年収にあたる190.5万円でも区分を設けています。

区分の名称	貧困線をベースにした額	所得	(参考)4人世帯の場合の年収
低所得層Ⅰ	127万円未満 (1.0倍未満)	低	年収254万円未満
低所得層Ⅱ	127万円～190.5万円未満 (1.0～1.5倍未満)	↓	年収254万円～381万円未満
一般層	190.5万円以上 (1.5倍以上)		高

この区分をもとにそれぞれの年齢の状況を見ると(図5-1)、貧困線未満となる低所得層Ⅰは、小学5年生で28.5%、中学2年生で29.2%、0～17歳で23.2%となっています。世帯類型別では(図5-2)小学5年生、中学2年生、0～17歳、すべてにおいて、低所得層Ⅰの占める割合は、ふたり親よりもひとり親世帯のほうが高く、それぞれ、ひとり親世帯の約6～7割を占めています。

図5-1 【保護者】等価可処分所得による分類

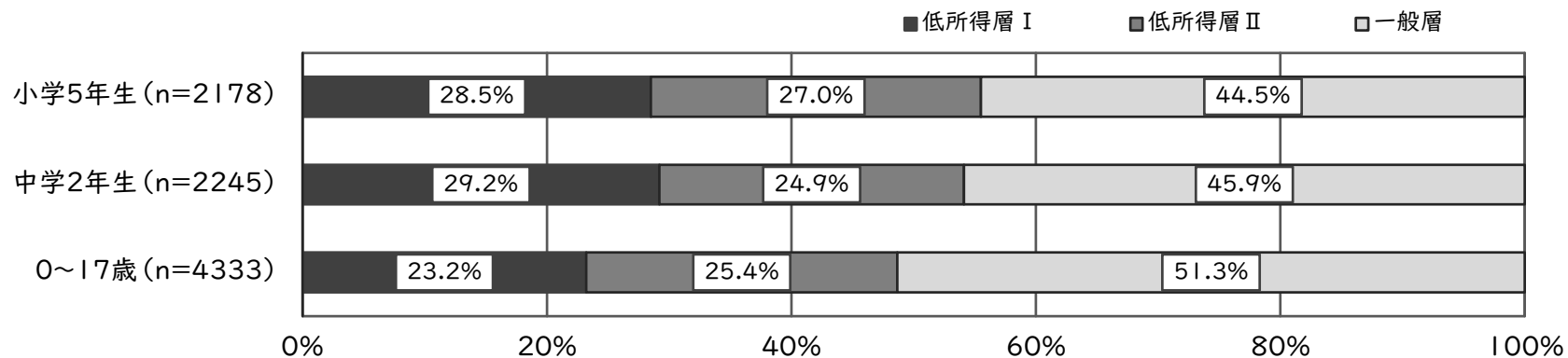
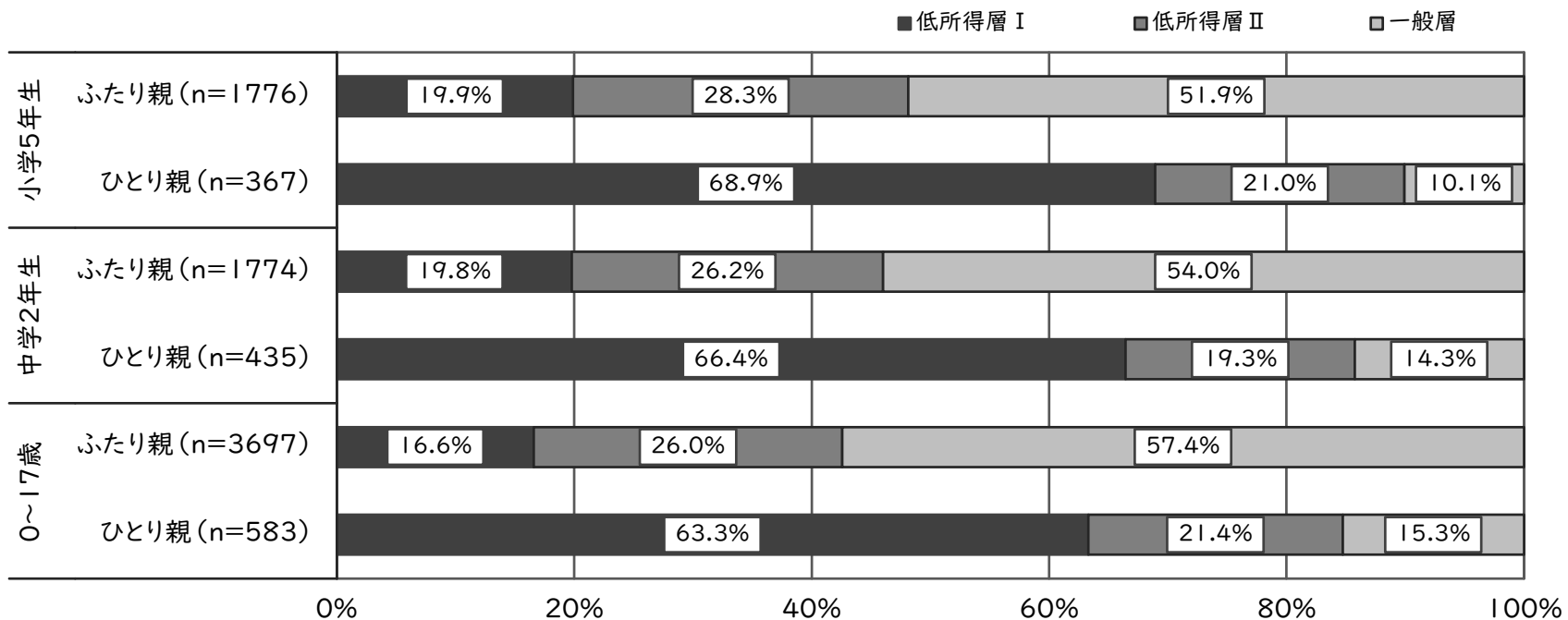


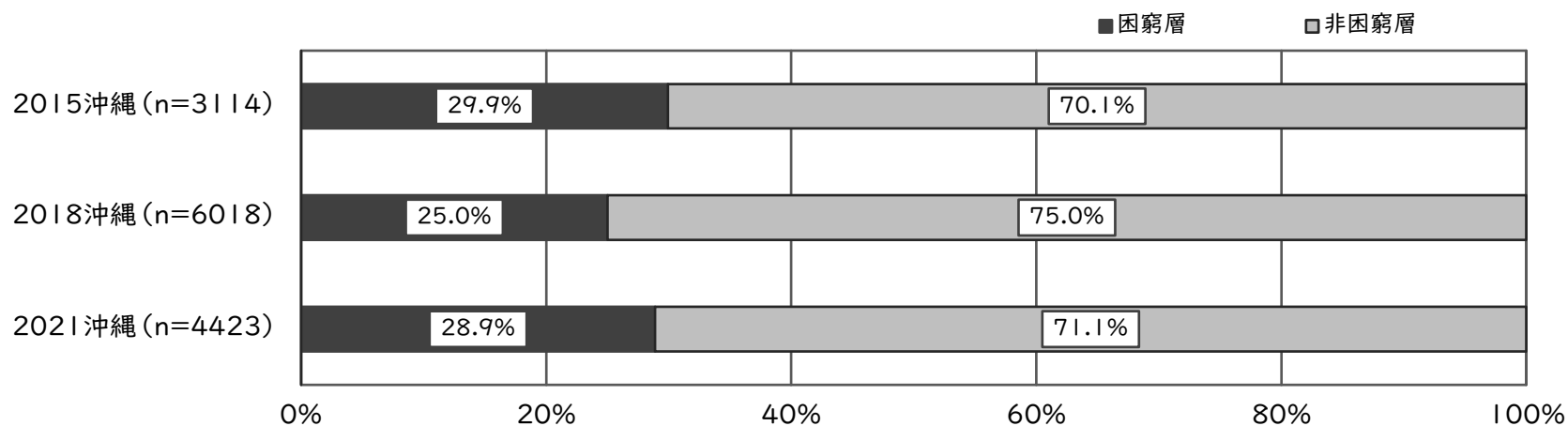
図5-2 【保護者】世帯類型別にみた等価可処分所得による分類



※p<0.01

小学1年生と5年生、中学2年生を対象にした2015年、2018年沖縄県調査（2021年沖縄調査は、小学5年生、中学2年生が対象）と比較すると、2015年から2018年にかけては減少が見られたものの、2018年から2021年にかけては、25.0%から28.9%へと、3.9ポイント上昇しています。

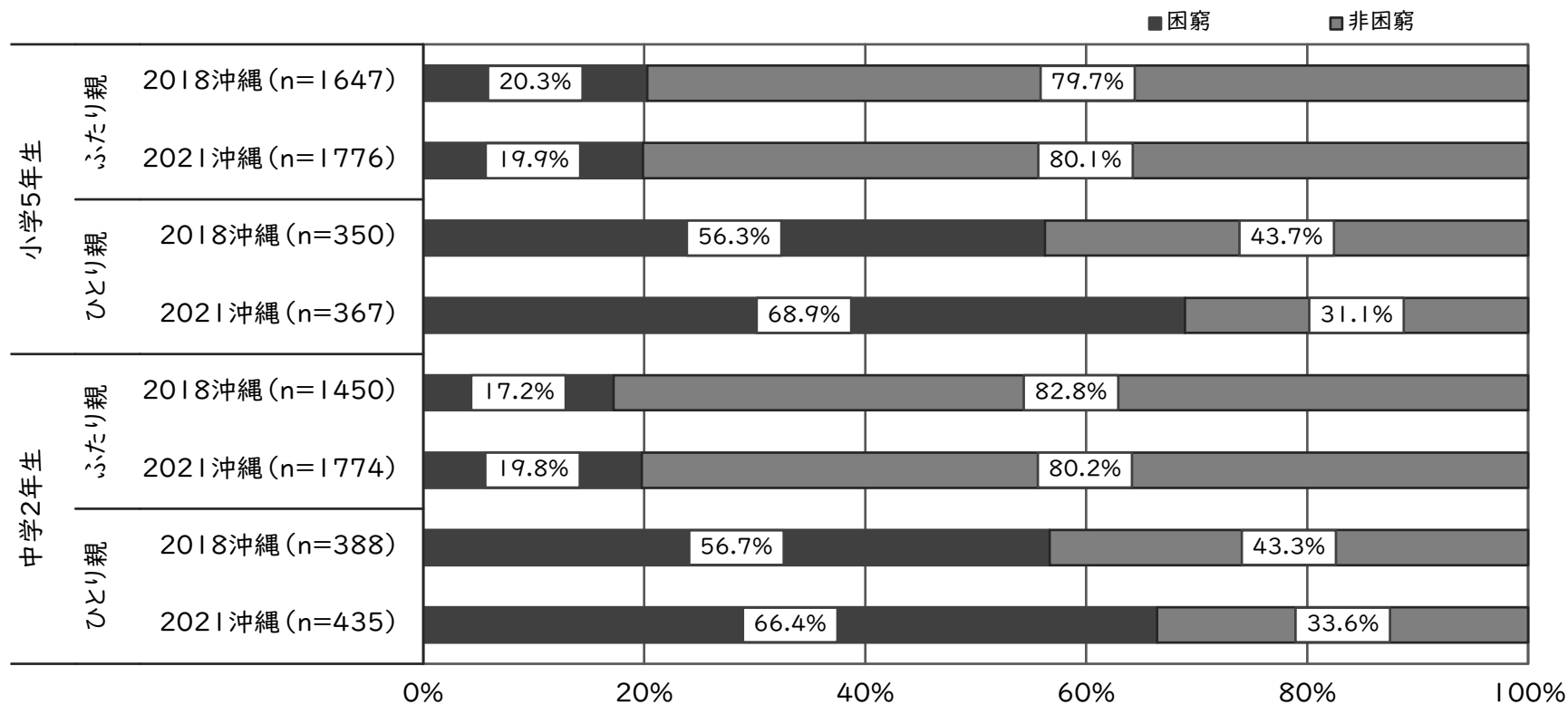
参考【保護者／経年比較】等価可処分所得による分類（2015、2018年は、小1含む）



世帯類型別での経年比較では、ひとり親世帯の困窮層の割合は、小学5年生で12.6ポイント、中学2年生で9.7ポイント高くなっています。

その背景には、等価可処分所得150万円未満の低所得層世帯の割合が、大きくは改善されていないことや(報告書p17、図5-7と図5-8参照)、2020年以降の新型コロナウイルス感染症による経済状況の悪化の影響も考えられます。

図5-6 【保護者／経年比較】世帯類型別にみた等価可処分所得の分布





第1章 保護者の状況

1-1 母親の就労状況(全国比較)

2021年全国調査と比較すると、「正社員・正規職員・会社役員」は沖縄県が4ポイント高くなっていますが、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」は、全国が9.7ポイント高くなっています。

世帯類型別にみると、「正社員・正規職員・会社役員」の割合は、ふたり親世帯では沖縄県のほうが高くなっていますが、ひとり親世帯では沖縄県が低くなっています。

図1-1-4 【中2保護者／母親／全国比較】お子さんの母親の就労状況について、あてはまるものを回答してください

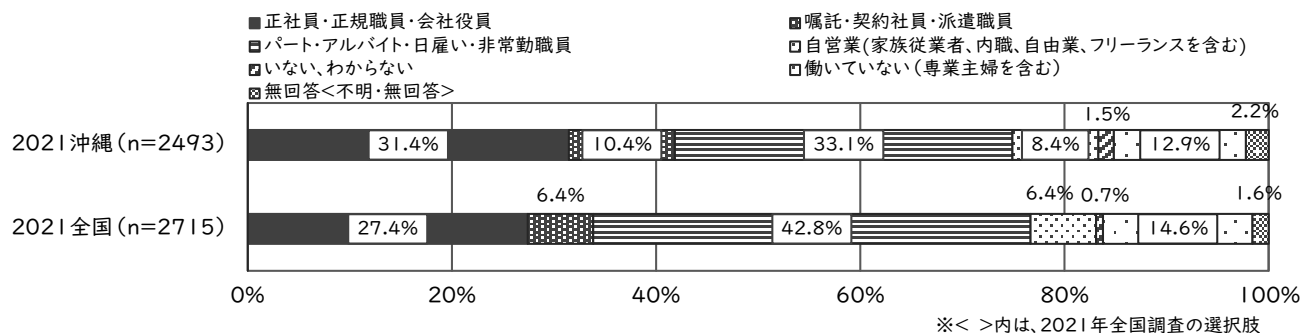
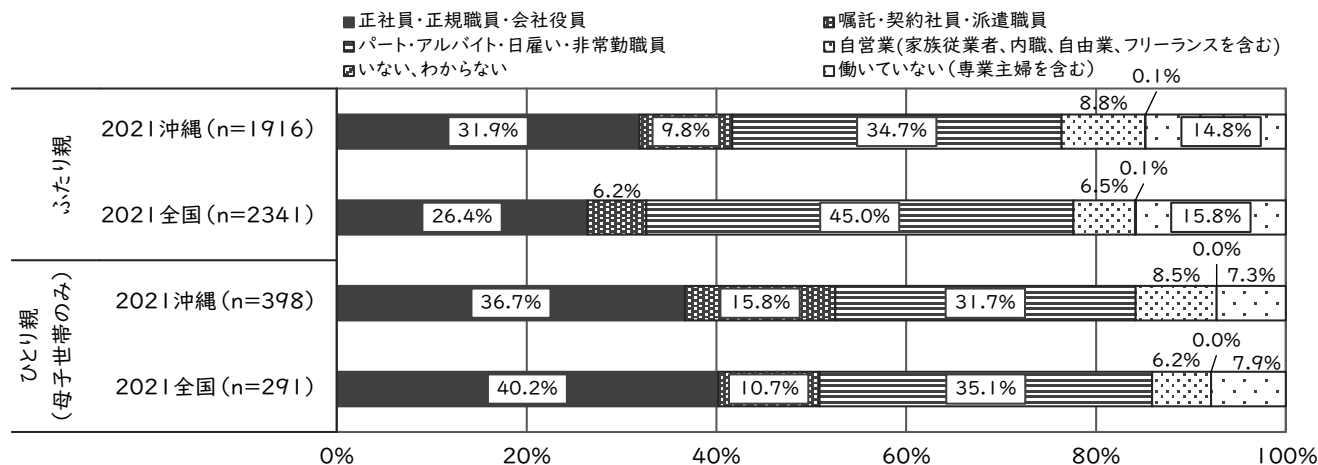


図1-1-5 【中2保護者／母親／全国比較・世帯類型別】

お子さんの母親の就労状況について、あてはまるものを回答してください

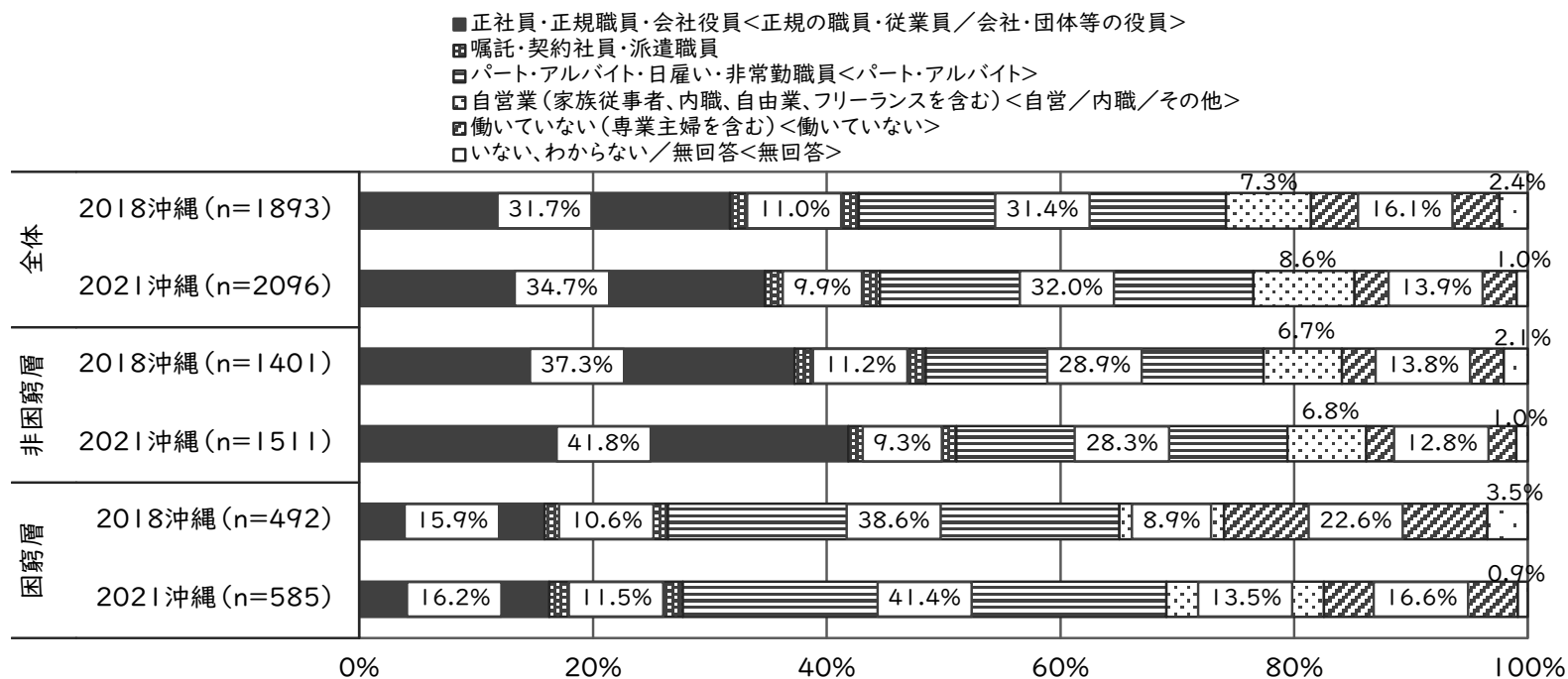


1-2 母親の就労状況（経年比較）

小学5年生では、全体で「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合が、2018年の31.7%から34.7%へと増加しています。特に非困窮層では「正社員・正規職員・会社役員」の増加が顕著で、37.3%から41.8%へと4.5ポイント増加しています。

困窮層では、「働いていない」の割合が2018年の22.6%から2021年の16.6%へと6ポイント減少していますが、「正社員・正規職員・会社役員」の割合はほぼ変化がなく、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」と「自営業」が増加しています。特に「自営業」は、2018年の8.9%から13.5%へと4.6ポイント増加しています。

図1-1-6 【小5保護者／母親／経年比較】就労状況 × 経済状況別

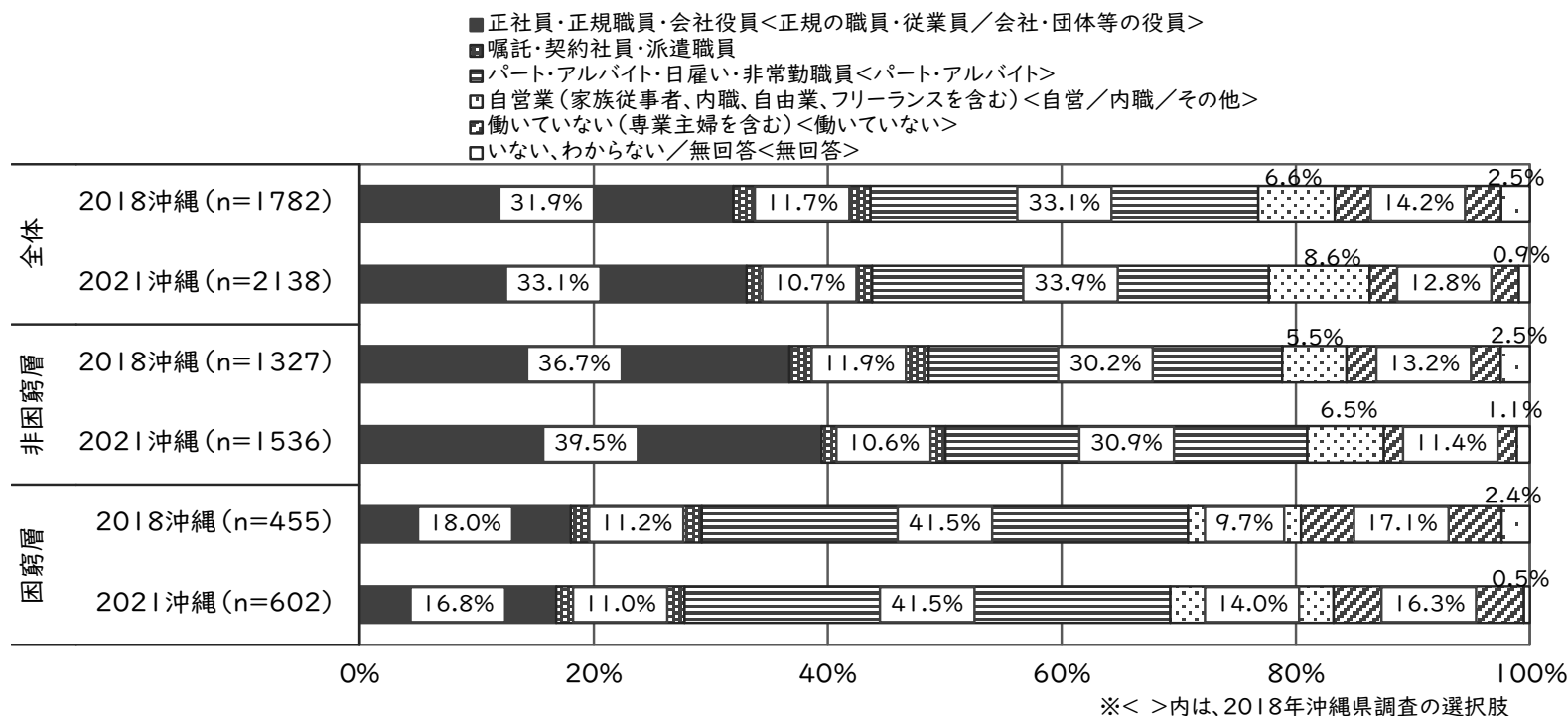


※ < >内は、2018年沖縄県調査の選択肢

中学2年生では、全体で「正社員・正規職員・会社役員」の割合は2018年の31.9%から2021年の33.1%へとやや増加していますが、その増加幅は1.2ポイントで、小学5年生の母親と比べると小幅だと言えます。

非困窮層では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が2018年の36.7%から39.5%に増加しているのに対して、困窮層では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合は18.0%から16.8%へと減少し、「自営業」の割合が9.7%から14.0%へと4.3ポイント増加しています。

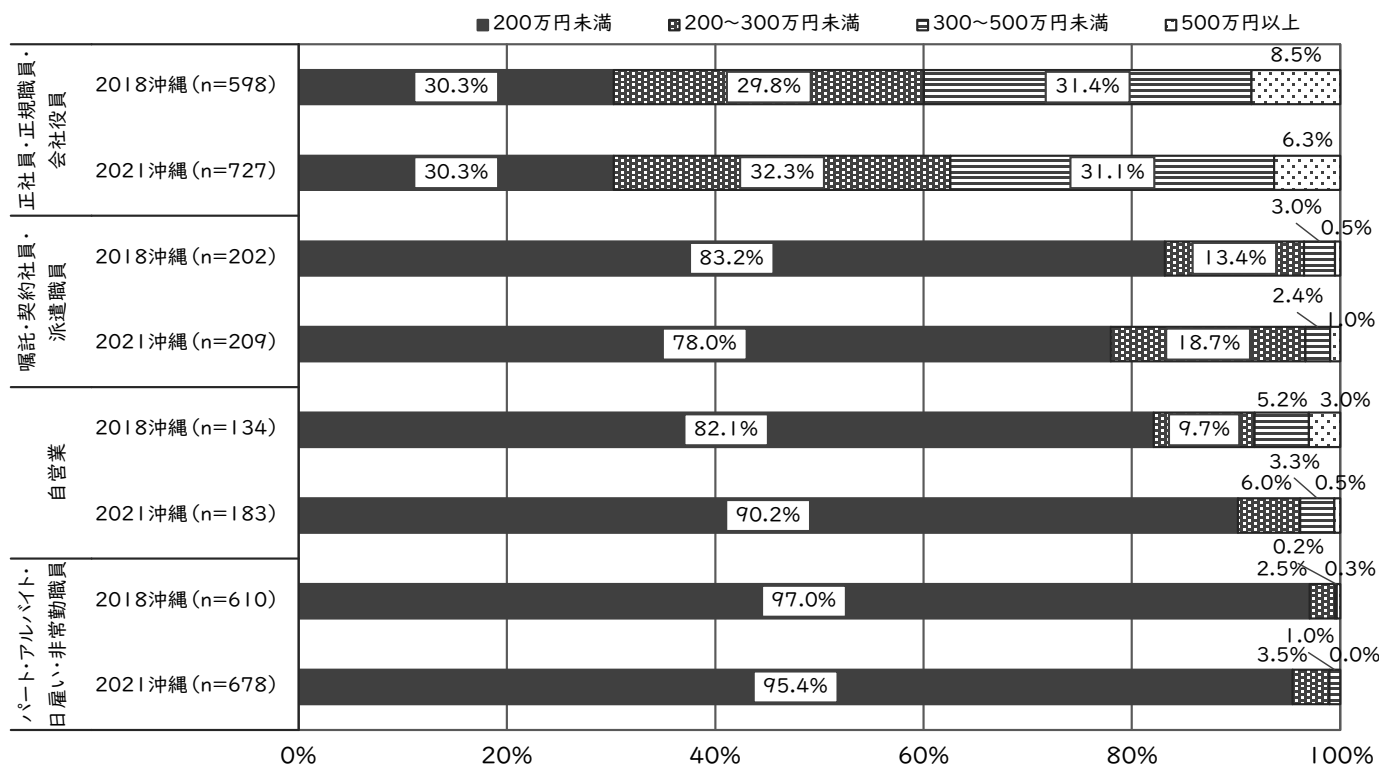
図1-1-7 【中2保護者／母親／経年比較】就労状況 × 経済状況別



1-3 母親の就業形態 × 母親の収入（経年比較）

経年比較において、年収200万円未満の変化を見ると、「正社員・正規職員・会社役員」では両年とも30.3%で変化がなく、「嘱託・契約社員・派遣社員」では83.2%から78.0%へ減少し、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」でも97.0%から95.4%へわずかに減少していますが、「自営業」では82.1%から90.2%へ増加しています。

図1-1-8 【小5保護者／母親／経年比較】母親の就業形態 × 母親の収入

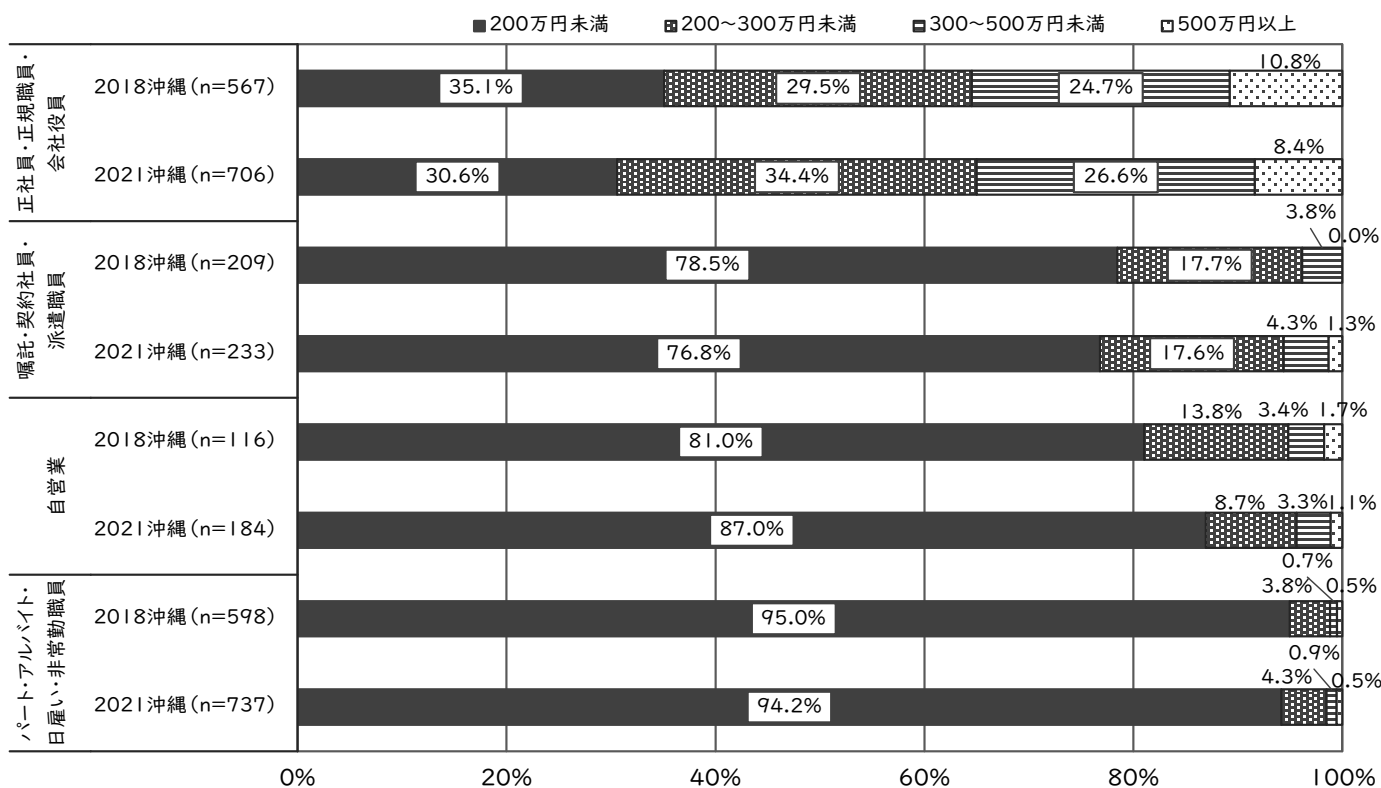


※2018年沖縄県調査の選択肢は、以下の通り(< >内は、2018年沖縄県調査の選択肢)

- ・正社員・正規職員・会社役員<正規の職員・従業員／会社・団体等の役員>
- ・自営業(家族従事者、内職、自由業、フリーランスを含む)<自営／内職／その他>
- ・パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員<パート・アルバイト>

中学2年生でも、小学5年生とほぼ同じ傾向です。

図1-1-9 【中2保護者／母親／経年比較】母親の就業形態 × 母親の収入



※2018年沖縄県調査の選択肢は、以下の通り(< >内は、2018年沖縄県調査の選択肢)

- ・正社員・正規職員・会社役員<正規の職員・従業員/会社・団体等の役員>
- ・自営業(家族従事者、内職、自由業、フリーランスを含む)<自営/内職/その他>
- ・パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員<パート・アルバイト>

1-4 父親の就労状況(全国比較)

2021年全国調査と比較すると、「正社員・正規職員・会社役員」の割合は、沖縄県が62.6%と全国の78.1%と比べて15.5ポイント低くなっています。それに対して、「嘱託・契約社員・派遣職員」と「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合では、沖縄県が全国よりも高くなっていることがわかります。

図1-4-4 【中2保護者／父親／全国比較】お子さんの父親の就労状況について、あてはまるものを回答してください

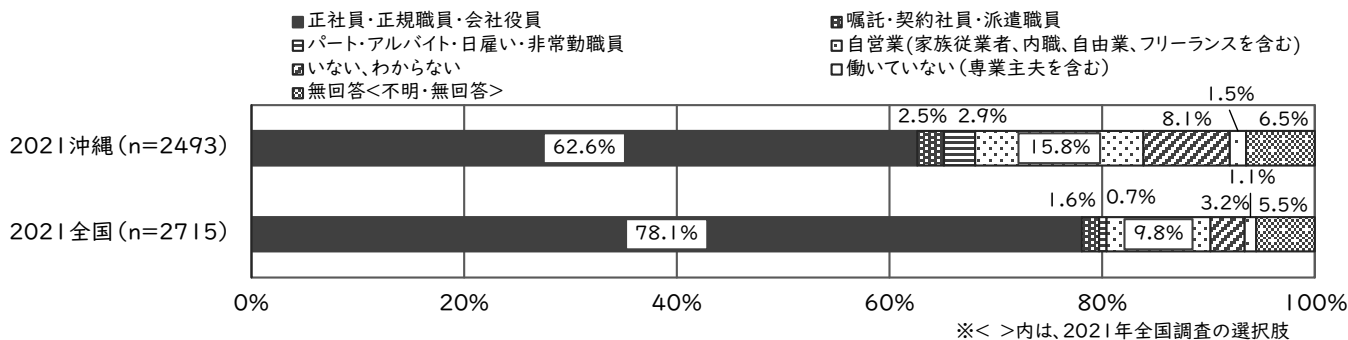
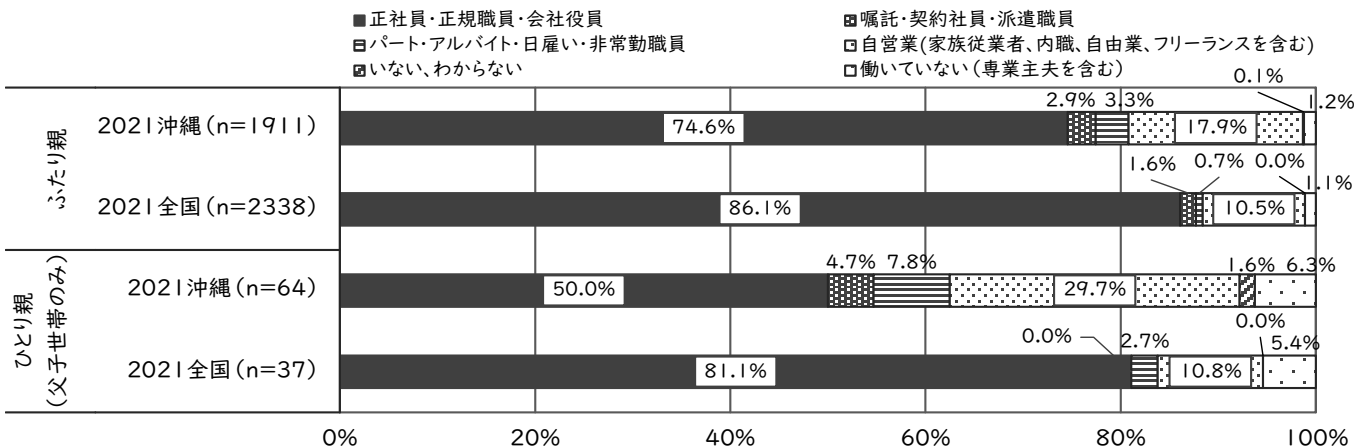


図1-4-5 【中2保護者／父親／全国比較・世帯類型別】

お子さんの父親の就労状況について、あてはまるものを回答してください

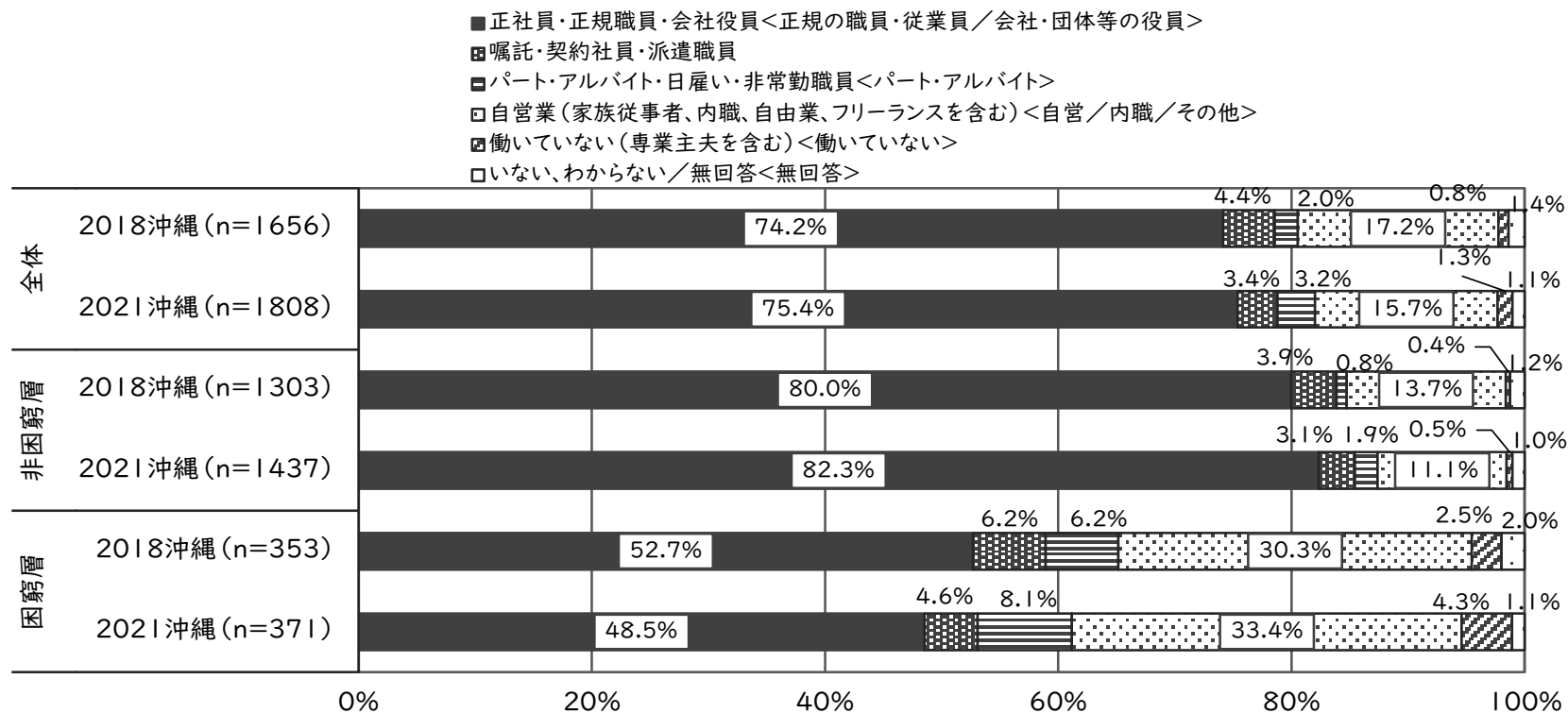


1-5 父親の就労状況（経年比較）

経年比較を見ると、小学5年生では、非困窮層の「正社員・正規職員・会社役員」の割合が、2018年の80.0%から2021年の82.3%へ2.3ポイント増加しています。

他方、困窮層では、「正社員・正規職員・会社役員」は2018年の52.7%から48.5%へと4.2ポイント減少し、「自営業」が2018年の30.3%から33.4%へ3.1ポイント増加しています。

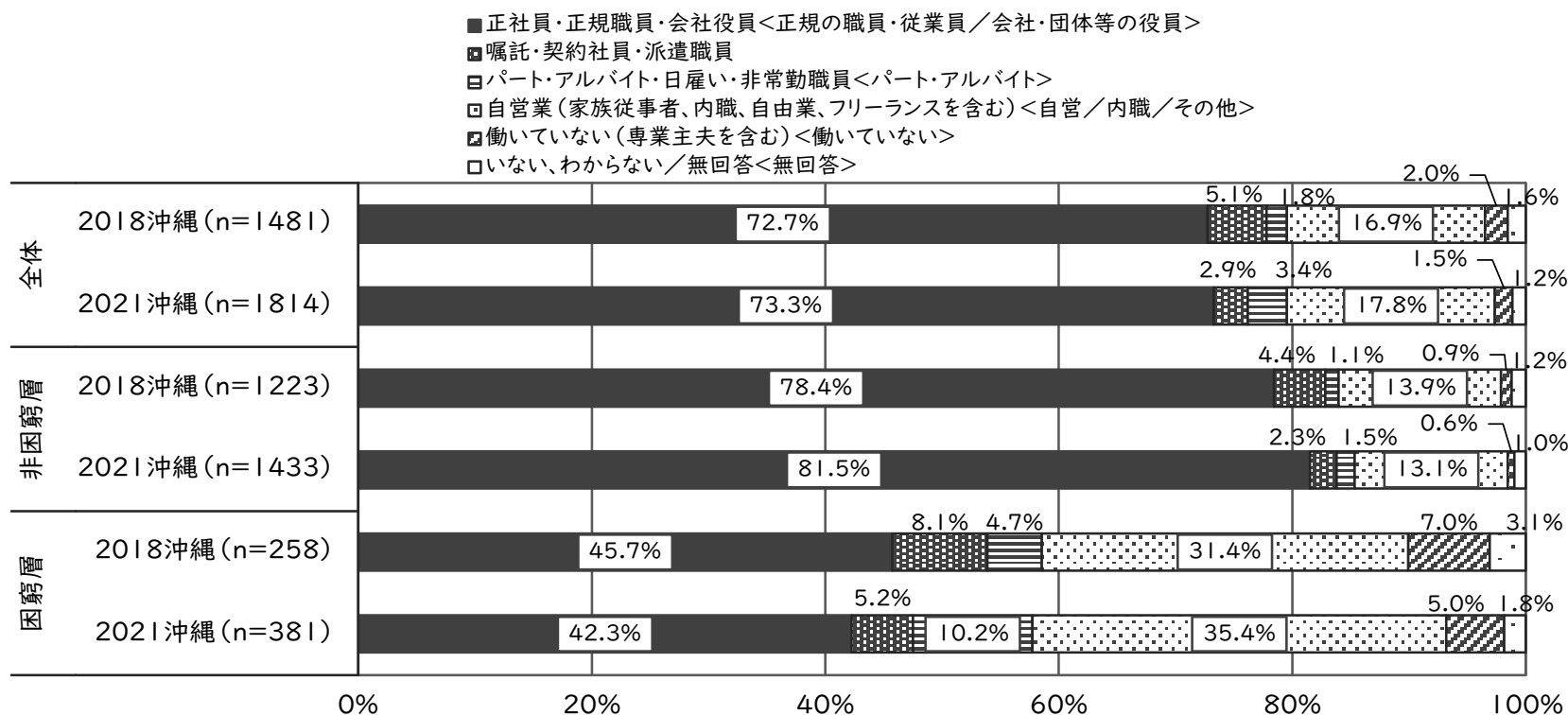
図1-4-6 【小5保護者／父親／経年比較】就労状況 × 経済状況別



※< >内は、2018年沖縄県調査の選択肢

中学2年生では、小学5年生とほぼ同様に、非困窮層では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が、2018年の78.4%から2021年の81.5%へ3.1ポイント増加しているのに対して、困窮層では、その割合が2018年の45.7%から42.3%へと3.4ポイント減少しています。また、困窮層での「自営業」の割合は、2018年の31.4%から35.4%へ4ポイント増加しています。

図1-4-7 【中2保護者／父親／経年比較】就労状況 × 経済状況別

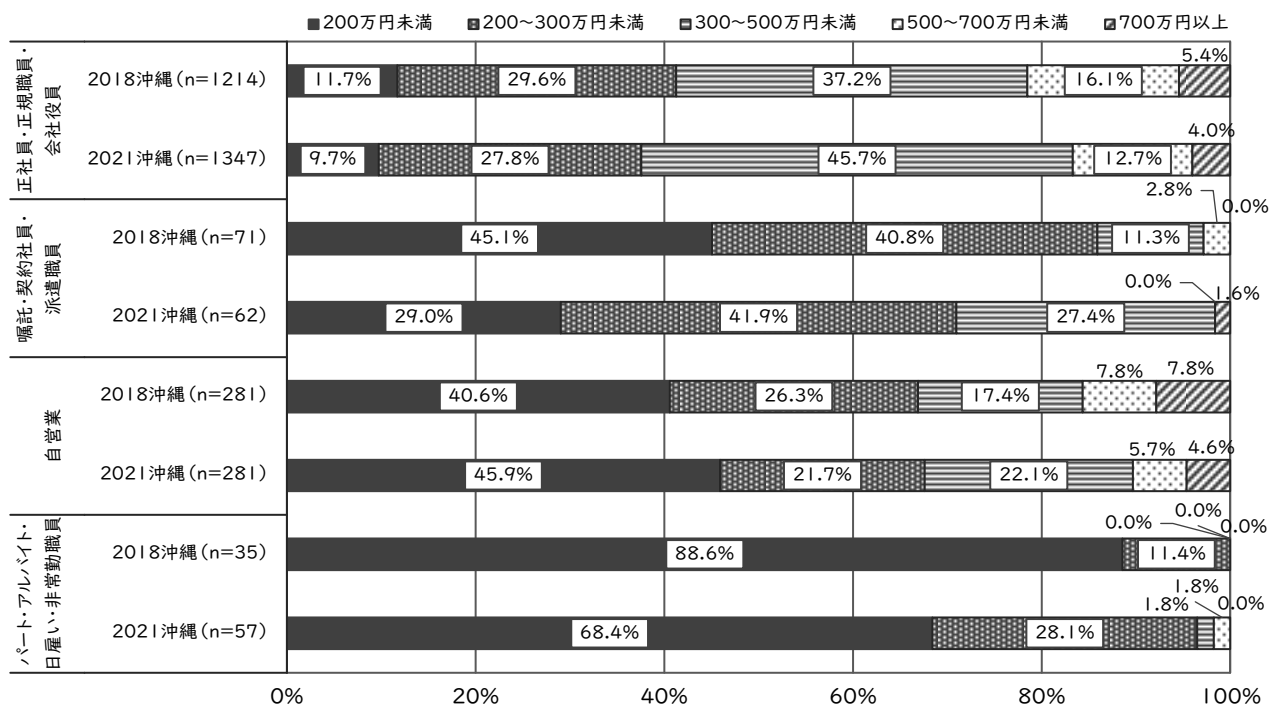


※< >内は、2018年沖縄県調査の選択肢

1-6 父親の就業形態 × 父親の収入（経年比較）

小学5年生の経年比較では、「正社員・正規職員・会社役員」は、200万円未満の割合が2018年の11.7%から9.7%へ、200～300万未満の割合が29.6%から27.8%へと減少しており、収入状況にはやや改善が見られます。「嘱託・契約社員・派遣職員」と「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」でも、200万円未満の割合がそれぞれ45.1%から29.0%、88.6%から68.4%へ減少しています。これに対して、「自営業」では、200万円未満の割合が2018年の40.6%から45.9%に増加しており、全体として収入がやや減少していることがわかります。

図1-4-8 【小5保護者／父親／経年比較】父親の就業形態 × 父親の収入

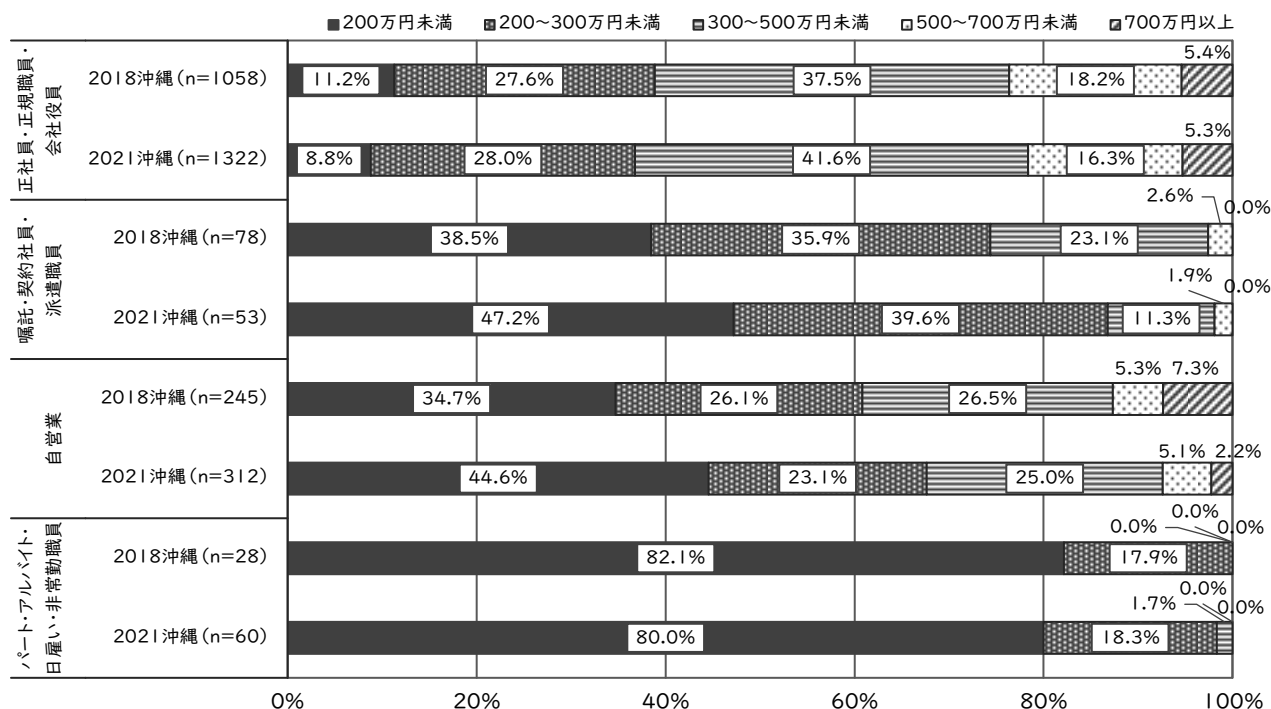


※2018年沖縄県調査の選択肢は、以下の通り(< >内は、2018年沖縄県調査の選択肢)

- ・正社員・正規職員・会社役員<正規の職員・従業員／会社・団体等の役員>
- ・自営業(家族従事者、内職、自由業、フリーランスを含む)<自営／内職／その他>
- ・パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員<パート・アルバイト>

中学2年生の経年比較では、「正社員・正規職員・会社役員」では、200万円未満の割合が2018年の11.2%から8.8%へと減少しており、200～300万円未満を加えて見ても300万円未満の低収入の割合は若干減少していると言えます。他方、「自営業」では、200万円未満の割合が2018年の34.7%から約10ポイントも増加しており、その結果200～300万円未満を加えて見ても300万円未満の低収入の割合が増加していることがわかります。

図1-4-9 【中2保護者／父親／経年比較】父親の就業形態 × 父親の収入



※2018年沖縄県調査の選択肢は、以下の通り(< >内は、2018年沖縄県調査の選択肢)

- ・正社員・正規職員・会社役員<正規の職員・従業員/会社・団体等の役員>
- ・自営業(家族従事者、内職、自由業、フリーランスを含む)<自営/内職/その他>
- ・パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員<パート・アルバイト>

1-7 新型コロナウイルス感染症による影響（経済状況別）

世帯の困窮度別に新型コロナウイルス感染症による世帯収入への影響を見ると、困窮度の高い世帯ほど影響を受けており、特に貧困層において1割以上の減収となっているのが、小学5年生で63.2%、中学2年生で65.3%、0~17歳で67.1%と、深刻な影響を受けていることがわかります。

図1-6-1*【小5保護者】あなたの世帯では、新型コロナウイルスの感染拡大（2020年2月頃）の前と比べて、現在の世帯収入は減りましたか

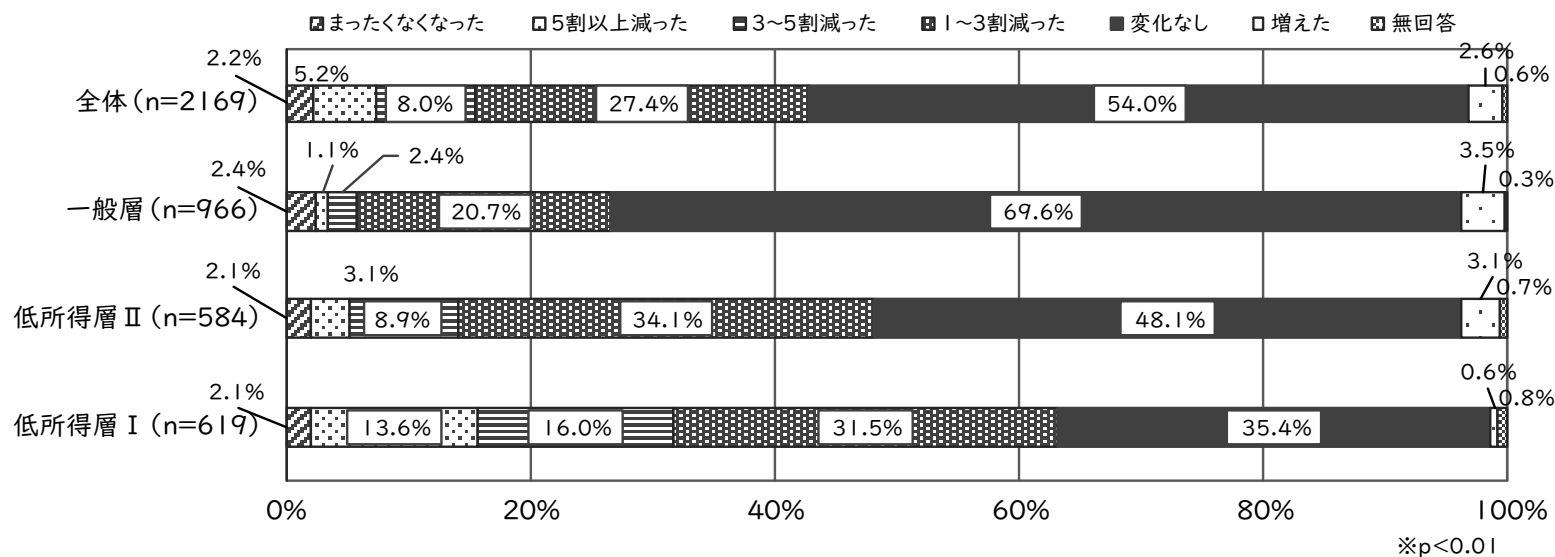


図1-6-2*【中2保護者】あなたの世帯では、新型コロナウイルスの感染拡大(2020年2月頃)の前と比べて、現在の世帯収入は減りましたか

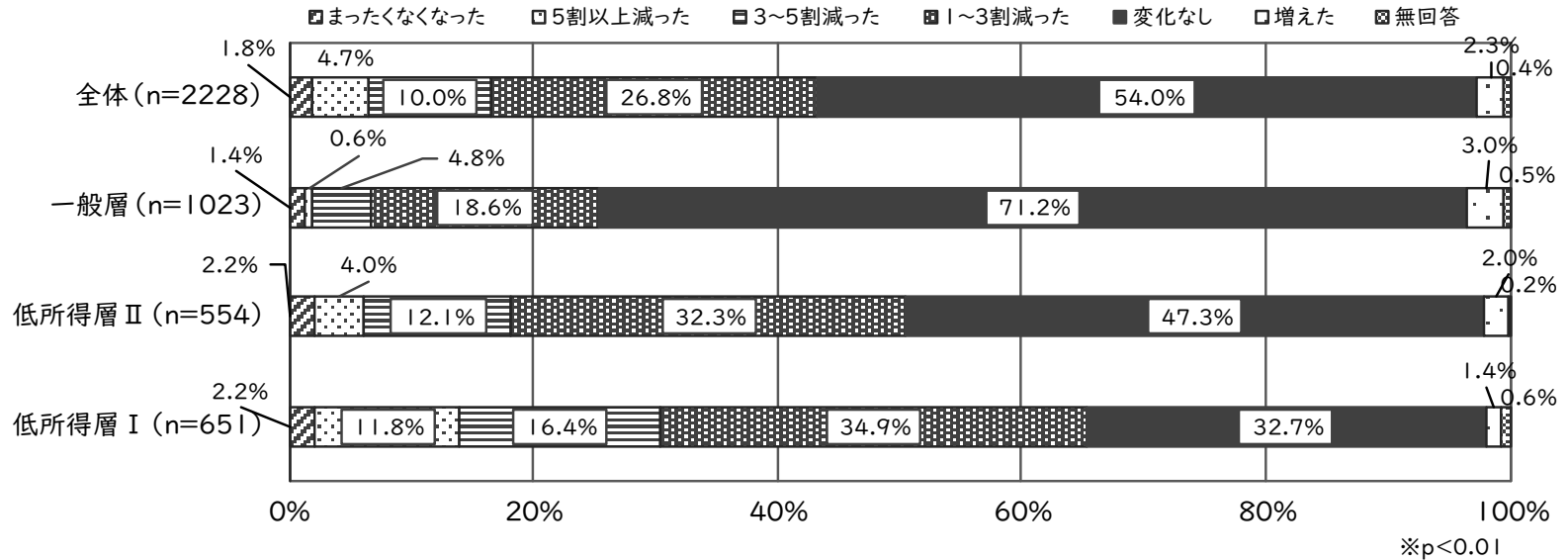
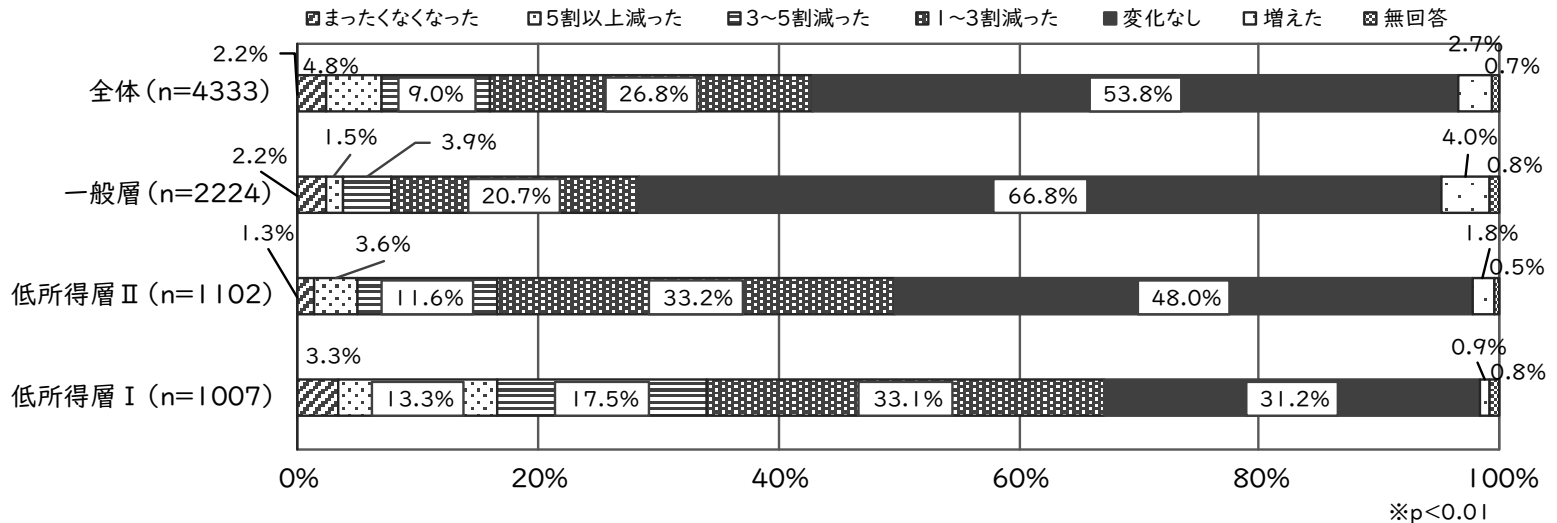


図1-6-3*【0~17歳保護者】あなたの世帯では、新型コロナウイルスの感染拡大(2020年2月頃)の前と比べて、現在の世帯収入は減りましたか

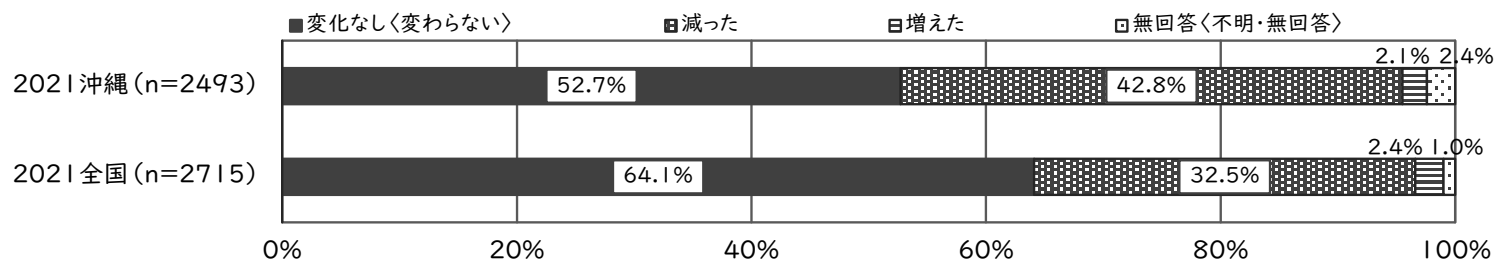


1-8 新型コロナウイルス感染症による影響（全国比較）

2021年全国調査と比較しています。2021年全国調査の選択肢にあわせて、本調査の「1~3割減った」「3~5割減った」「5割以上減った」「まったくなくなった」を「減った」にまとめて集計しています。

収入が「減った」割合は、沖縄県では42.8%と全国の32.5%よりも約10ポイント高くなっています。

図1-6-10 【中2保護者／全国比較】新型コロナウイルス感染拡大前と比べた世帯収入の変化



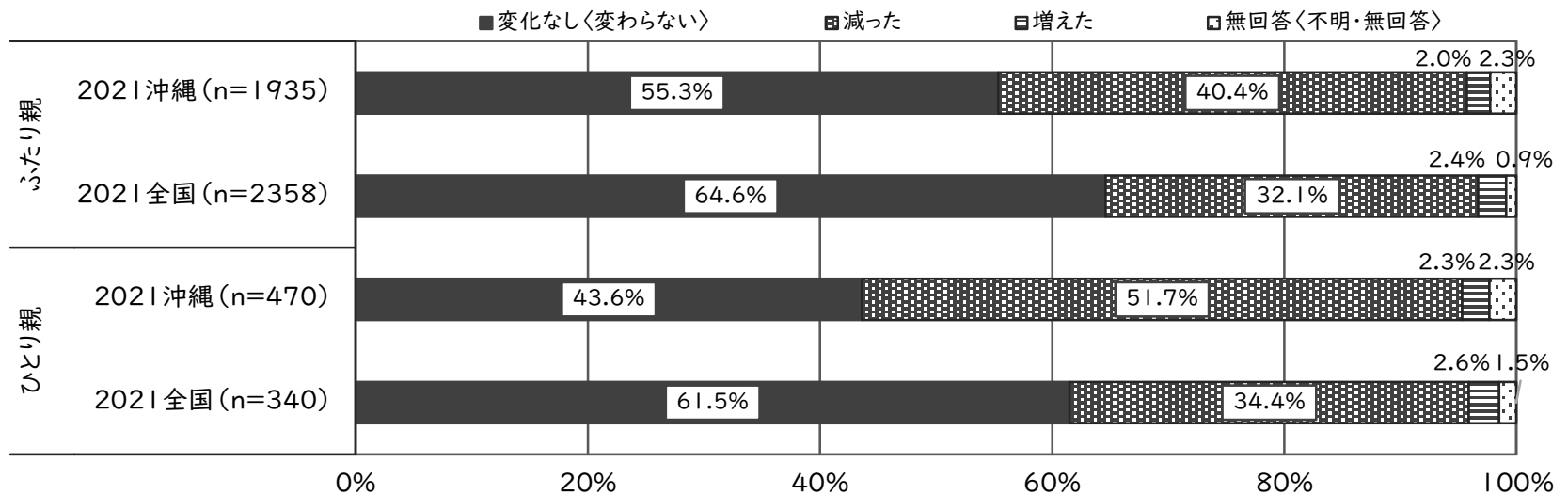
※< >内は、2021年全国調査の選択肢

※2021年全国調査の質問文は、「あなたのご家庭での現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。a.世帯全体の収入の変化」

※比較のため、2021年沖縄県調査の選択肢における、「1~3割減った」「3~5割減った」「5割以上減った」「まったくなくなった」を「減った」にまとめて集計した

世帯類型別に比較すると、収入が「減った」割合は、全国ではふたり親世帯が32.1%、ひとり親世帯が34.4%とその差は比較的小さくなっていますが、沖縄県ではふたり親世帯が40.4%に対してひとり親世帯が51.7%とひとり親世帯が10ポイント以上高くなっています。

図1-6-11 【中2保護者／全国比較・世帯類型別】新型コロナウイルス感染拡大前と比べた世帯収入の変化



※< >内は、2021年全国調査の選択肢

※2021年全国調査の質問文は、「あなたのご家庭での現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。a.世帯全体の収入の変化」

※比較のため、2021年沖縄県調査の選択肢における、「1～3割減った」「3～5割減った」「5割以上減った」「まったくなくなった」を「減った」にまとめて集計した

第2章

学校・学習状況について

2-1 進路について(児童・生徒)

経済状況別に見ると、小学5年生、中学2年生ともに、「大学またはそれ以上」は所得が低くなるほど割合が低くなるのに対し、「高校まで」は所得が低くなるほど割合が高くなっています。

図2-3-1 【小5児童】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか

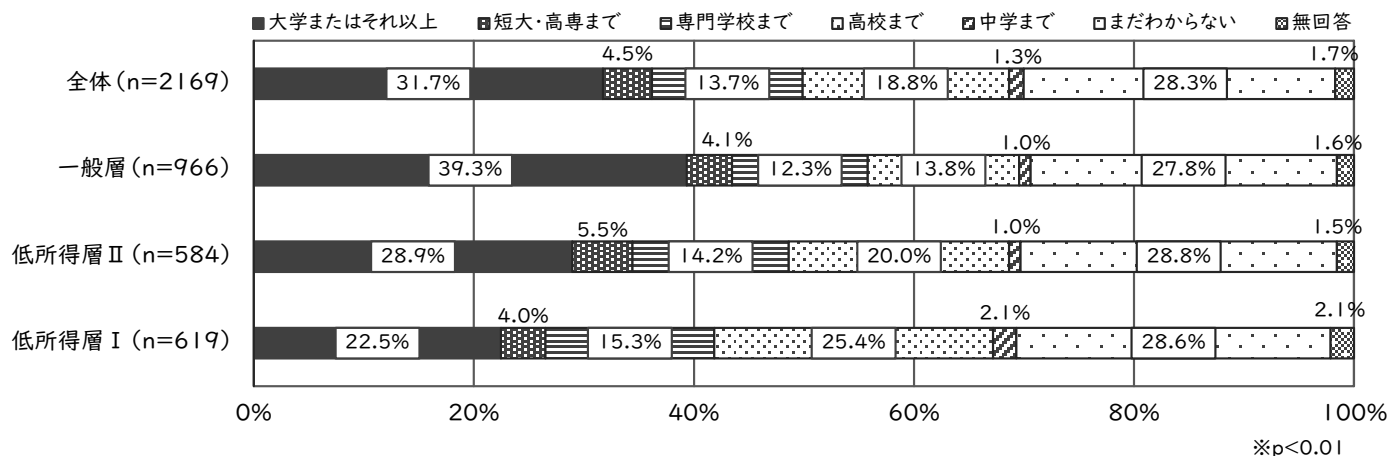
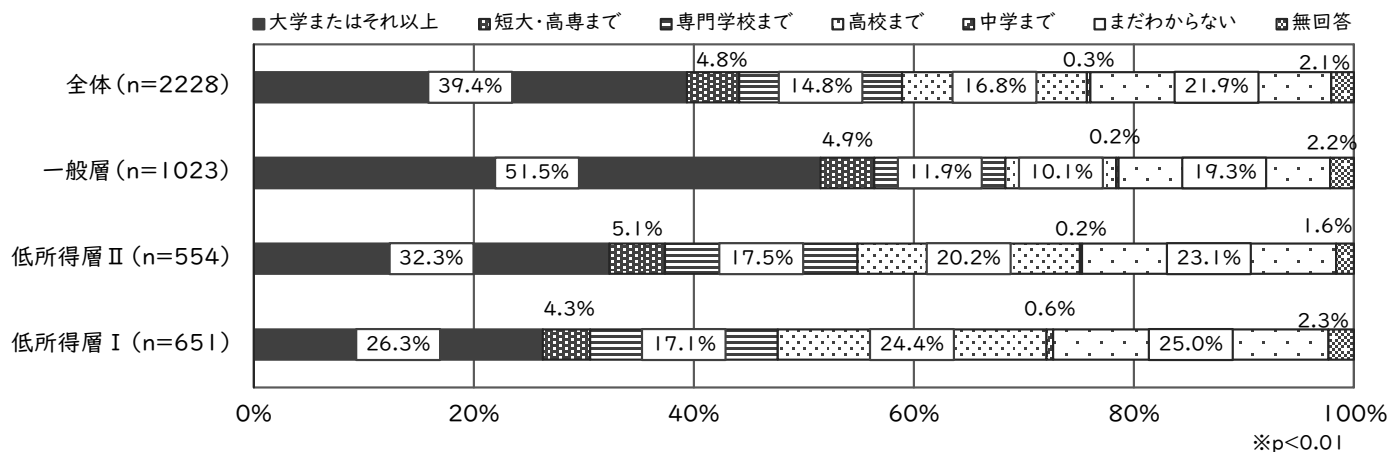


図2-3-2 【中2生徒】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか



2-2 進路について(児童・生徒/全国比較)

2021年全国調査と比較すると、全国の49.7%が「大学またはそれ以上」としているのに対し、沖縄県は39.3%となっています。

世帯類型別では、全国のふたり親世帯の51.8%が「大学またはそれ以上」と答えたのに対し、沖縄県は41.6%にとどまっていますが、ひとり親世帯では、全国と沖縄県で大きな差はありません。

図2-3-3 【中2生徒/全国比較】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか

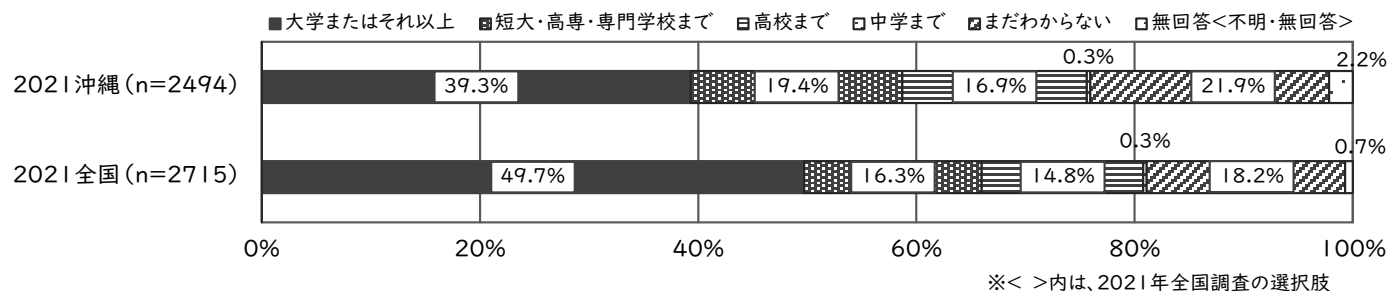
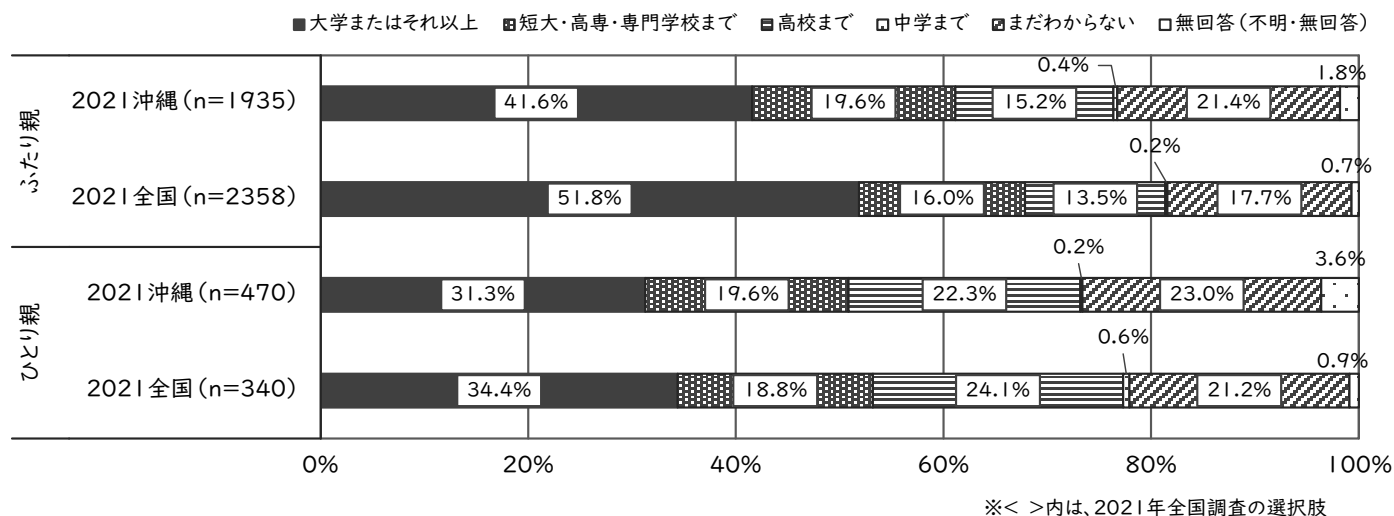


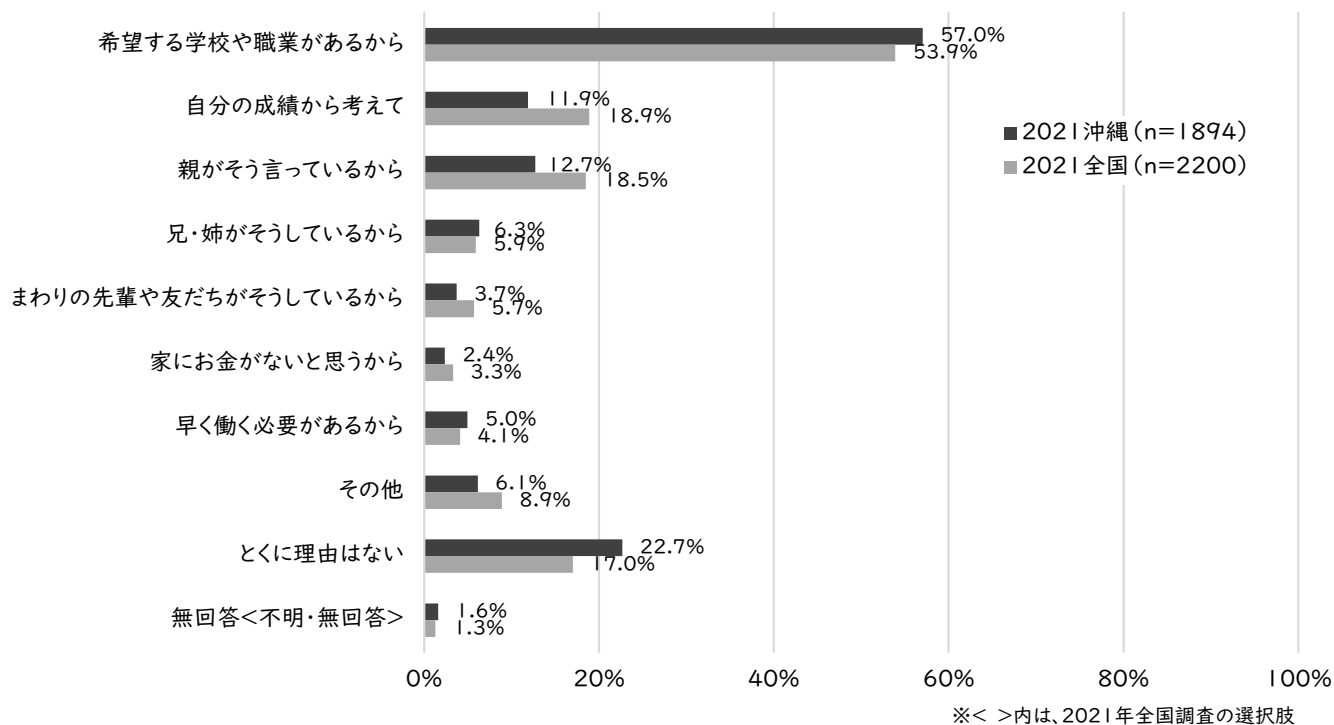
図2-3-4 【中2生徒/全国比較・世帯類型別】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか



2-3 選択した理由（児童・生徒／全国比較）

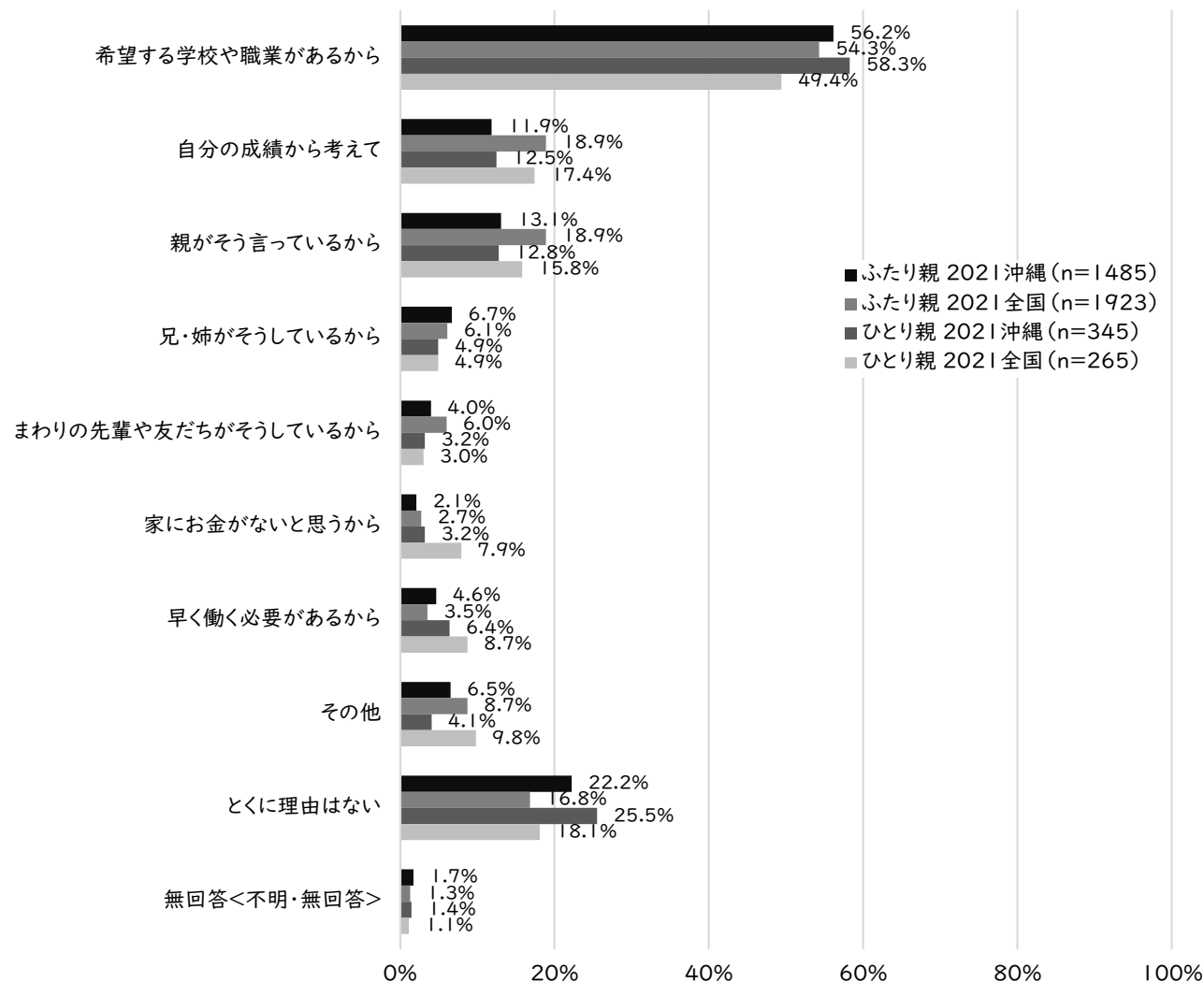
2021年全国調査との比較では、「自分の成績から考えて」が全国18.9%に対し、沖縄県は11.9%、「親がそう言っているから」は全国18.5%に対し、沖縄県は12.7%と全国に比べて5ポイント以上低くなっています。

図2-3-7 【中2生徒／全国比較】その理由を教えてください（複数選択）



世帯類型別に比較すると、ひとり親世帯で「希望する学校や職業があるから」と答えたのは全国が49.4%であるのに対し、沖縄県は58.3%と高くなっていました。

図2-3-8 【中2生徒／全国比較・世帯類型別】その理由を教えてください(複数選択)



※ < >内は、2021年全国調査の選択肢

2-4 進路について(保護者)

保護者にお子さんの将来の現実的な進学先を尋ねたところ、小学5年生、中学2年生ともに、「大学またはそれ以上」は所得が低くなるほど低くなるのに対し、「専門学校まで」「高校まで」は所得が低くなるほど高くなっています。

図2-4-1 【小5保護者】お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか

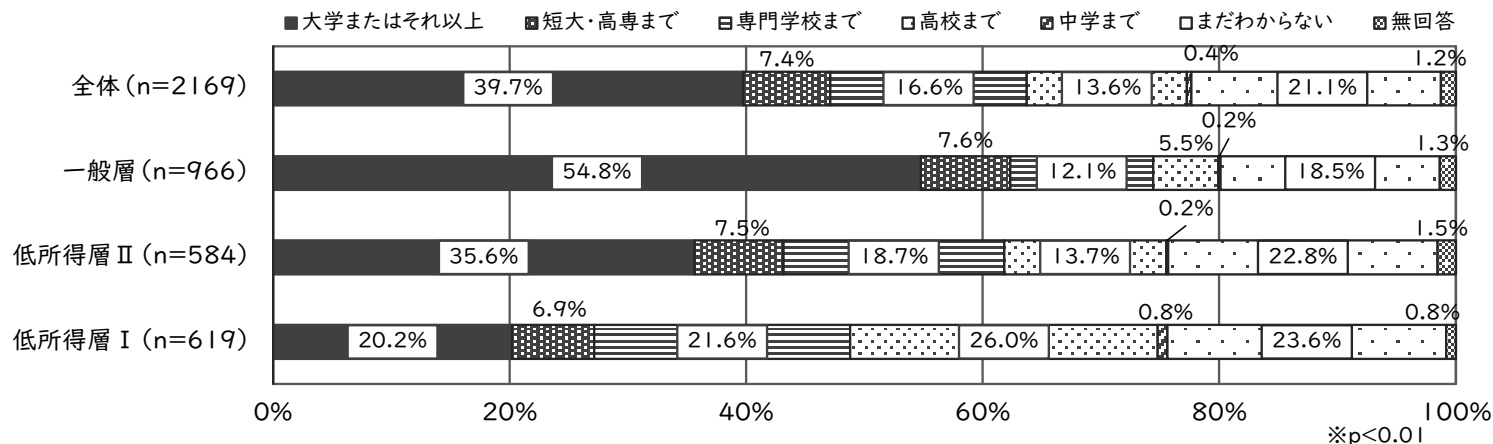
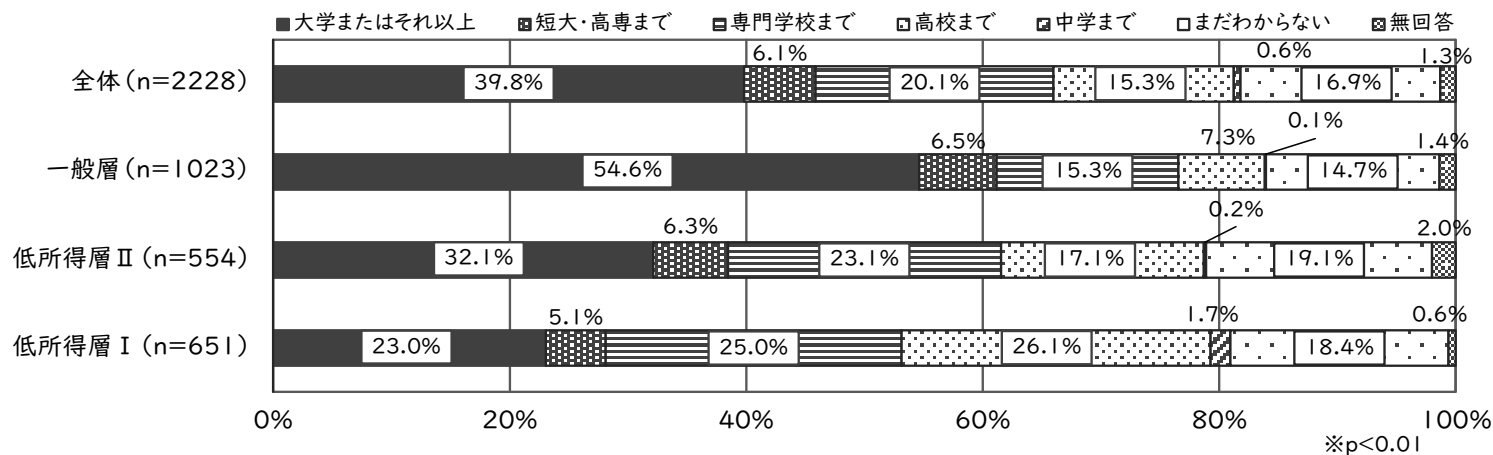


図2-4-2 【中2保護者】お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか



2-5 進路について(保護者/全国比較)

2021年全国調査と比較すると、「大学またはそれ以上」は、全国が50.1%に対し、沖縄県は38.9%と沖縄県が低くなっていますが、「短大・高専・専門学校まで」は沖縄県のほうが高くなります。

世帯類型別では、ひとり親世帯において「高校まで」は、全国33.2%に対し沖縄県は23.6%と低くなっていますが、「まだわからない」とする保護者が全国より8.1ポイント高くなっています。

図2-4-3 【中2保護者/全国比較】お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか

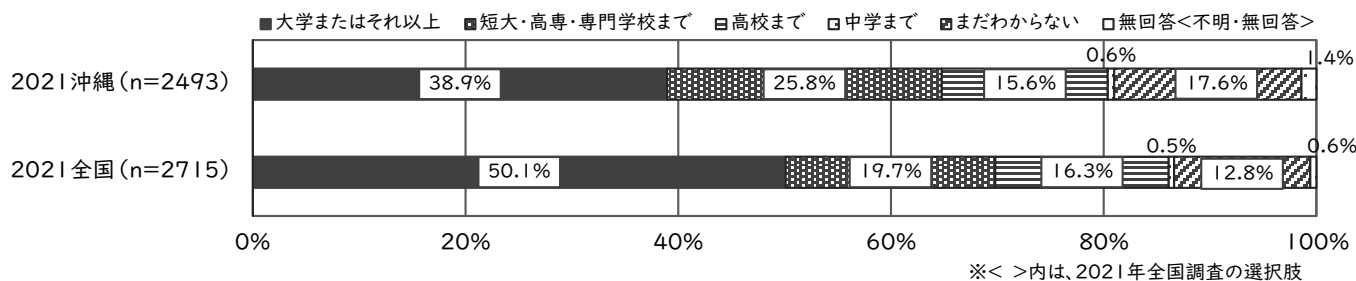
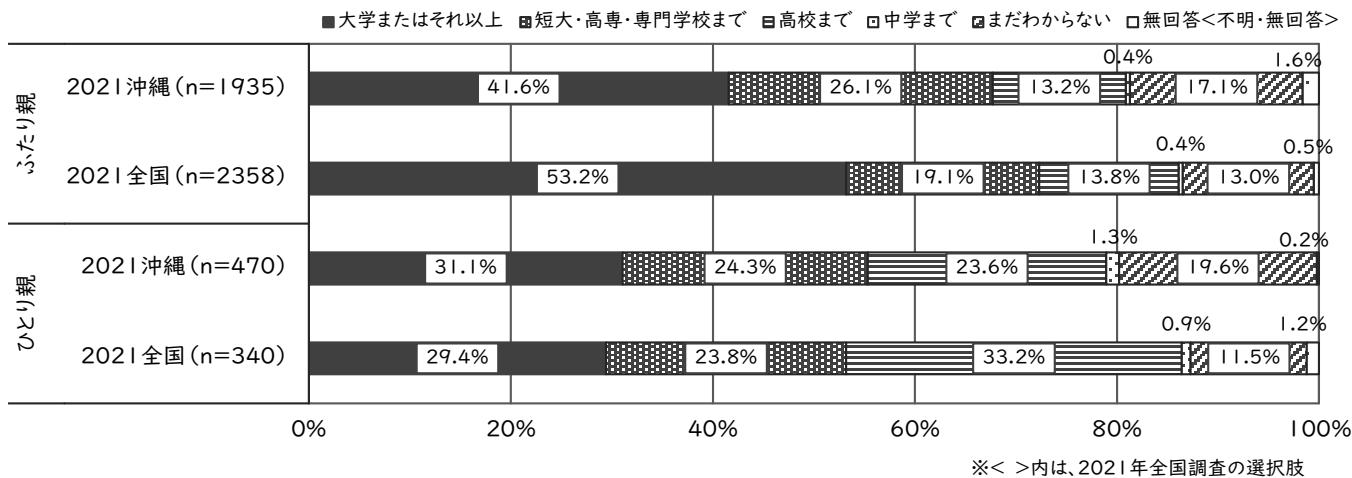


図2-4-4 【中2保護者/全国比較・世帯類型別】

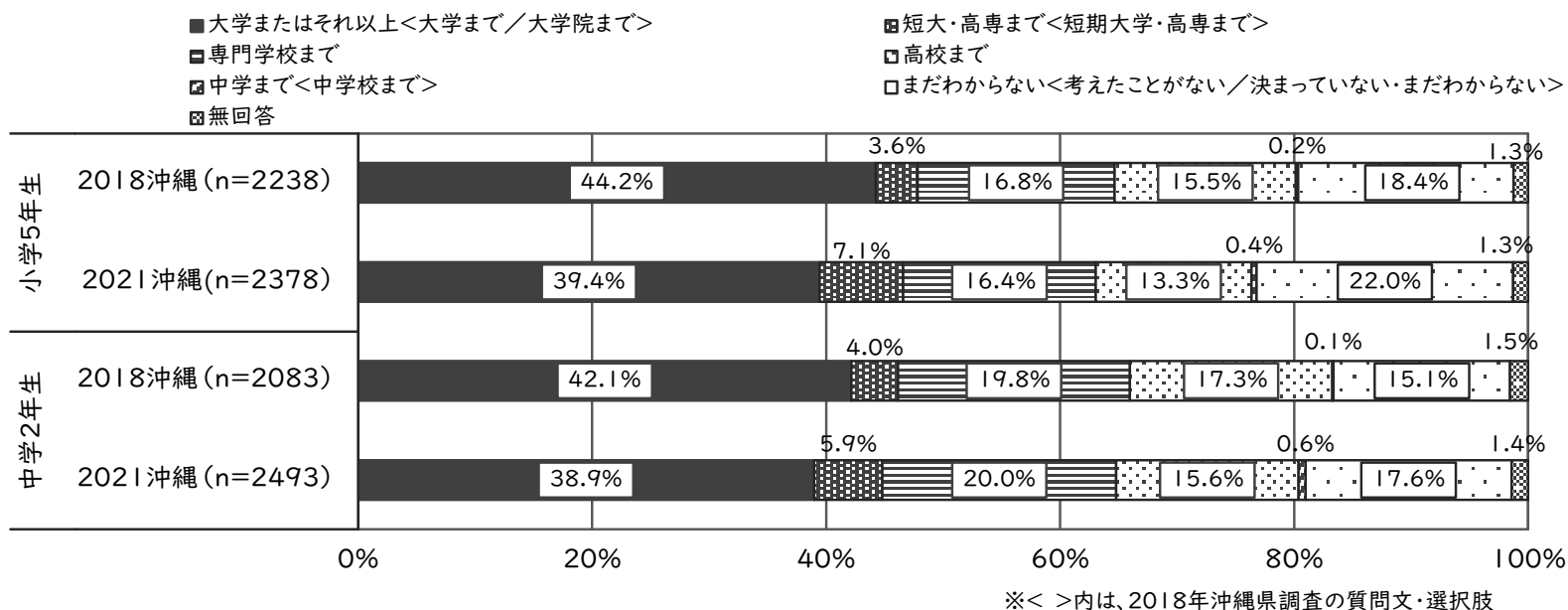
お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか



2-6 進路について(保護者/経年比較)

2018年沖縄県調査との比較では、小学5年生、中学2年生ともに「大学またはそれ以上」の割合が減り、「短大・高専まで」と「まだわからない」が増えています。

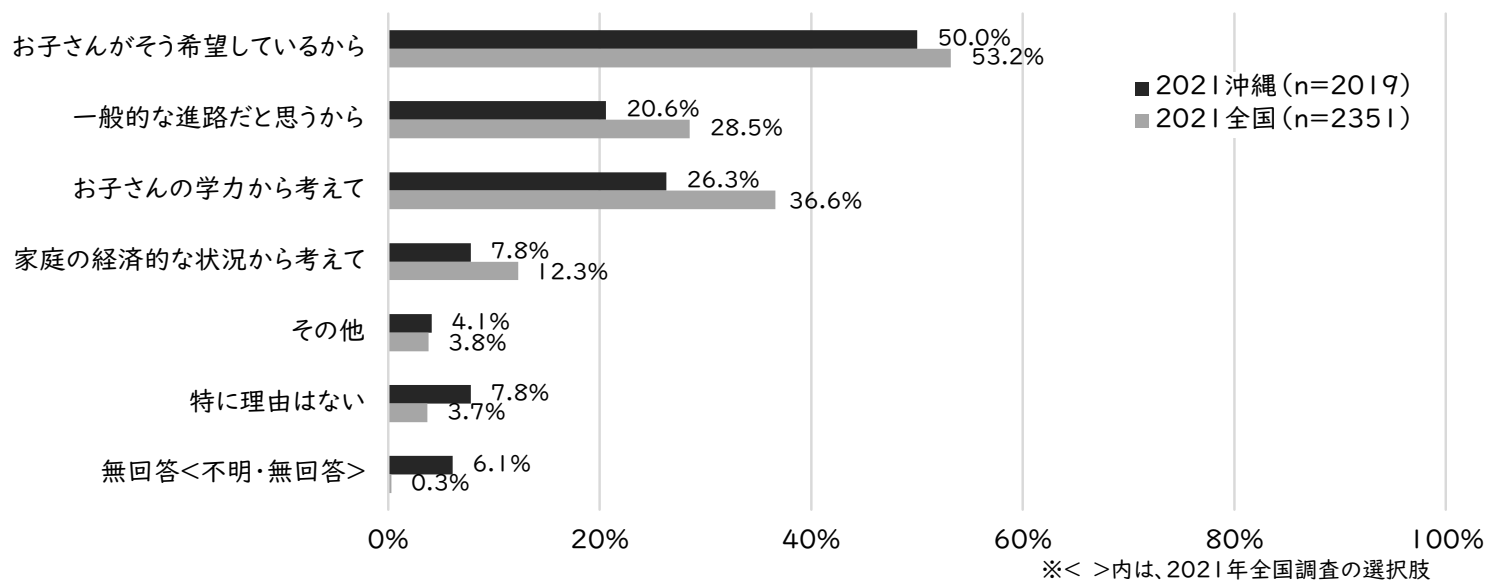
図2-4-5 【小5・中2保護者/経年比較】お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか
 <あなたのお子さんを、現実的には、将来どの学校まで行かせると思いますか>



2-7 選択した理由（保護者／全国比較）

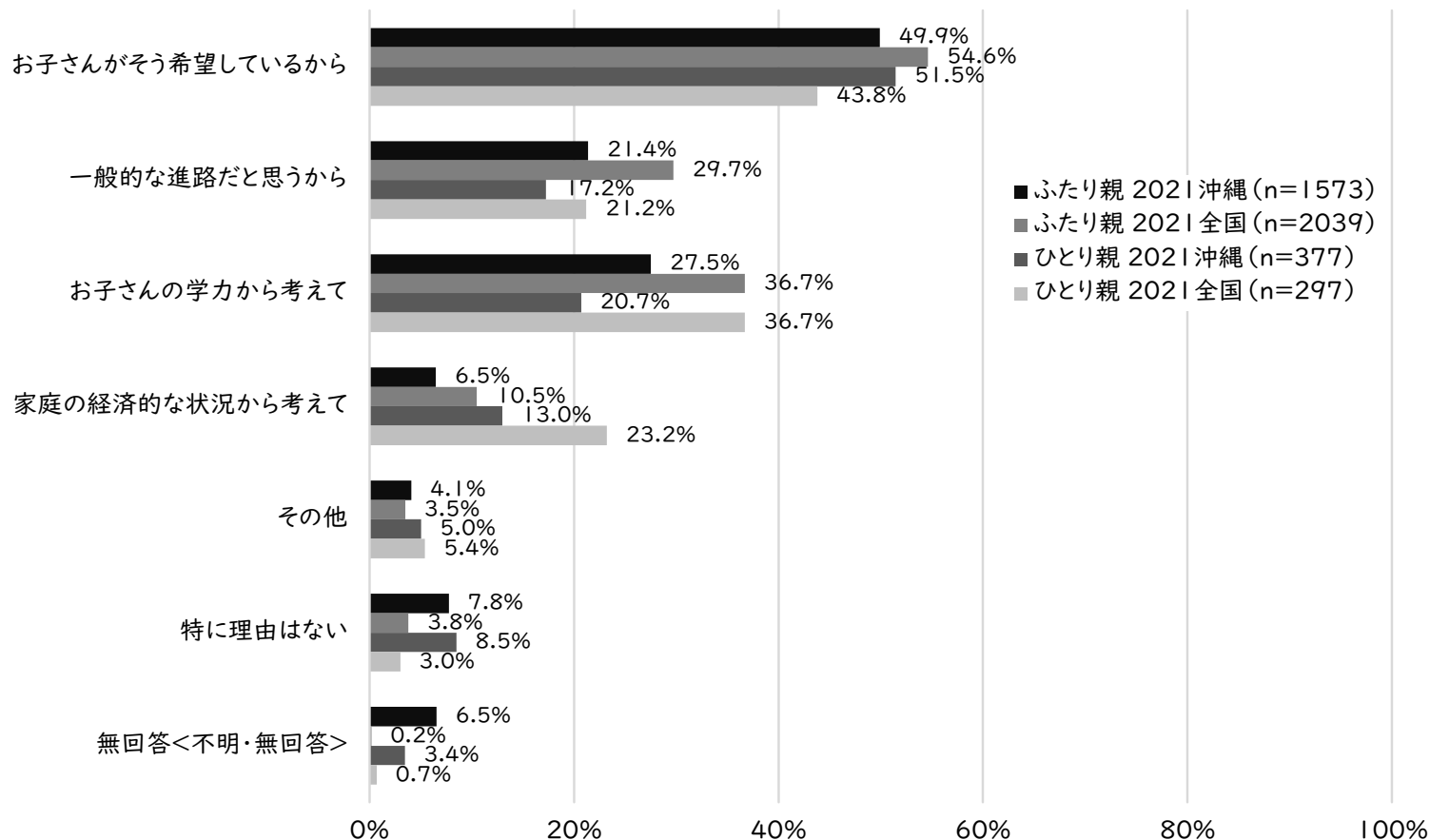
2021年全国調査と比較したところ、「お子さんがそう希望しているから」「一般的な進路だと思うから」「お子さんの学力から考えて」「家庭の経済的な状況から考えて」は全国より沖縄県のほうが少ないことが見て取れます。

図2-4-8 【中2保護者／全国比較】その理由は何ですか（複数選択）



世帯類型別で見ると、「お子さんがそう希望しているから」は全国ではふたり親世帯54.6%とひとり親世帯43.8%で10.8ポイントの差があるのに対し、沖縄県では49.9%、51.5%と1.6ポイント差にとどまります。

図2-4-9 【中2保護者／全国比較・世帯類型別】その理由は何ですか（複数選択）



※< >内は、2021年全国調査の選択肢

第3章

ふだんの暮らし（児童・生徒）

3-1 所有物の欠如

児童・生徒に、現在の日本において多くの小学5年生・中学2年生が所有している物品等(*14品目)について、所持の有無を尋ねています。小学5年生、中学2年生で似た傾向が見え、多くの品目で、所得が低い世帯ほど「ある」割合は低く、「ない(ほしい)」割合は高くなる傾向が見えました。特に、一般層と低所得層 I の間で「ない(ほしい)」の割合が10ポイント以上差があるものとしては、小学5年生、中学2年生ともに「子ども部屋」「インターネットにつながるパソコン」の2項目でした。

***14品目は、以下の通り**

- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 1. 自分だけの本(学校の教科書やマンガはのぞく) | 5. 自分専用の勉強机 | 10. おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい |
| 2. 子ども部屋(きょうだいと使っている場合もふくみます) | 6. スポーツ用品(野球のグローブや、サッカーボールなど) | 11. 友だちが着ているのと同じような服 |
| 3. (自宅で)インターネットにつながるパソコン | 7. ゲーム機 | 12. 2足以上のサイズのあった靴 |
| 4. 自宅で宿題をすることができる場所 | 8. たいていの友だちが持っているおもちゃ | 13. けいたい電話、スマートフォン |
| | 9. 自転車 | 14. けいたい音楽プレーヤーなど |

図3-2-3 【小5児童】子ども部屋(きょうだいと使っている場合もふくみます)

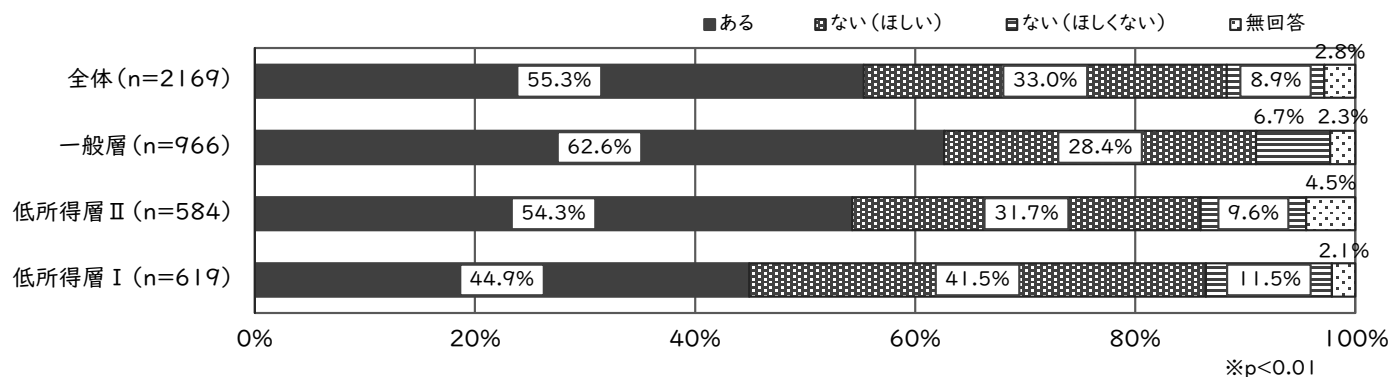


図3-2-4 【中2生徒】子ども部屋(きょうだいと使っている場合もふくみます)

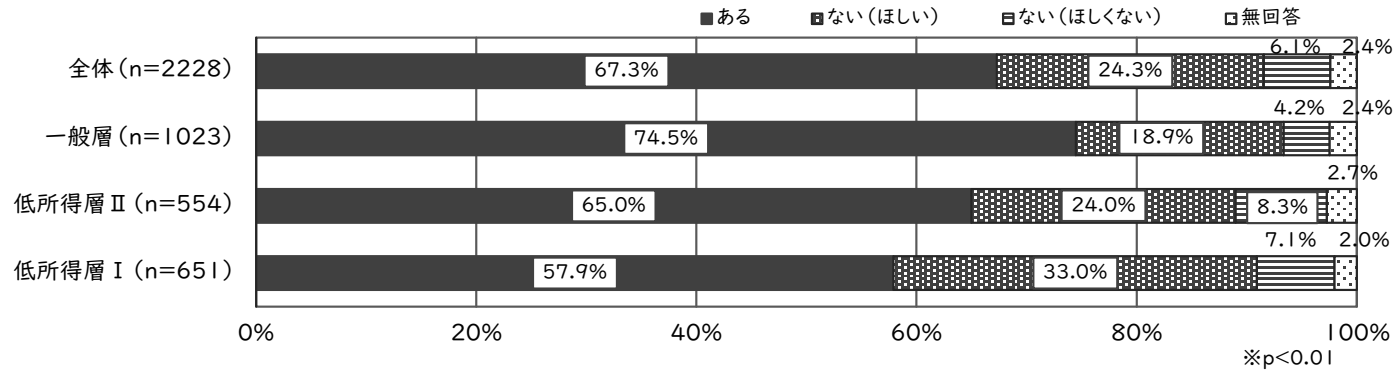


図3-2-5 【小5児童】(自宅で)インターネットにつながるパソコン

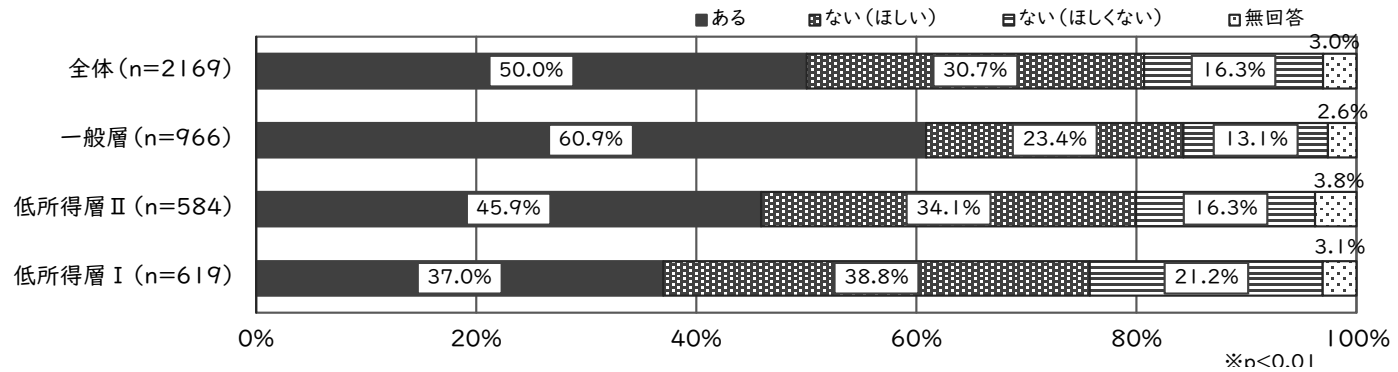
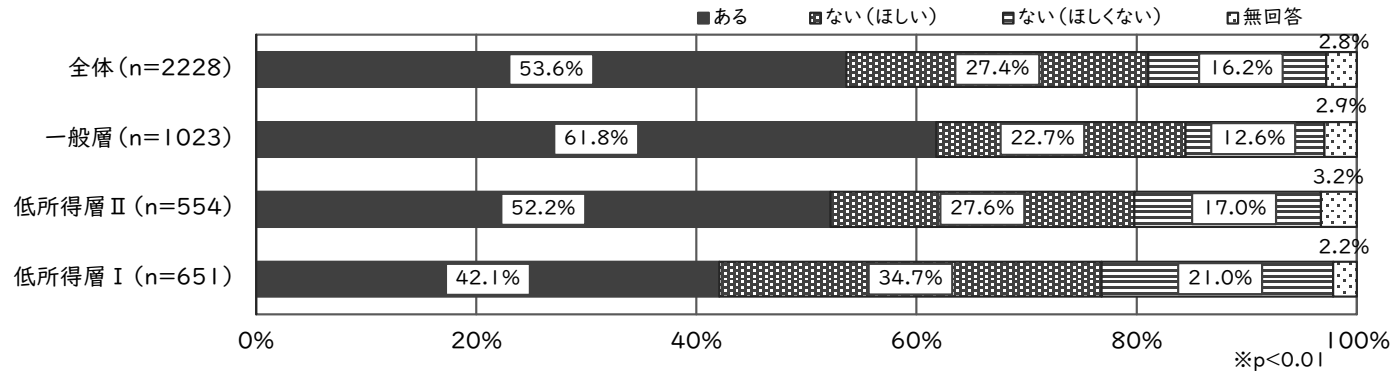


図3-2-6 【中2生徒】(自宅で)インターネットにつながるパソコン



3-2 がんばればむくわれる(経年比較)

子どもの自己肯定感に関するものをいくつか尋ねています。「がんばれば、むくわれる」「自分は家族に大事にされている」「不安に感じることはない」「孤独を感じることはない」の4つの質問は経年比較についても行っていますが、どの項目も全体として「とてもそう思う」の割合が高くなっていました。

特に、「自分は家族に大事にされている」については小学5年生、中学2年生とも10%以上の増加が見られました。全体として、自己肯定感が高くなっている可能性を示すものと考えられます。

図3-5-3 【小5児童・中2生徒/経年比較】がんばれば、むくわれる

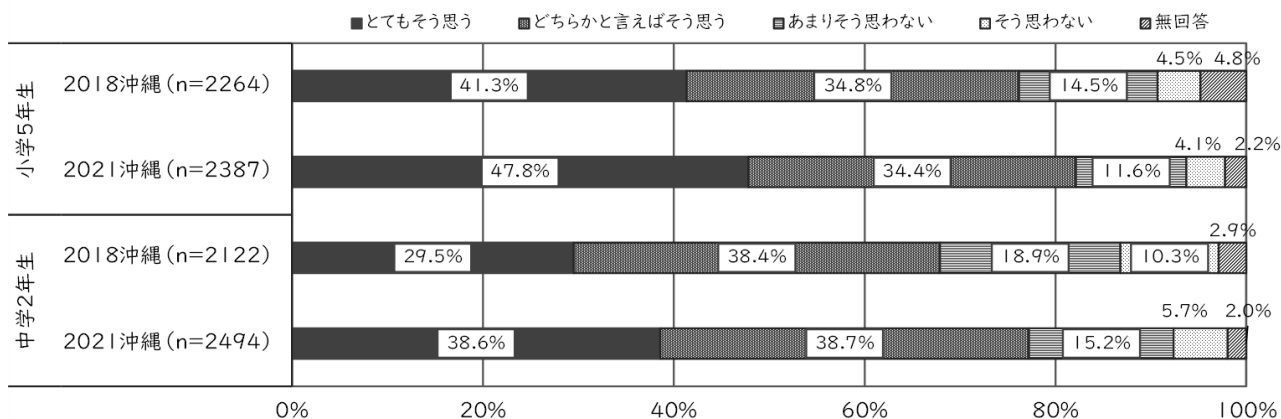


図3-5-6 【小5児童・中2生徒/経年比較】自分は家族に大事にされている

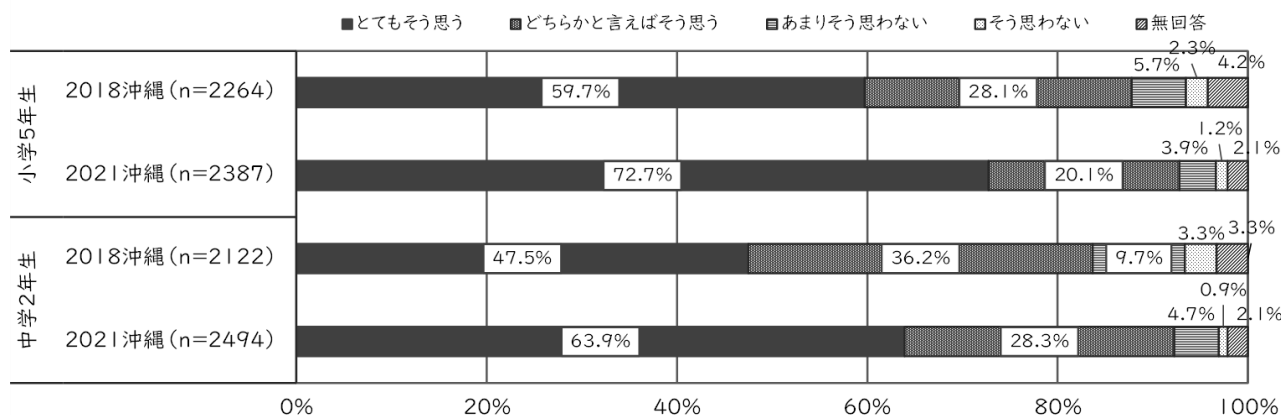


図3-5-9 【小5児童・中2生徒／経年比較】不安に感じることはない

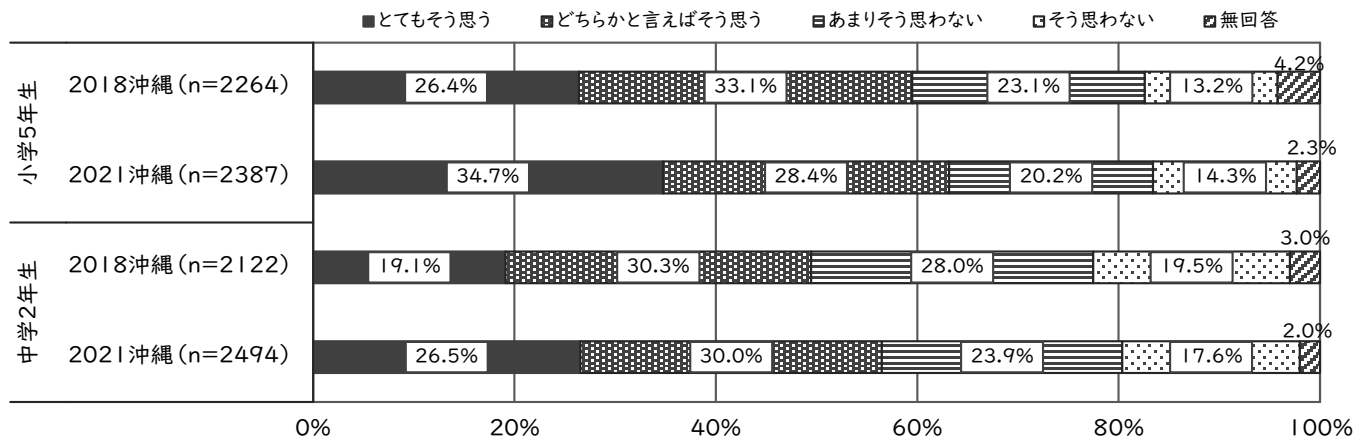
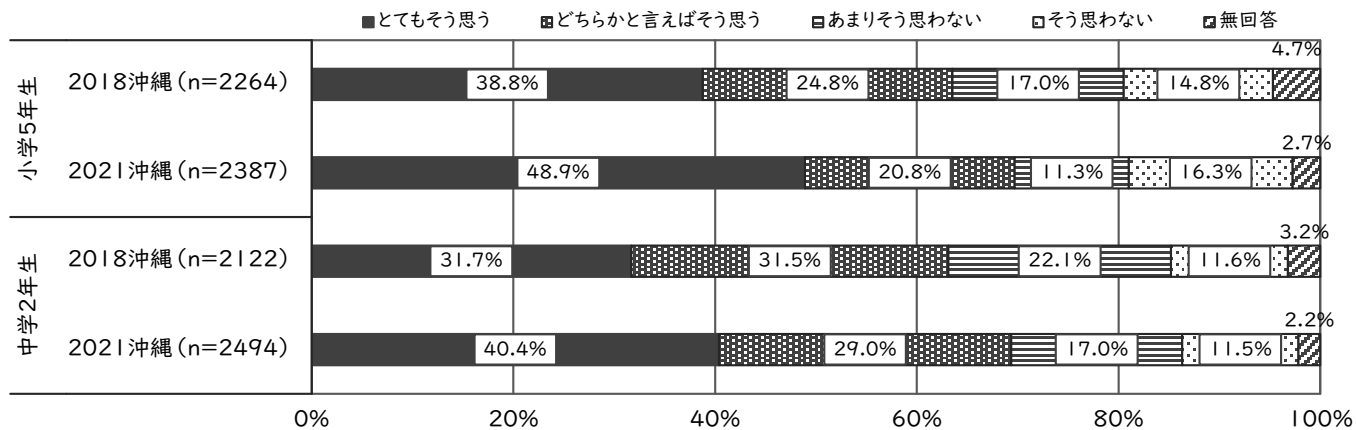


図3-5-12 【小5児童・中2生徒／経年比較】孤独を感じることはない



3-3 新型コロナウイルス感染症による影響①

学校の授業がわからないと感じる事

小学5年生は、全体で「増えた」が30.6%、「減った」が16.4%、「変わらない」が50.9%、中学2年生は、「増えた」が38.7%、「減った」が8.2%、「変わらない」が51.5%となっています。

小学5年生、中学2年生ともに経済状況別による差があり、「増えた」の割合は、所得が低い世帯ほど高い割合となっています。

図3-8-6 【小5児童】学校の授業がわからないと感じること

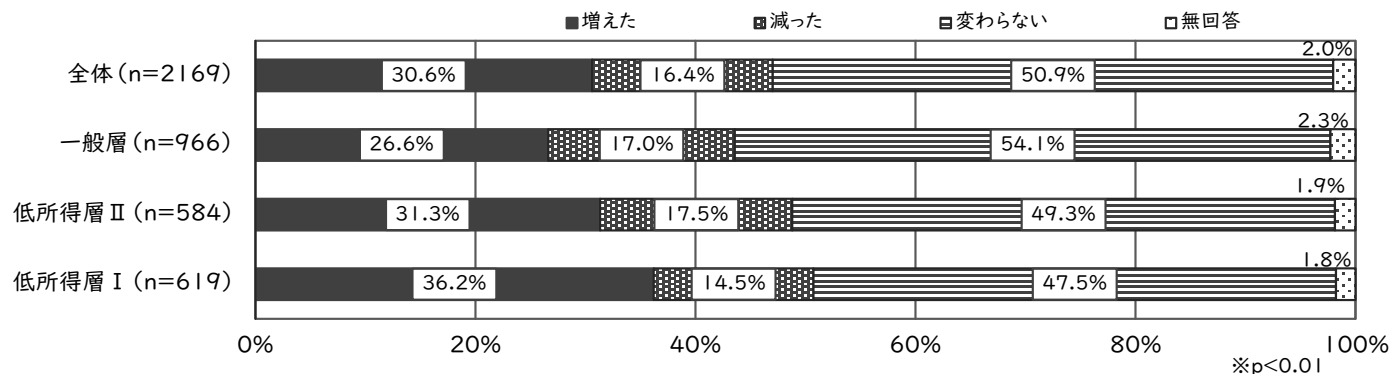
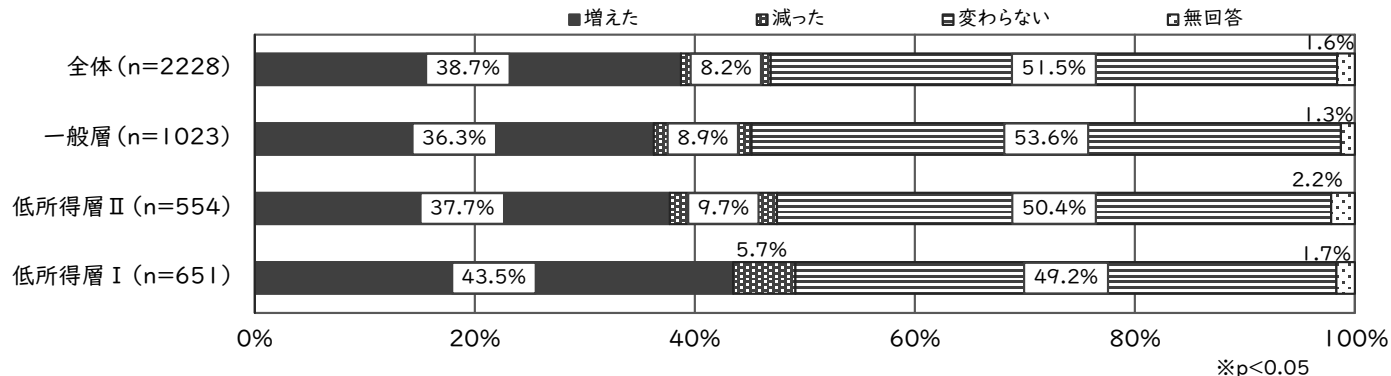


図3-8-7 【中2生徒】学校の授業がわからないと感じること



学校の授業がわからないと感じる事 — 全国比較

2021年全国調査と比較すると、全国では、「増えた」は26.4%であり、沖縄県のほうが12.7ポイント高くなっています。

また、世帯類型別での比較では、全国でも沖縄県でもひとり親世帯のほうが、「増えた」割合は高くなっていますが、沖縄県のひとり親世帯は全国のひとり親世帯に比べても高く、40.4%になっています。

図3-8-8 【中2生徒／全国比較】学校の授業がわからないと感じること

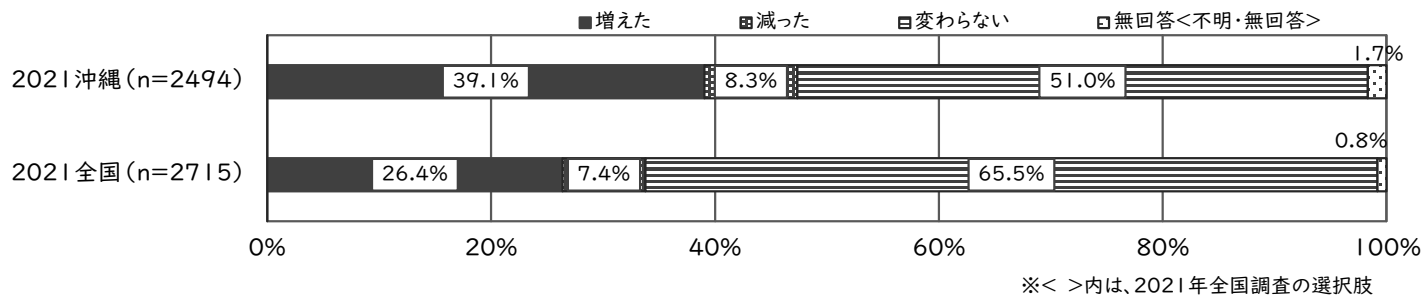
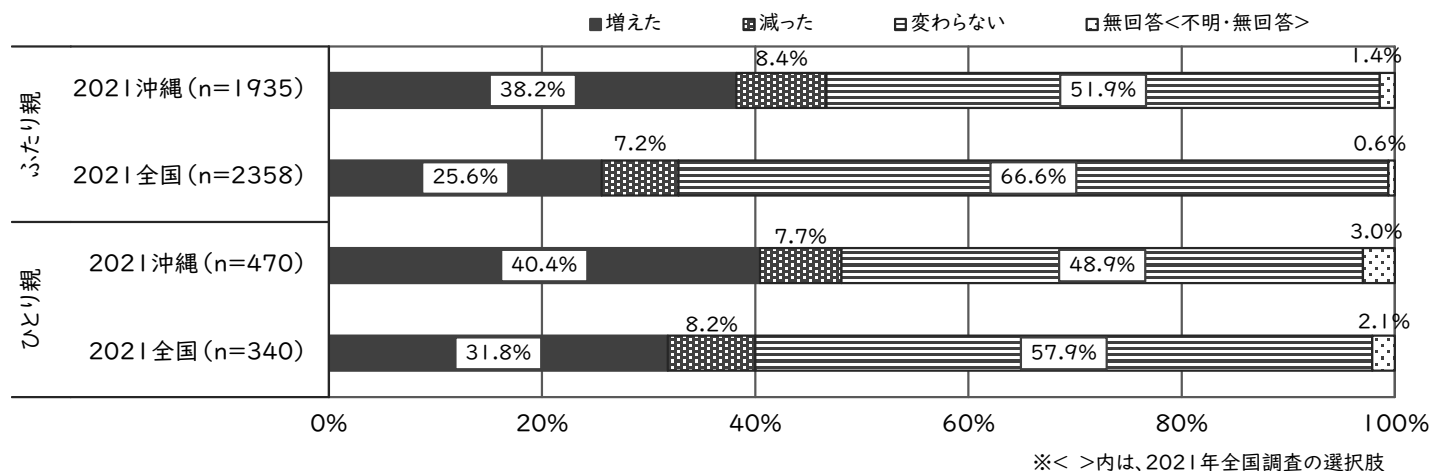


図3-8-10 【中2生徒／全国比較・世帯類型別】学校の授業がわからないと感じること



3-4 新型コロナウイルス感染症による影響②

夜遅くまで起きている回数

小学5年生では、全体で「増えた」が37.1%、「減った」が11.6%、「変わらない」が49.1%、中学2年生は、「増えた」が51.2%、「減った」が5.8%、「変わらない」が41.4%となっています。

経済状況別に見ると、小学5年生は、「増えた」の割合は、所得が低い世帯ほど高い割合となっていますが、中学2年生は、大きな違いは見られませんでした。

図3-8-21 【小5児童】夜遅くまで起きている回数

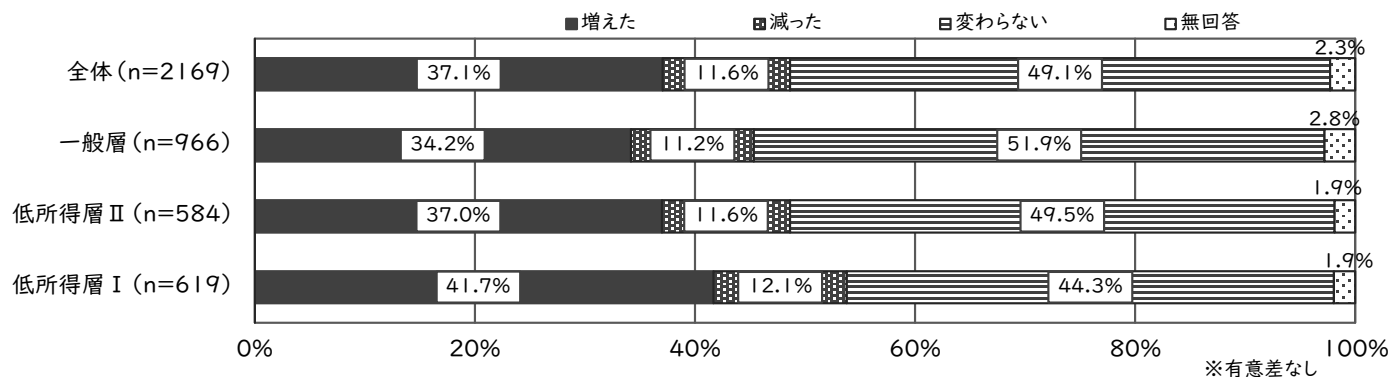
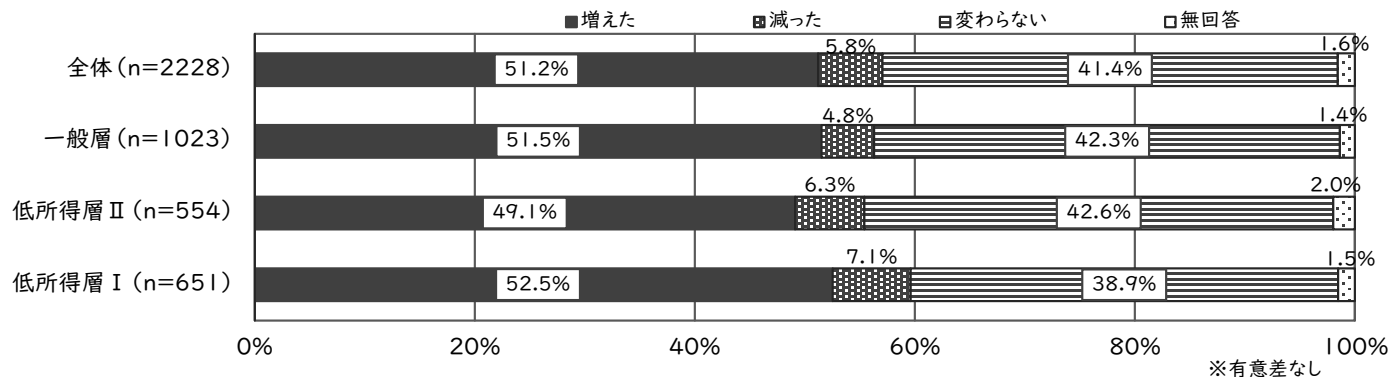


図3-8-22 【中2生徒】夜遅くまで起きている回数



夜遅くまで起きている回数 — 全国比較

2021年全国調査との比較では、「増えた」は、全国は43.9%であり、沖縄県のほうが7.1ポイント高くなっています。

世帯類型別では、全国でも沖縄県でもひとり親世帯のほうが、「増えた」割合は高くなっていますが、沖縄県のひとり親世帯は全国のひとり親世帯に比べても高く、53.4%になっています。

図3-8-23 【中2生徒／全国比較】夜遅くまで起きている回数

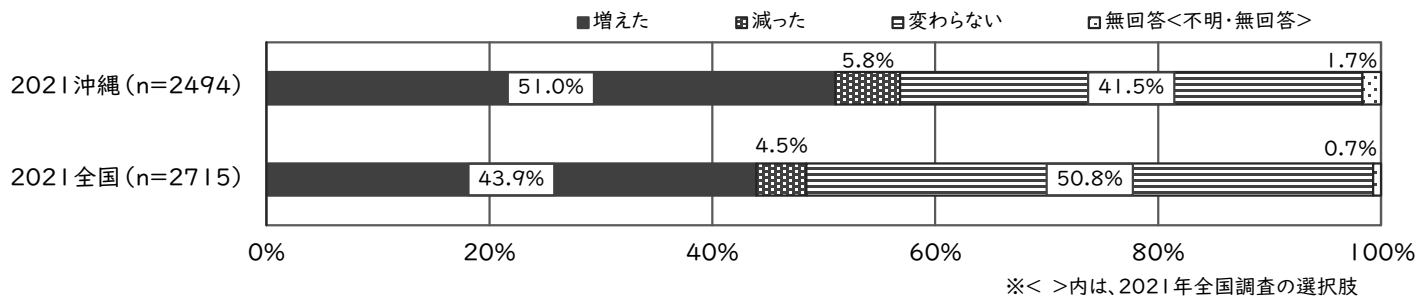
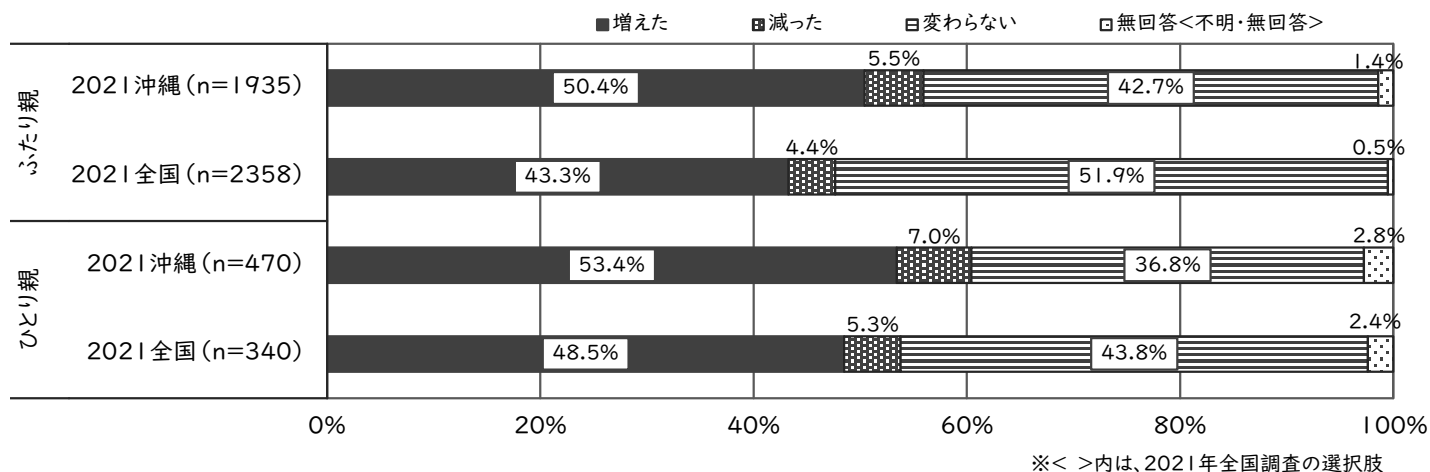


図3-8-25 【中2生徒／全国比較・世帯類型別】夜遅くまで起きている回数



3-5 新型コロナウイルス感染症による影響

イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

小学5年生では、全体で「増えた」が33.8%、「減った」が16.4%、「変わらない」が47.8%、中学2年生では、「増えた」が36.7%、「減った」が8.8%、「変わらない」が52.7%となっています。

経済状況別に見ると、小学5年生、中学2年生ともに、大きな違いは見られませんでした。

図3-8-31 【小5児童】イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

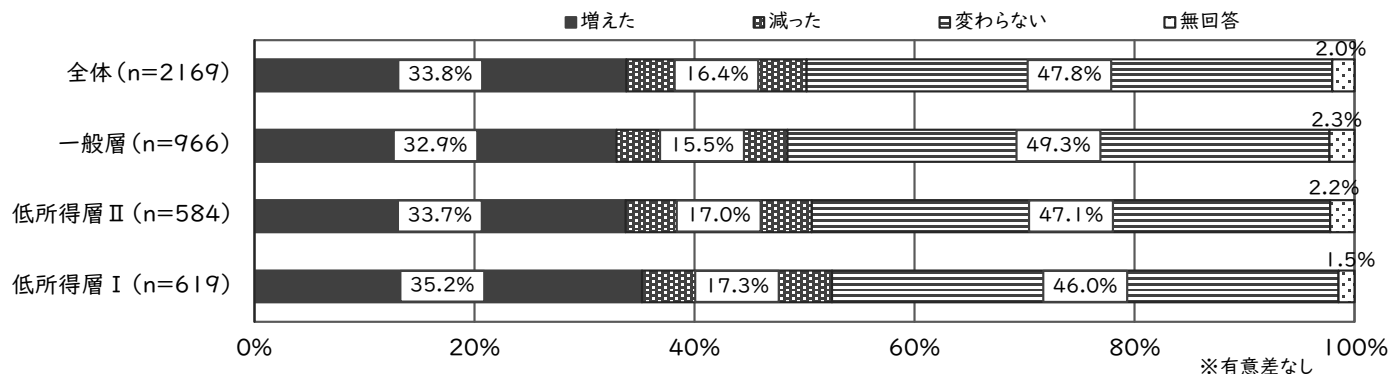
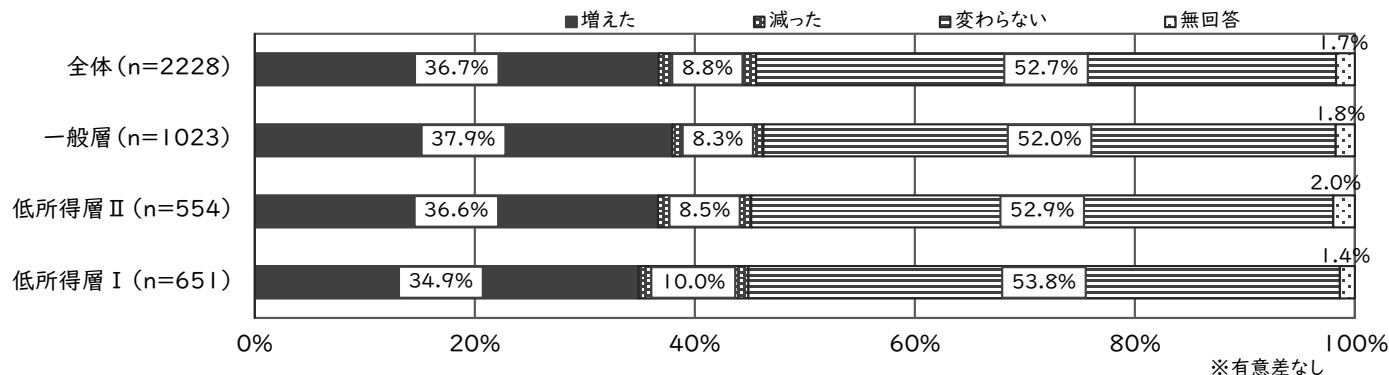


図3-8-32 【中2生徒】イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと



イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと —全国比較

2021年全国調査との比較です。全国では、「増えた」は28.8%であり、沖縄県のほうが8.4ポイント高くなっています。

世帯類型別では、ふたり親世帯でもひとり親世帯でも全国に比べ沖縄県では「増えた」割合が高くなっています。

図3-8-33 【中2生徒／全国比較】イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

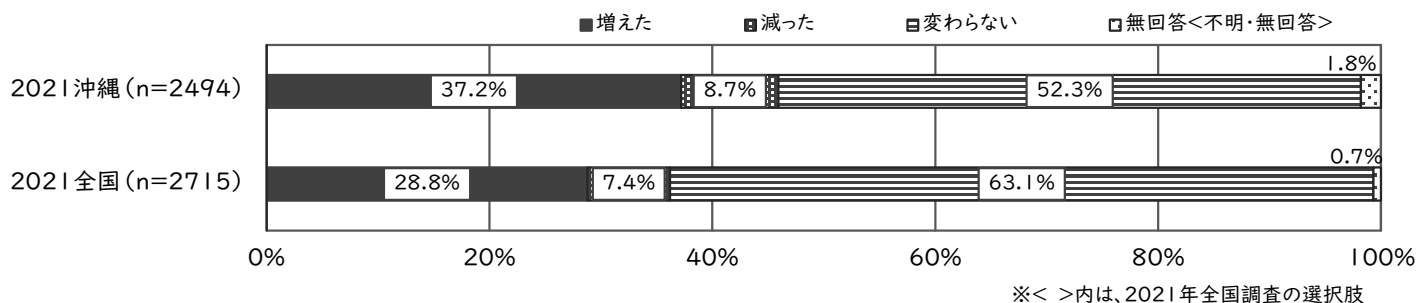
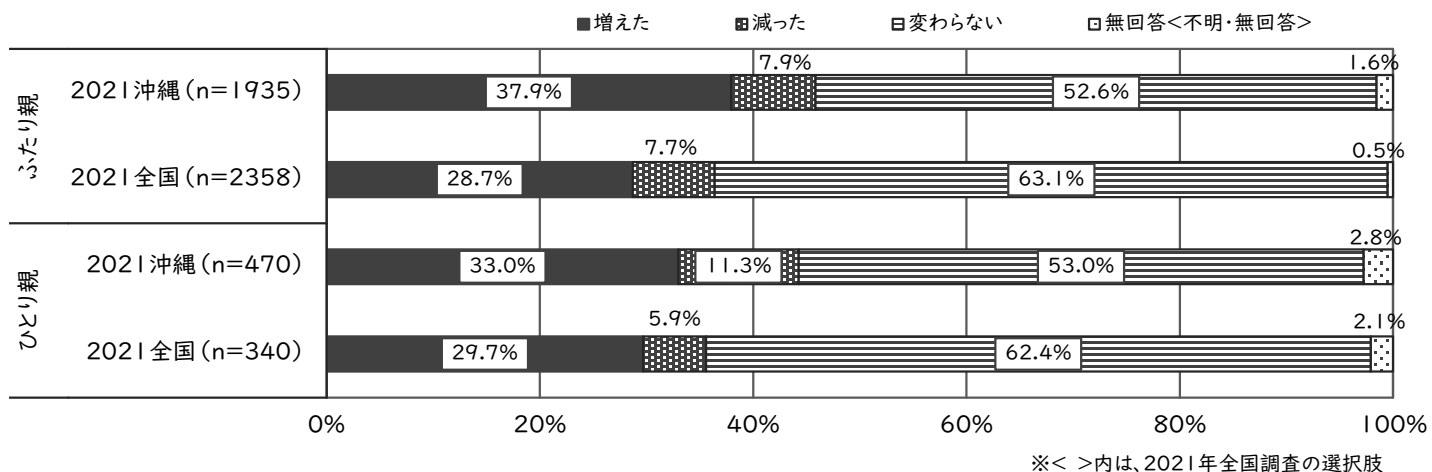


図3-8-35 【中2生徒／全国比較・世帯類型別】イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと



第4章

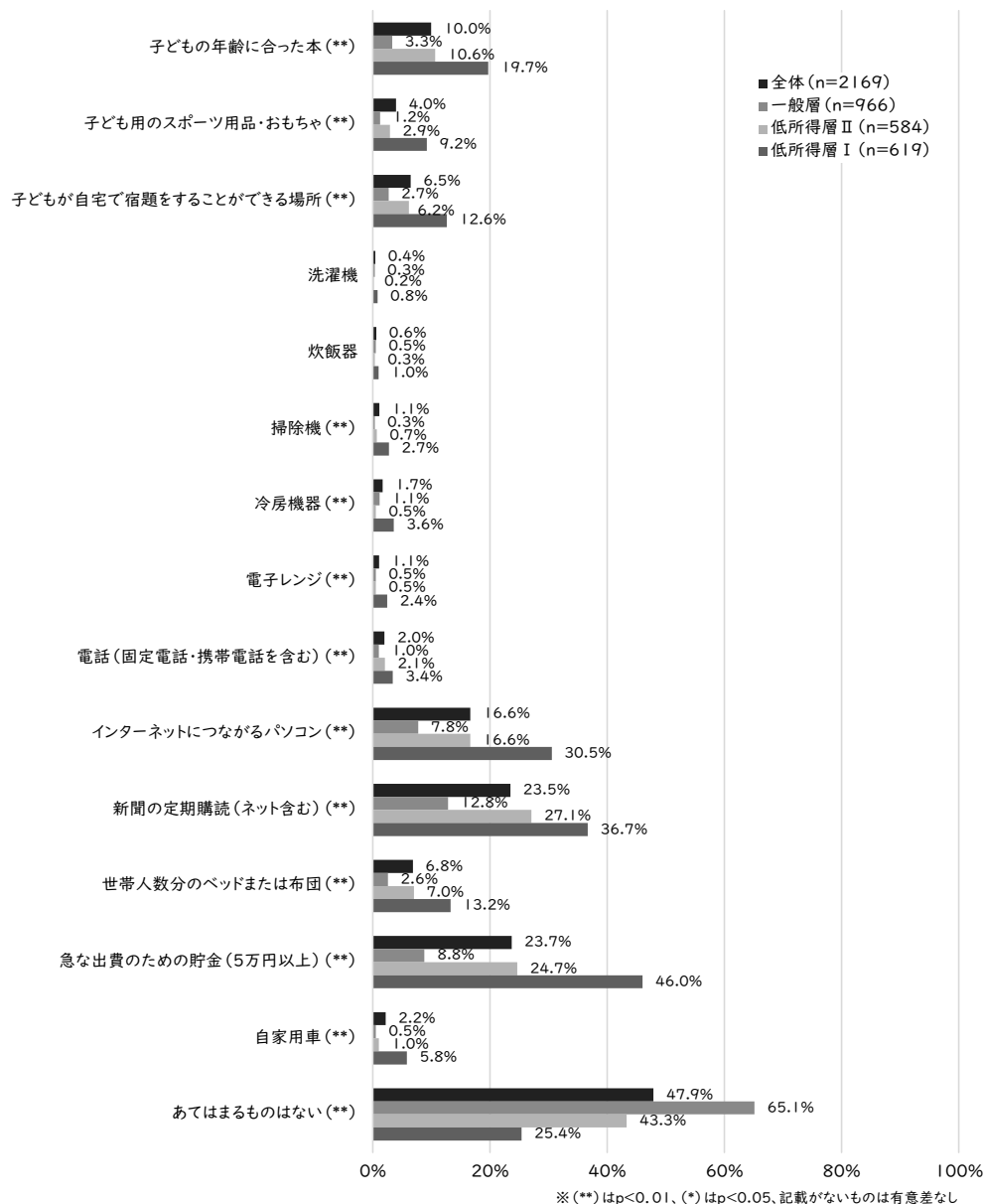
ふだんの暮らし（保護者）

4-1 所有物の欠如

家庭において広く普及していると考えられる物品について、経済的な理由で所有していないものについて尋ねた結果です。所有していない割合を示しています。

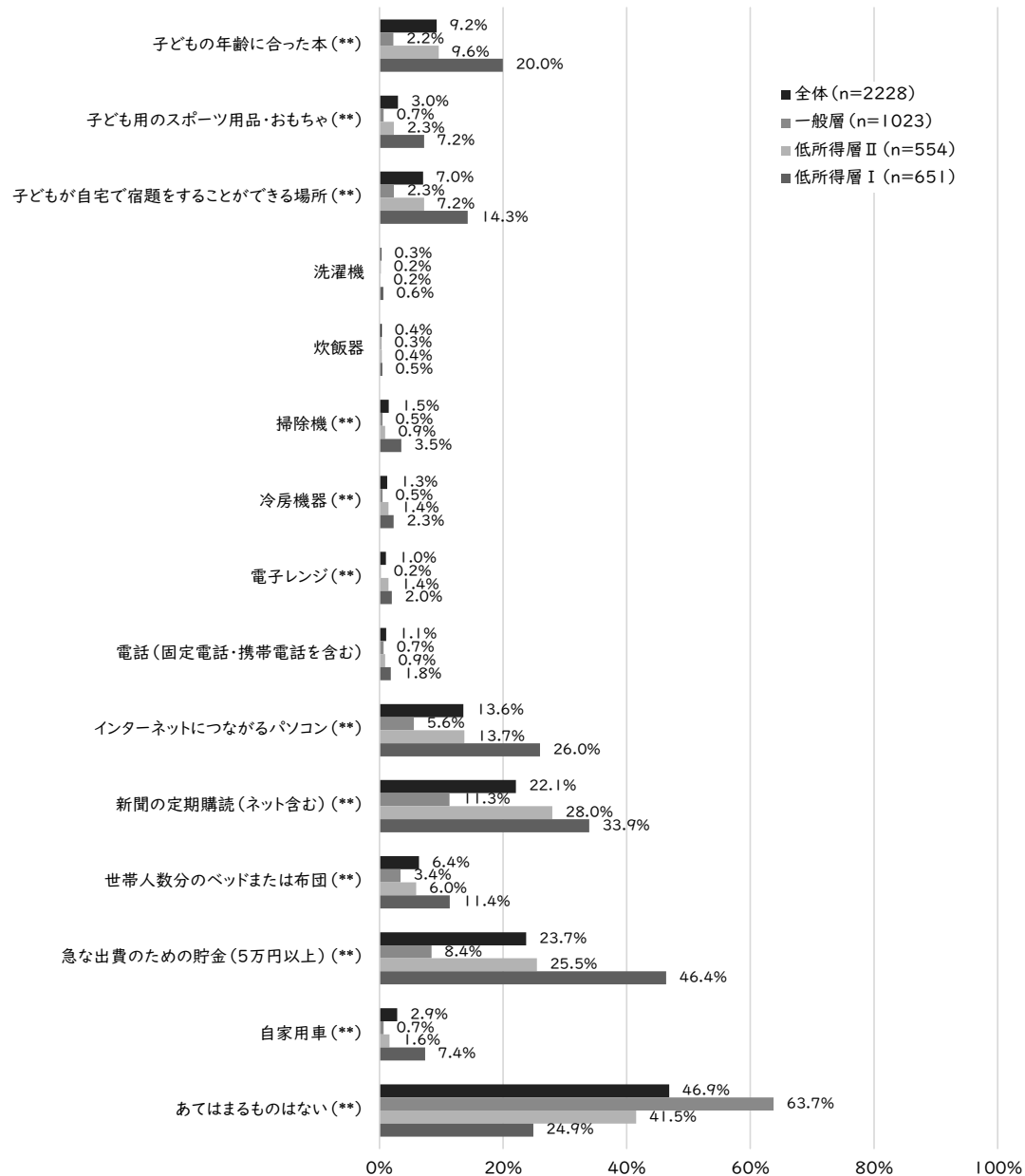
一般層と低所得層 I の間で小学5年生、中学2年生ともに10ポイント以上差があるものとしては、「子どもの年齢に合った本」「インターネットにつながるパソコン」「新聞の定期購読」「急な出費のための貯金」でした（小学5年生では「世帯人数分のベッドまたは布団」も10.6ポイント、中学2年生は「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」も12.0ポイントの差がある）。

図4-3-1 【小5保護者】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか（複数選択）



※(**)はp<0.01、(*)はp<0.05、記載がないものは有意差なし

図4-3-2 【中2保護者】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか(複数選択)

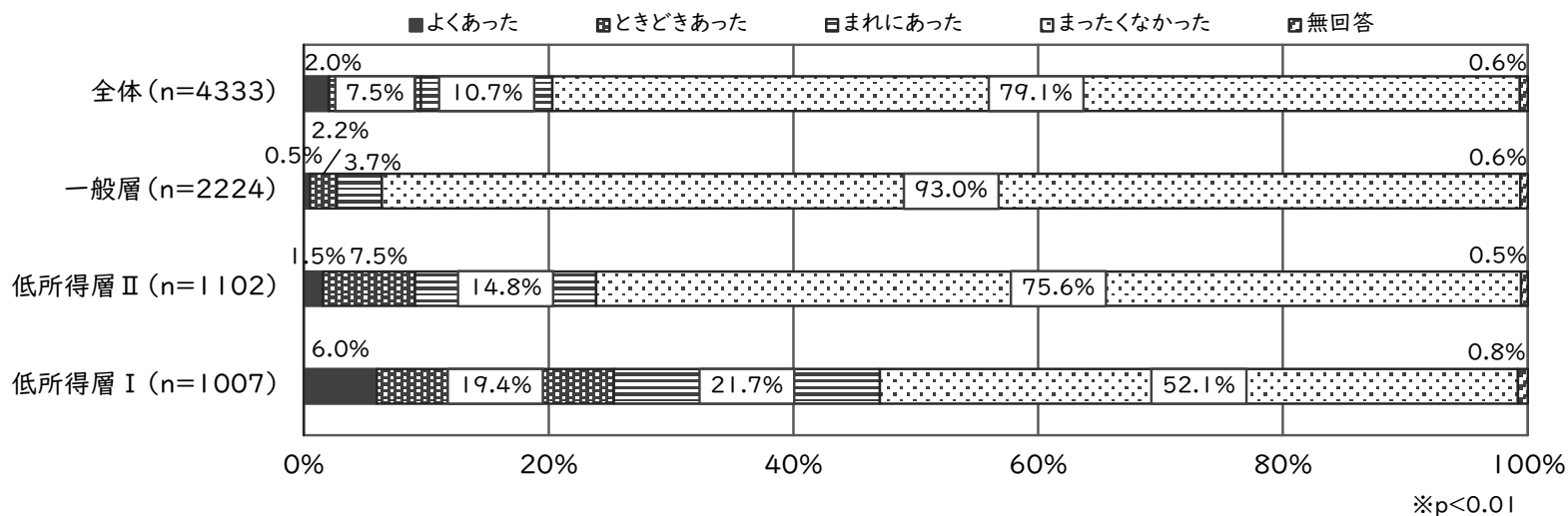


※(**)はp<0.01、(*)はp<0.05、記載がないものは有意差なし

4-2 食料が買えなかった経験

経済状況別に見ると、一般層では9割以上が「まったくなかった」と回答していますが、低所得層 I では「よくあった」と「ときどきあった」を合わせると20%以上が、さらに「まれにあった」も含めると半数近くが食料を買えなかった経験があると回答しています（※小5、中2も同様の傾向。詳細は報告書 p178を参照）。

図4-6-3 【0~17歳保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません



4-3 食料が買えなかった経験（全国比較）

2021年全国調査との比較では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」のいずれの回答も、沖縄県が全国よりも高くなっています。

世帯類型別では、沖縄県でも全国でも、ふたり親世帯よりもひとり親世帯で多くなっています。

図4-6-4 【中2保護者／全国比較】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません

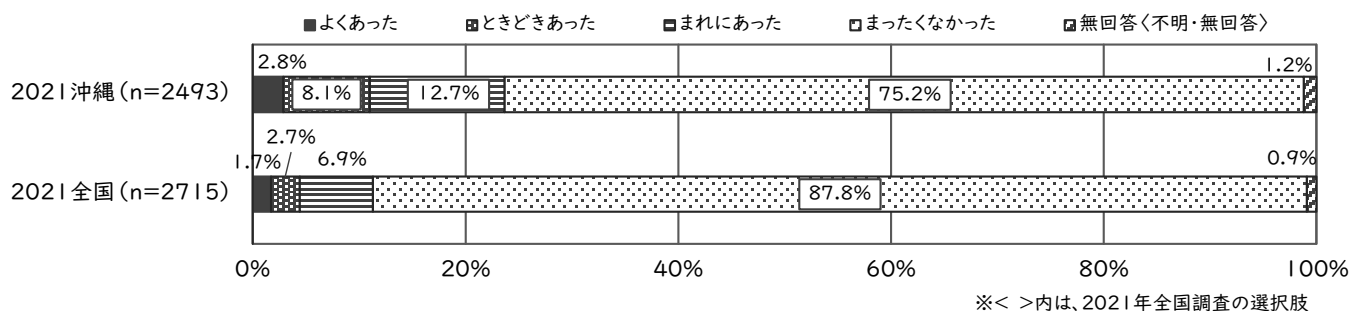
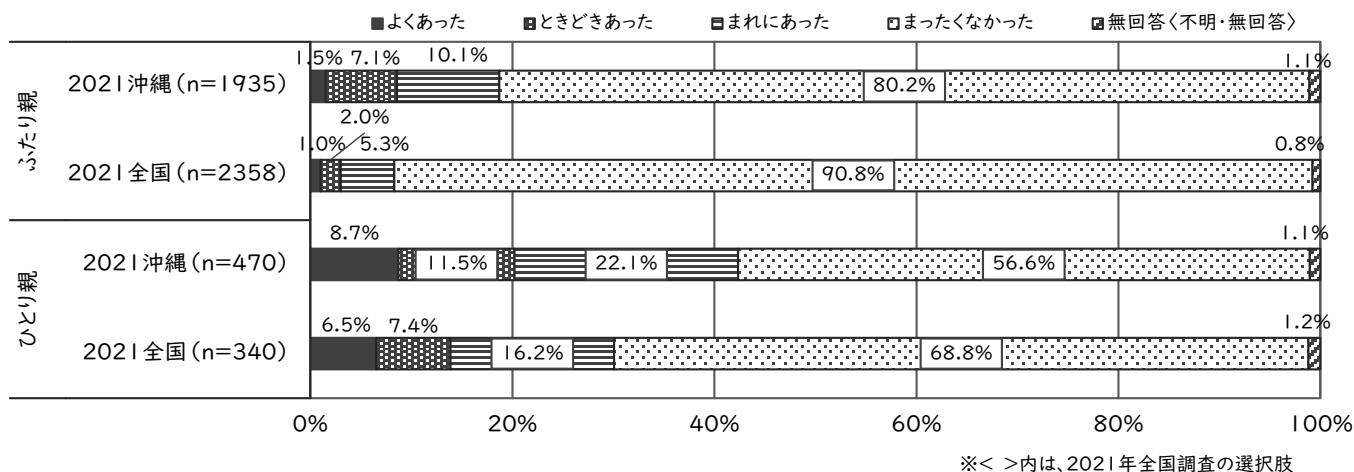


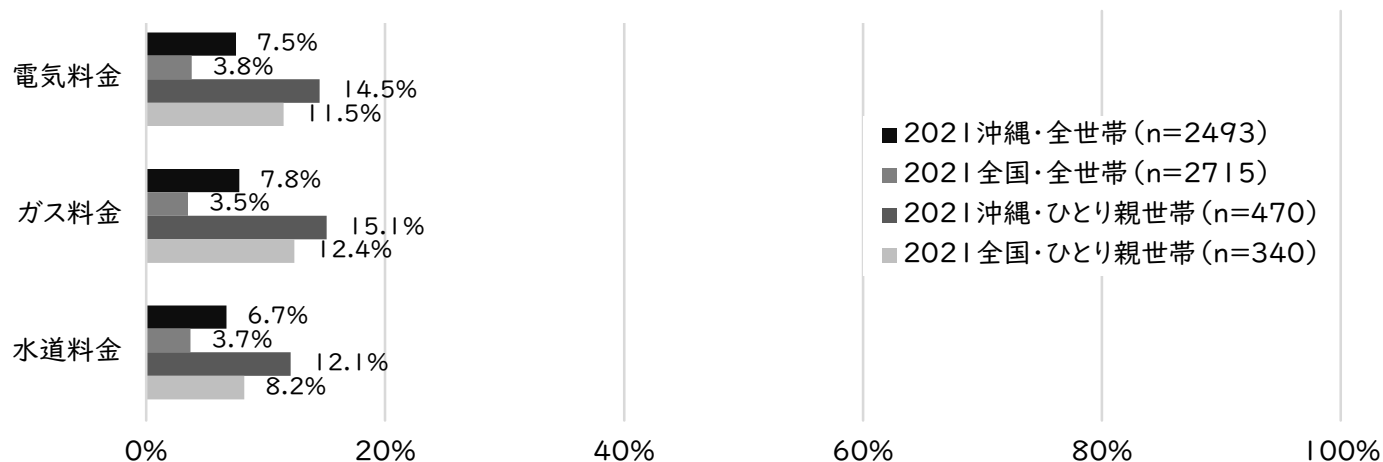
図4-6-5 【中2保護者／全国比較・世帯類型別】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません



4-4 滞納経験

電気料金・ガス料金・水道料金について滞納経験の有無をそれぞれ全世帯とひとり親世帯に分けて沖縄県と2021年全国調査で比較しています。沖縄県と全国ともに、滞納経験の割合はひとり親世帯で高くなっており、沖縄県と全国を比較すると沖縄県のほうが滞納経験の割合が高くなっています。

図4-7-22 【中2保護者／全国比較】滞納経験

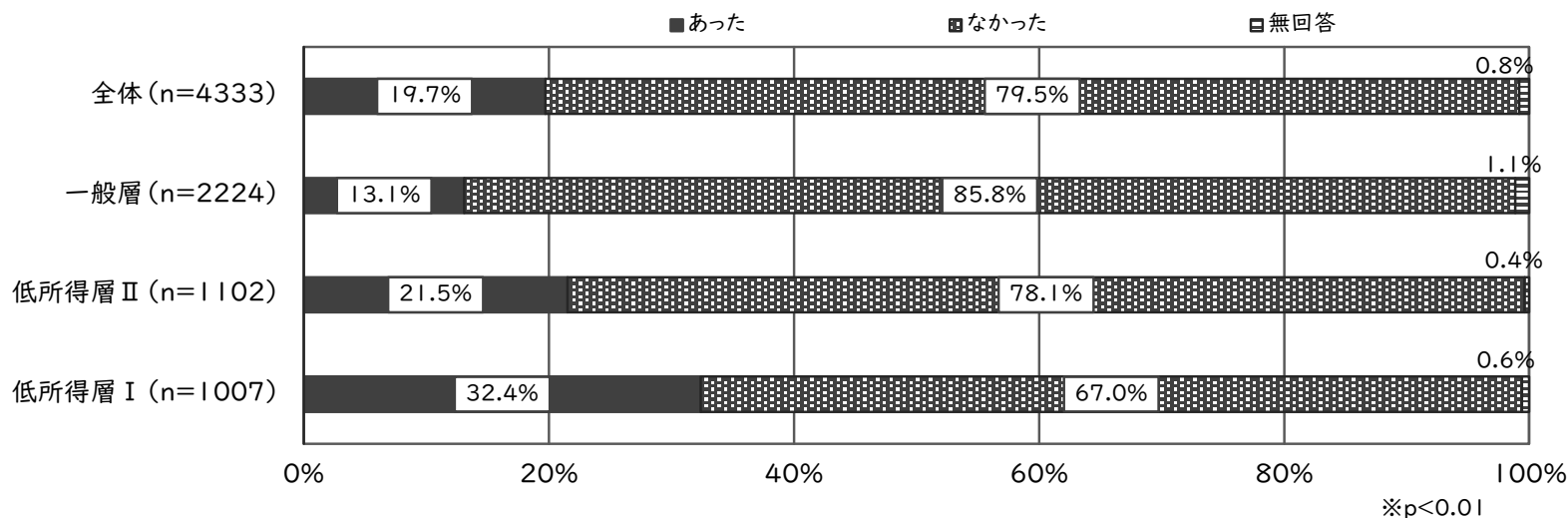


※2021年全国調査は、「あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか」と尋ね、電気料金、ガス料金、水道料金を選択させる質問となっており、2021年沖縄県調査とは質問が異なる。

4-5 子どもが受診できなかった経験

子どもを医療機関で受診させられなかった経験があるかどうかを保護者に尋ねたところ、小学5年生、中学2年生、0~17歳のいずれの調査でもほぼ同じ結果が出ており、「あった」と回答した割合は、一般層では約12~13%ですが、低所得層 I では25~30%前後と高くなっています（※小学5年生、中学2年生は、報告書p206を参照）。

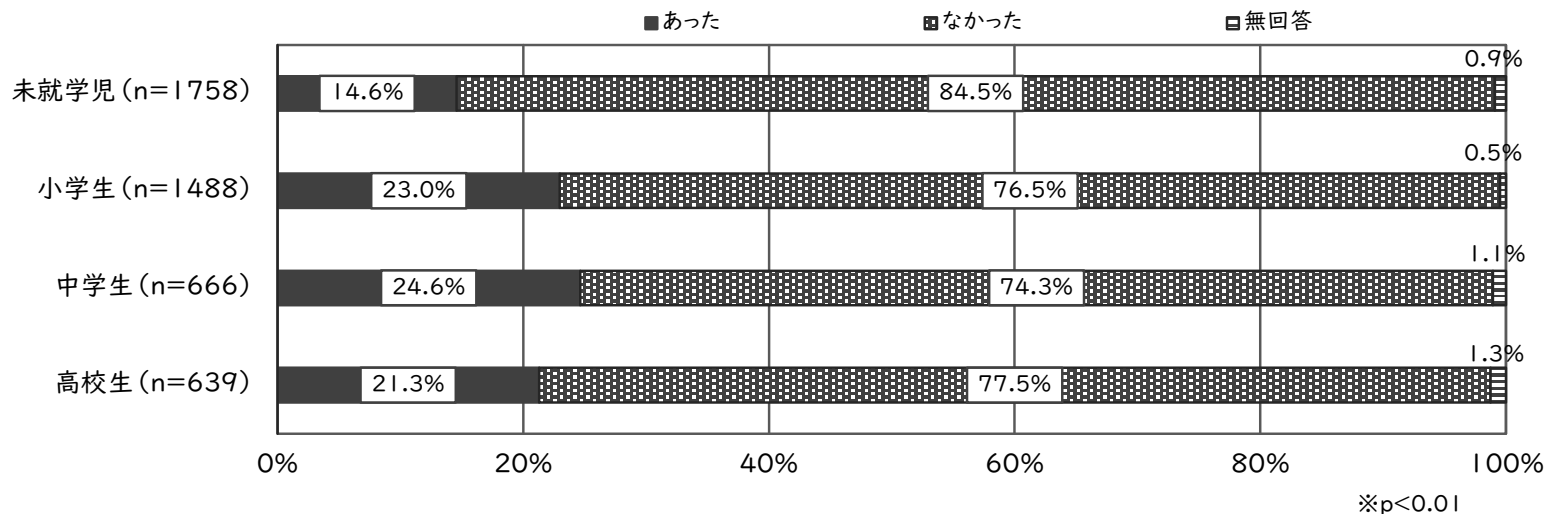
図4-9-3 【0~17歳保護者】過去1年間に、お子さんを病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか



0～17歳を対象とした調査をもとに子どもの年齢層ごとに受診させられなかった経験に違いがあるかを見ると、「あった」と回答した割合は、未就学児では14.6%ですが、小学生以上では増えて20%を超えています。

沖縄県内で実施されている未就学児への医療費助成（窓口負担の無料化）が一定程度の効果をあげているものと考えられます。

図4-9-4 【0～17歳保護者／年齢別】過去1年間に、お子さんを病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか

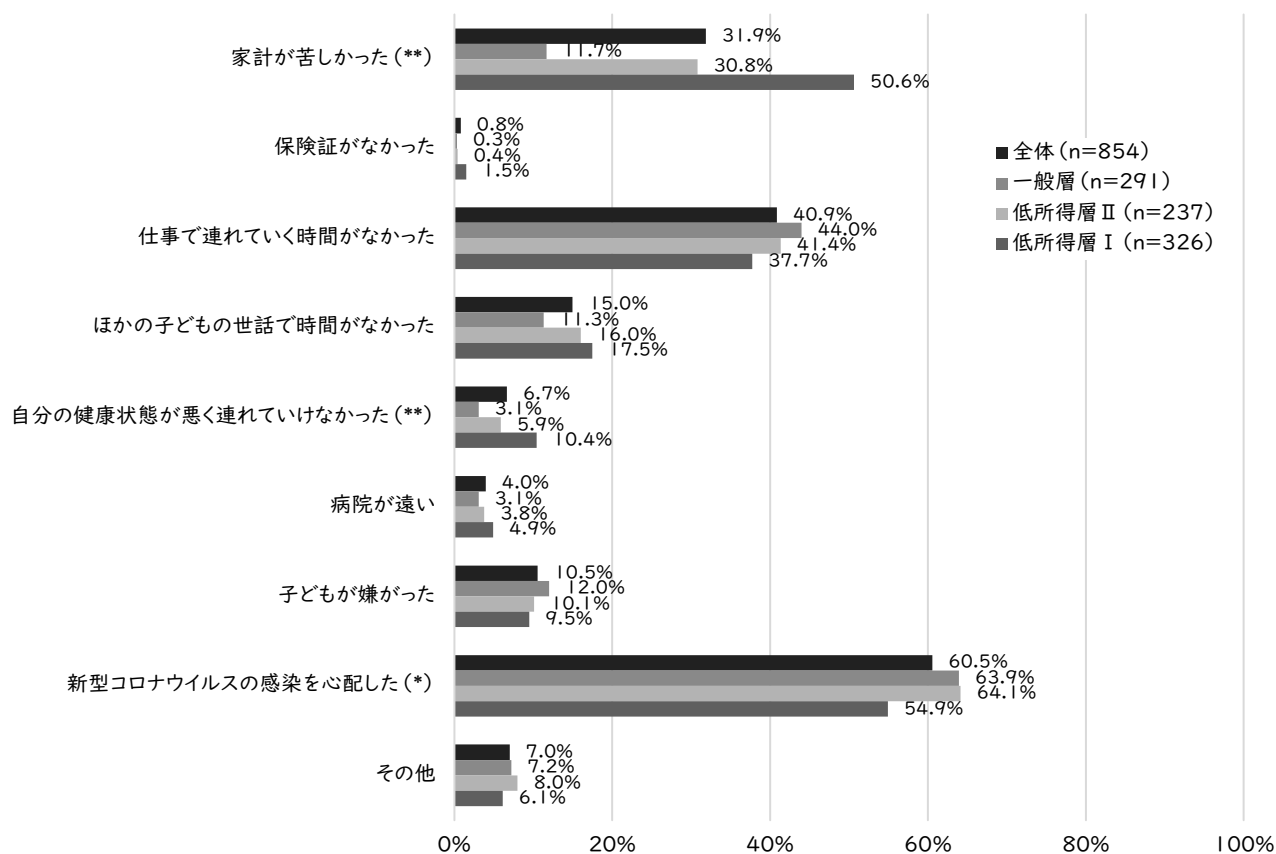


4-6 子どもが受診できなかった理由

子どもを受診させられなかった経験が「あった」と回答した保護者にその理由を尋ねました。

経済状況別に見ると差が大きく表れており、一般層では「家計が苦しかった」という回答は10～15%程度で比較的になく、「仕事で連れていく時間がなかった」と回答した割合が半数近くになるのに対して、低所得層Ⅰでは半数近くが「家計が苦しかった」と回答し「仕事で連れていく時間がなかった」を上回っています（※小学5年生、中学2年生は、報告書p208～209を参照）。

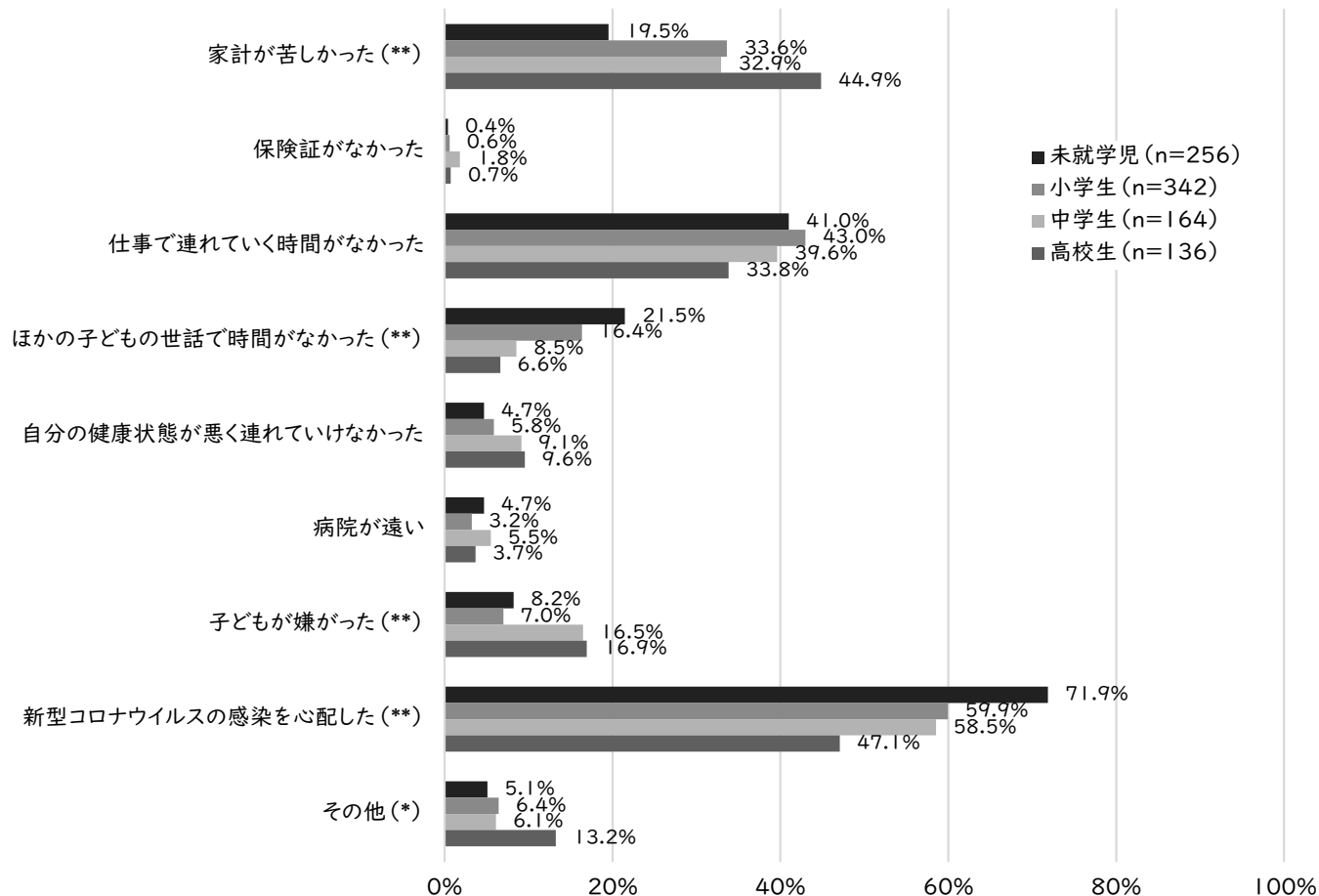
図4-9-8 【0～17歳保護者】その理由を教えてください（複数選択）



※(**)は $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

0～17歳を対象とした調査をもとに、子どもの年齢層ごとに受診させられなかった理由に違いがあるかを見ています。小学生以上と比べて未就学児では、「家計が苦しかった」という回答は少なく、「新型コロナウイルスの感染を心配した」や「ほかの子どもの世話で時間がなかった」という回答が多くなっています。

図4-9-9 【0～17歳保護者／年齢別】その理由を教えてください(複数選択)



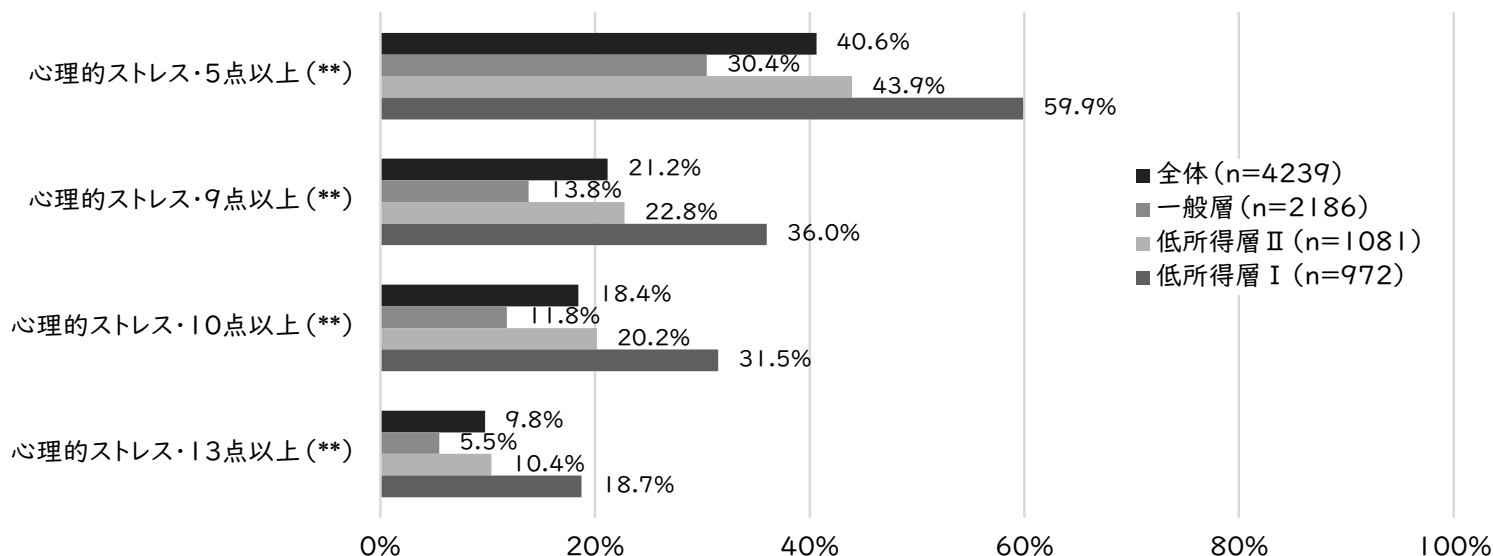
※ (**)は $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

4-7 抑うつ傾向（心理的ストレス）

「保護者の抑うつ傾向（心理的ストレス）」に関して、本調査では「K6」と呼ばれる指標を用いて6つの質問項目を設定しました。

経済状況別に見ると、4つの区分すべてで、所得が低い世帯ほど該当する割合は高くなっていました。低所得層Ⅰでは、「心理的ストレス・10点以上」は、小学5年生、中学2年生、0～17歳、それぞれ30.4%、30.7%、31.5%でした。「心理的ストレス・13点以上」は、それぞれ、15.4%、18.8%、18.7%でした。**(※小学5年生、中学2年生は、報告書p212を参照)**。

図4-10-3 【0～17歳保護者】抑うつ傾向



※(**)は $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

4-8 抑うつ傾向（心理的ストレス／経年比較）

経済状況別に経年比較すると、小学5年生、中学2年生ともに似た傾向にあり、困窮層、非困窮層ともに、4つの区分すべてで、2021年は高い数値となっていました。一方で、非困窮層に比べ、困窮層のほうが4つの区分すべてで増加が顕著であることがわかります。

図4-10-7 【小5保護者／経年比較・経済状況別】抑うつ傾向

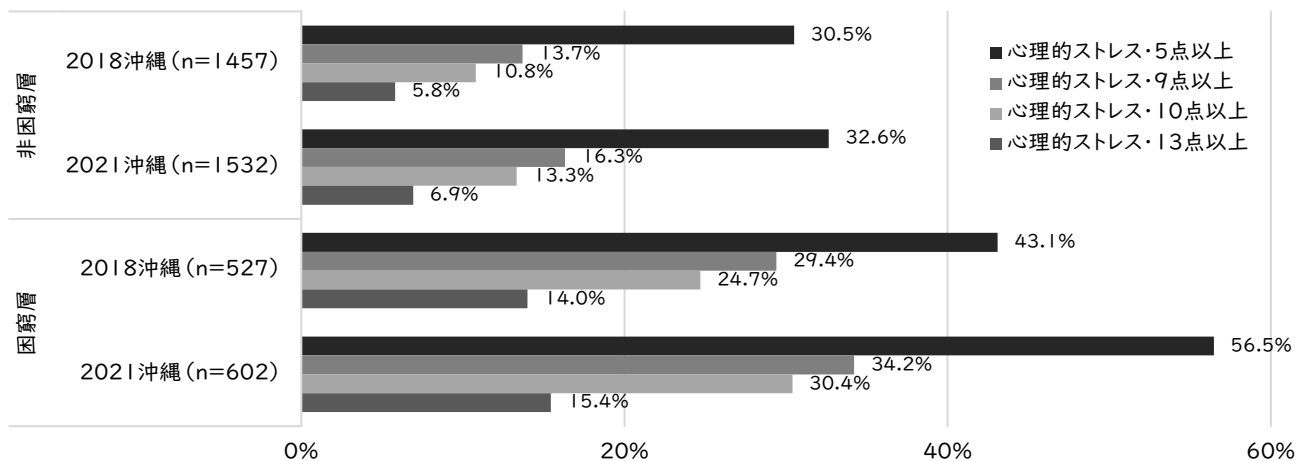
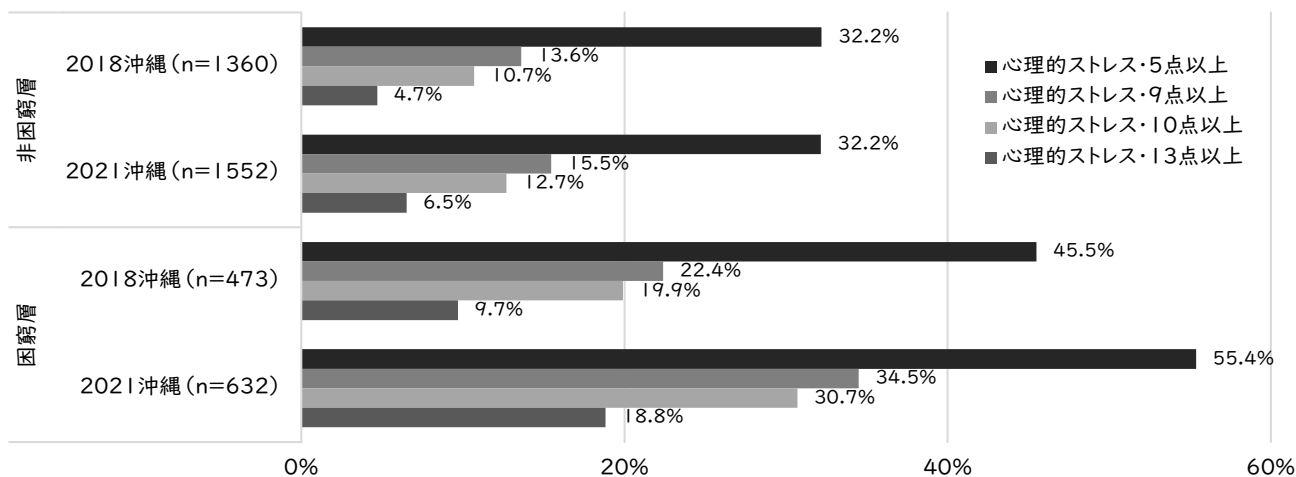



図4-10-8 【中2保護者／経年比較・経済状況別】抑うつ傾向



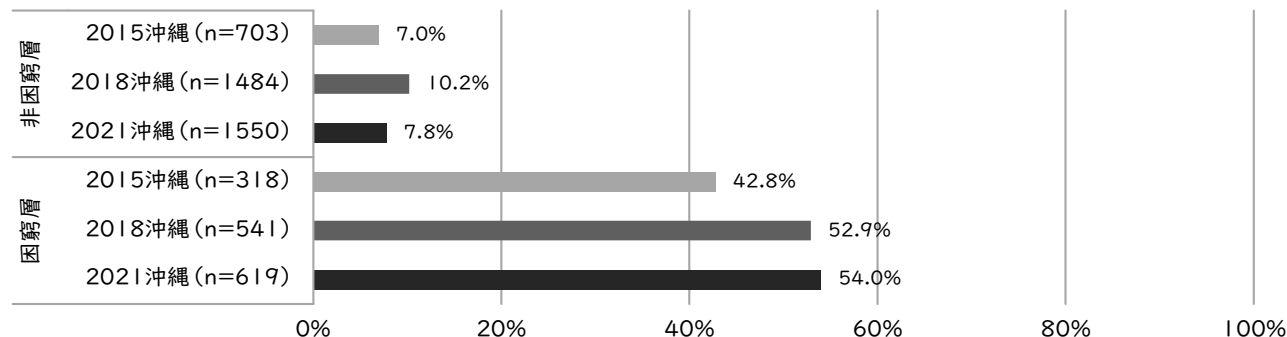


第5章 制度の利用状況

5-1 就学援助の利用状況（経年比較）

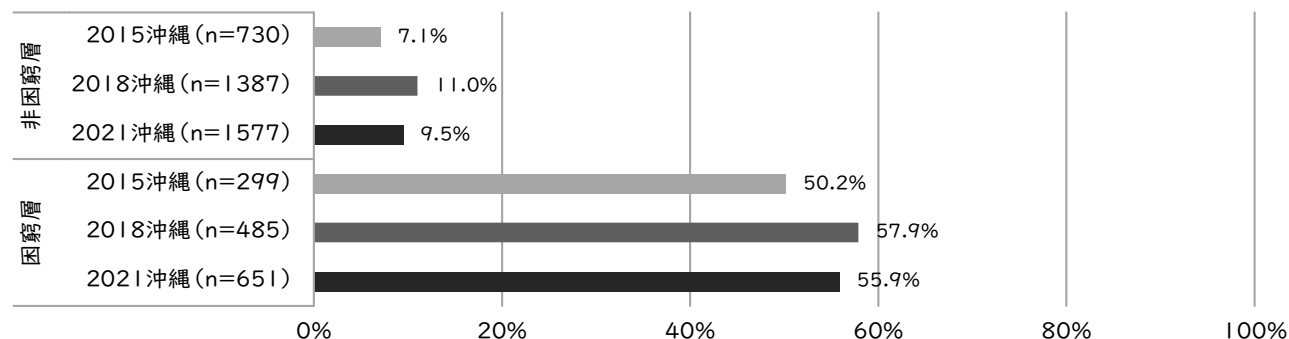
経年比較において、小学5年生では、困窮層は、2015年沖縄県調査の42.8%から11.2ポイントの上昇がみられました。ただし、2018年の52.9%からは上昇が鈍っています。中学2年生では、困窮層は、2015年50.2%、2018年57.9%、2021年には55.9%となっています。

図5-2-5 【小5保護者／経年比較・経済状況別】就学援助を「利用している」と答えた割合



※2015年、2018年沖縄県調査では、質問文が「あなたのご家庭では現在（※2015年は現在はない）、お子さんのために就学援助制度を利用していますか」、選択肢が「利用している、利用していない、わからない」となっており、2021年沖縄県調査と質問文、選択肢が異なっている
※ここでは2015年、2018年沖縄県調査の「利用している」と、2021年沖縄県調査の「現在利用している」の割合を比較した

図5-2-6 【中2保護者／経年比較・経済状況別】就学援助を「利用している」と答えた割合

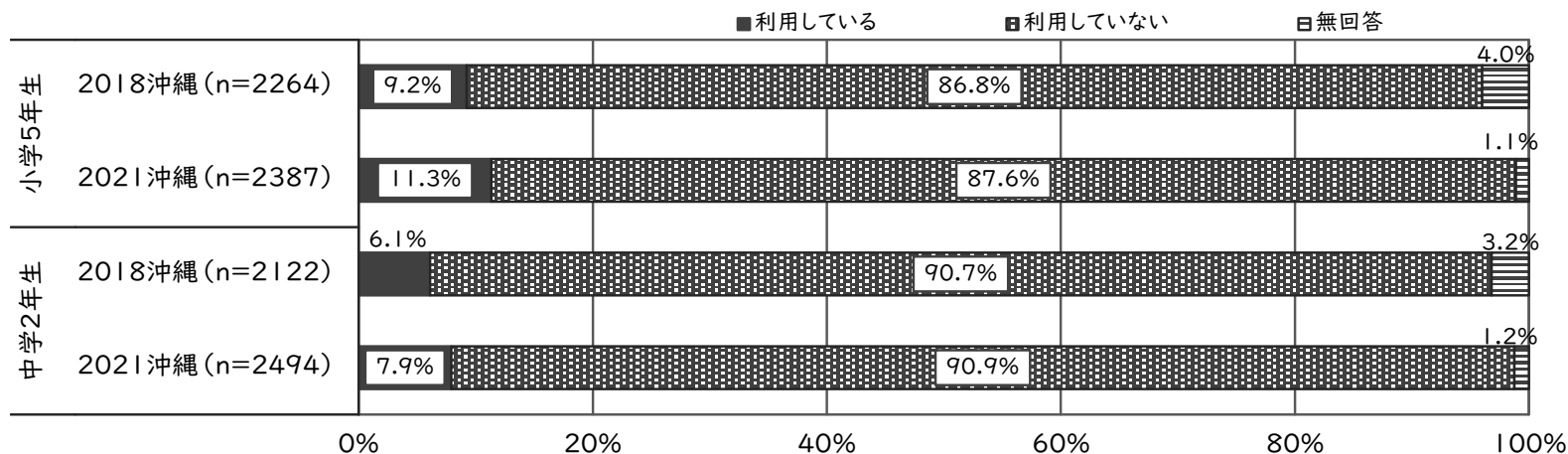


※2015年、2018年沖縄県調査では、質問文が「あなたのご家庭では現在（※2015年は現在はない）、お子さんのために就学援助制度を利用していますか」、選択肢が「利用している、利用していない、わからない」となっており、2021年沖縄県調査と質問文、選択肢が異なっている
※ここでは2015年、2018年沖縄県調査の「利用している」と、2021年沖縄県調査の「現在利用している」の割合を比較した

5-2 子どもの居場所の利用（児童・生徒／経年比較）

子どもの居場所の利用について児童・生徒に尋ねたところ、経年比較において、「利用している」は、小学5年生が2018年9.2%から2021年11.3%、中学2年生が2018年6.1%から2021年7.9%とそれぞれ約2ポイント増加しています。

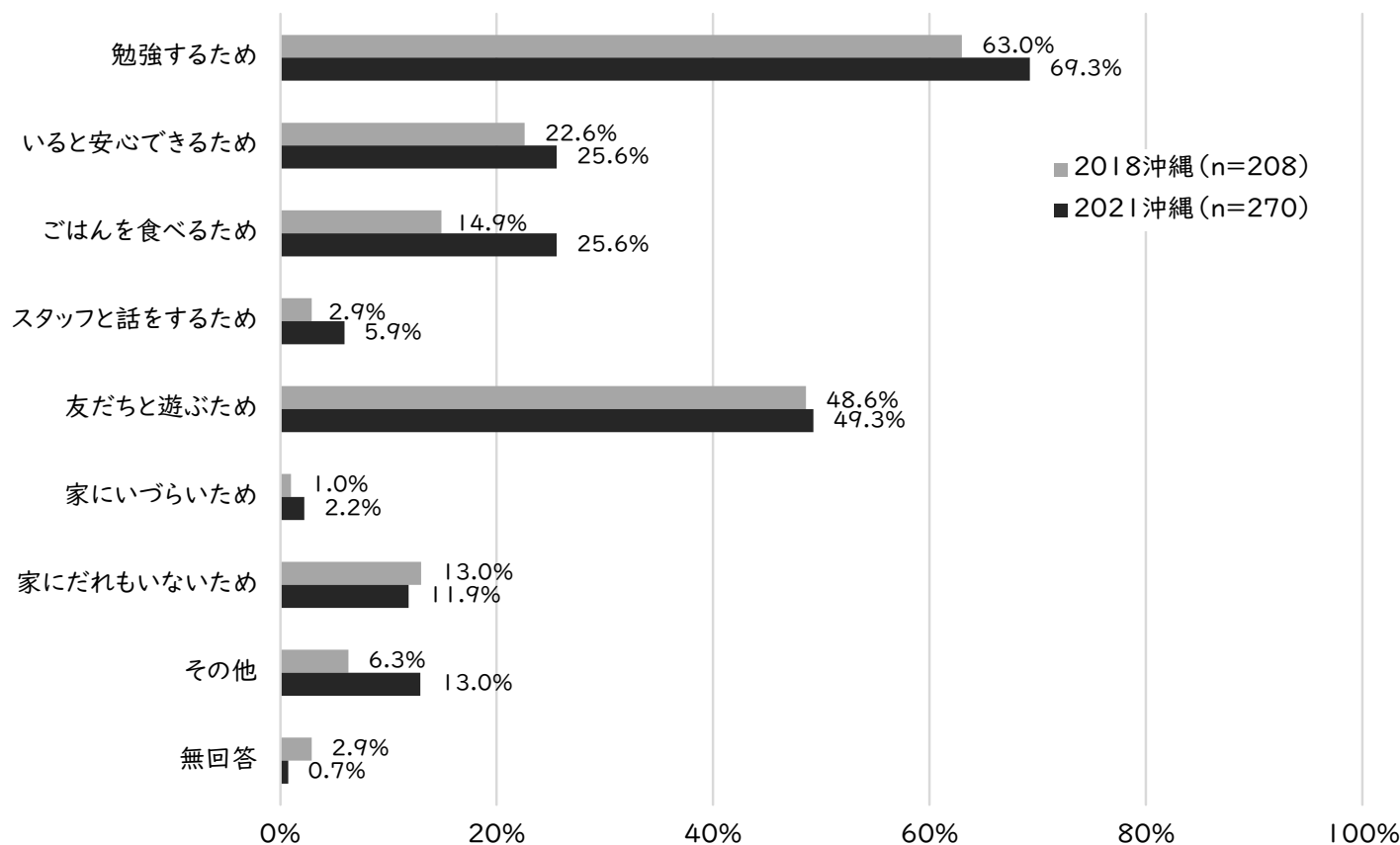
図5-4-3 【小5児童・中2生徒／経年比較】あなたは、子どもの居場所（無料で食事が食べられたり、勉強を教えてもらうところ）を利用していますか



5-3 利用する理由（児童・生徒／経年比較）

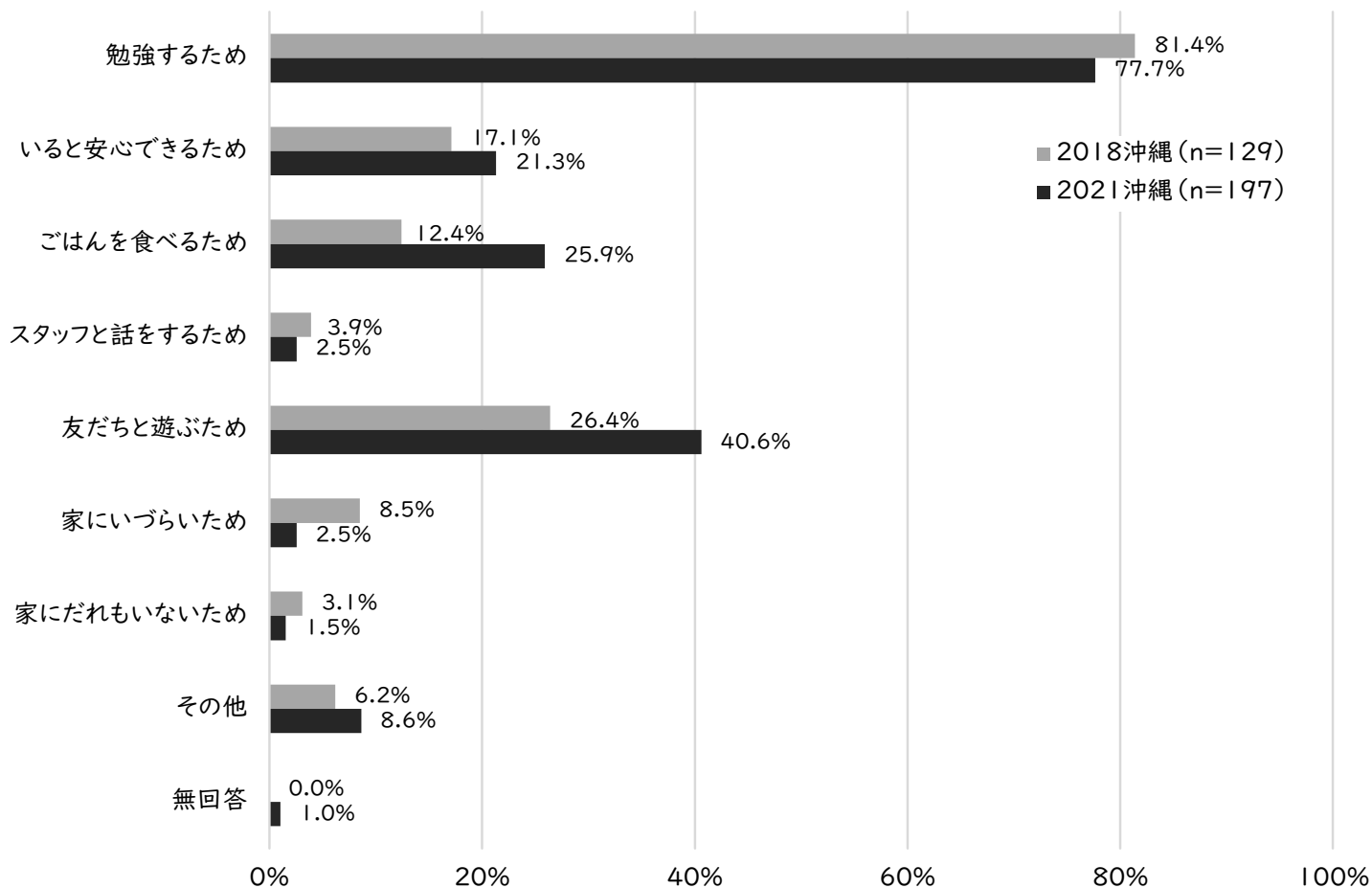
子どもの居場所を「利用している」と回答した児童・生徒に、居場所を利用する理由を尋ねたところ、経年比較において、小学5年生は、2021年沖縄県調査のほうが「家にだれもいないため」以外の項目がすべて増加していることがわかりました。

図5-4-6 【小5児童／経年比較】あなたが居場所を利用する理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください（複数選択）



中学2年生は、「いると安心できるため」「ごはんを食べるため」「友だちと遊ぶため」「その他」が多くなっており、「勉強するため」「スタッフと話をするため」「家にいづらいため」「家にだれもいないため」が減少しています。

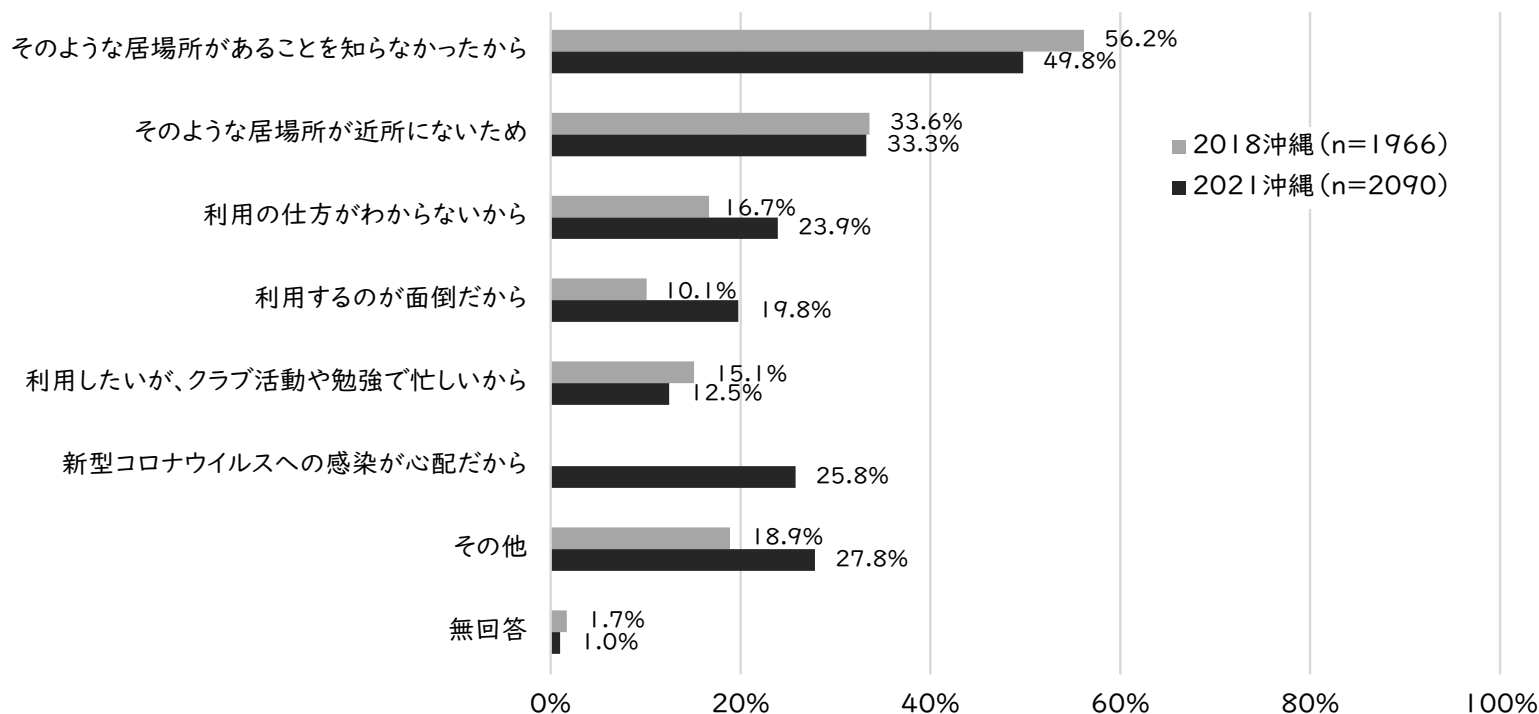
図5-4-7 【中2生徒／経年比較】あなたが居場所を利用する理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください(複数選択)



5-4 利用しない理由（児童・生徒／経年比較）

子どもの居場所を「利用していない」と回答した児童・生徒に、居場所を利用しない理由を尋ねたところ、経年比較において、小学5年生は、「そのような居場所があることを知らなかったから」「利用したいが、クラブ活動や勉強で忙しいから」が減り、「利用の仕方がわからないから」「利用するのが面倒だから」「その他」が増えています。

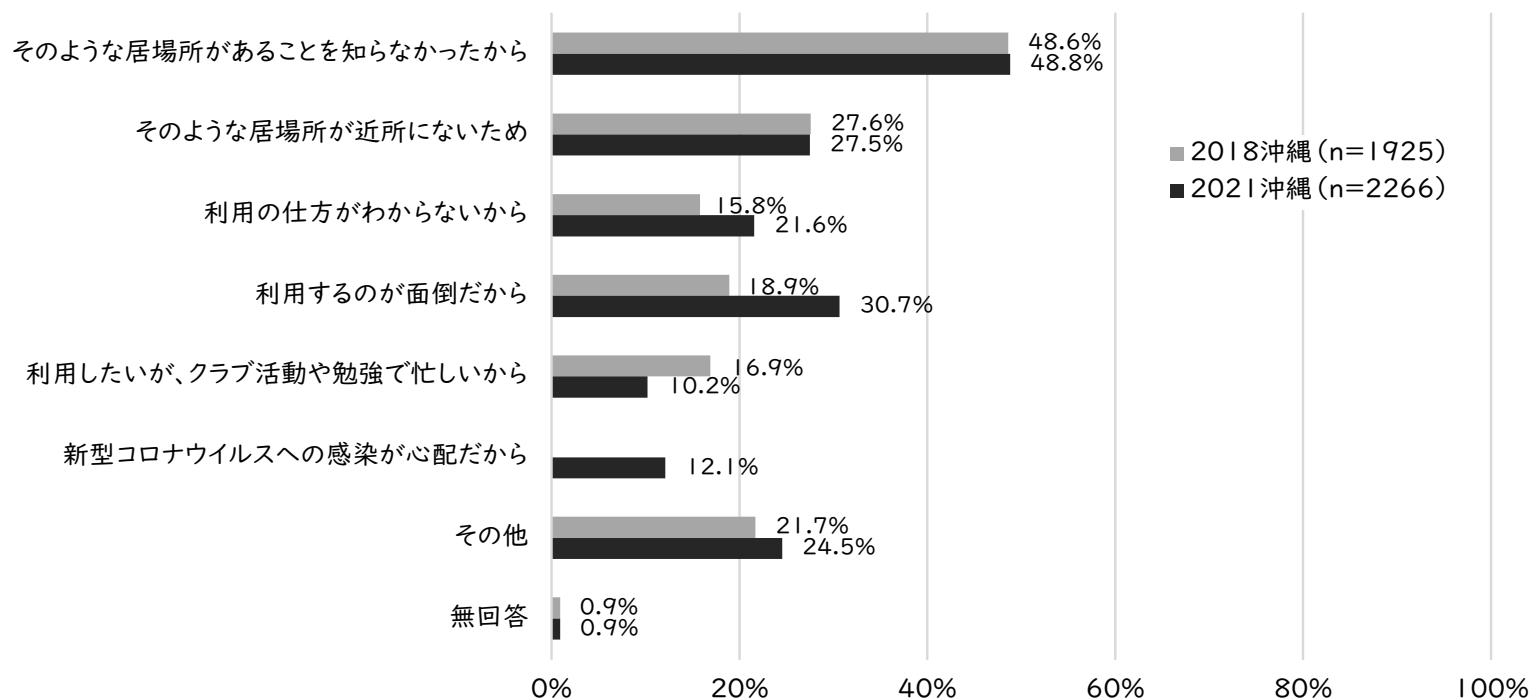
図5-4-10 【小5児童／経年比較】あなたが居場所を利用しない理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください（複数選択）



※2018年沖縄県調査では、「新型コロナウイルスへの感染が心配だから」の選択肢はない

中学2年生は、「そのような居場所があることを知らなかった」に変化はなく、「利用したいが、クラブ活動や勉強で忙しいから」が減り、「利用の仕方がわからないから」「利用するのが面倒だから」「その他」が増えています。

図5-4-11 【中2生徒／経年比較】あなたが居場所を利用しない理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください(複数選択)



※2018年沖縄県調査では、「新型コロナウイルスへの感染が心配だから」の選択肢はない

自由記述
— 兒童・生徒 —

● 私がイライラしている時にちょっと話をきいてほしいです(親)。

● 親がおこりすぎるから、もうちょっとやさしくしてほしい。

● 子どもの人達はがまんしてあまり外に出ないのに、大人の人達が不要不きゅうの外出をしていて、はずかしくないのかと思う。

◆ コロナで学校行事が無くなって悲しいです。お金で買えない大事な学生時代です。もっと若い人や学生を大事にしてほしいです。

子どもの文句にしかきこえないと思いますが。このように理不尽を感じてる同級生はたくさんいます。子どもも納得して生活できるように大人の方々にはもっと頑張してほしいです。

タブレットありがとうございます。効率良く学習できていて助かっています。もっと活用したいです。

● 今は、新がたコロナウイルスがとてもふえていて(はやっていて)、自分てきにちょっとしたことでイライラしたりする事がふえているので友達や、先生、きょうだいにめいわくだと思うので『イライラ』しないようにしたい。

◆ コロナで、勉強がおくれているいたりして、焦ったりする気持ちはすごくわかります。

でも、結局あたまに入らず成績わるくなっちゃったらイミないと思います。もっとゆっくり、授業してほしいです。

◆ とくに言いたいことはないけど、私たち子どもの気持ちを考えてほしいです。

コロナでどこにもいけなくて、たのしくないし、マスクも苦しい、大人だって大変だろうけど、子どもは心がきずつきやすいから、ちゃんと小さなSOSに気付いてほしいです。だれにも気付かなくて、ずっと苦しんで、もうそうだんできなくなっている子もネットにたくさんいるんです。そういう子たちを助けてあげてください。

◆バス・モノレール通学費無料化は、ふつうの家庭では受けられないんですよ。

ですがふつうの家庭でも行きで1000円バス代使うのは痛いんです。なんとかありませんか。

行きたい高校はあるけど、遠すぎてあきらめたって人はどれくらいかわかんないけどいると思います。

大人は夢を見つけることは大切だっていいです。なら、夢を叶える手伝いをするのも大人の役目じゃないんですか。

◆こうそくて、まゆをそってはいけないと書いてありますが、身なりをととのえてくださいと書いてあるのに矛盾を感じます。まゆをととのえずにボーボーの方が身なりをととのえていないことになるのではないかと、思います。

まゆをつまようじくらい細くしたりするのはダメだなと私も思うけど、ととのえるくらいであれば大丈夫なんじゃないかな、と思いました。

◆最近、親がお金の話をよくするのですが、あまりよくない印象を受けます。

本当は、学校の授業にあまり追いついていなくて、ほとんど自分で学習することが多いので、塾に行って将来のためにも頑張っってわかるようにしたいと思っています。

新型コロナウイルスが原因で「自分だけが」とは決して思っていないんですが、お金をあまり使わないような、学校での授業を増やしてでもいいので、頑張っって学習しようと思いました。

最後に、このような県民1人1人によりそって声を聞いてくださって本当にうれしかったです。ありがとうございました。

●高学年になってから先生の口が悪いです。生徒が感じる先生についてのアンケートをとってほしいです。先生に見られないようにこのアンケートのようにしてほしいです。

いじめのアンケートはよくしたことあるけど、先生に対してのアンケートはやったことないのでやってほしいと、強く願います。

●たまきデニーさんこのアンケートは、自分の本当の気持ちを答える事ができました。

コロナであまりどこにもいけないけど、このアンケートをやって心が楽しくなりました。まほうのアンケートみたいでした。これからもがんばってください。

テーマパークを作ってほしいです(できれば)。

◆正直、新型コロナウイルスの影響で、心が落ち込み、イライラすることも多かったので、このようなアンケートを通して、できることを考えて下さる県の方々には、感謝しています。

お忙しい中、ありがとうございます! よろしくお願ひします。

●もっと子どものことを考えて。
自分も昔は、子どもだったはずなのに。

●このアンケートで、お母さんを守ってほしいと思いました。

●今回、回答したことが、少しでも、子どもが住みやすい県にするために、役に立ったらいいな、と思います。内容もすごく簡単だったし、名前もかかなくていいから、私はすごくやりやすかったです。子ども達がすごしやすい県にするために、これからもがんばってください。

●このアンケートを今後、生かしてほしいなあーと思う。[問19]の子どものいばしょについてはじめてしたので利用してみたいなあーと思います。

◆自分の考えや理想を子どもに押しつけてきたり、自分のやり方を貫き通し、子どもの声に全く耳を傾けない大人がいる。それはおかしいことだと思う。

今は多様性を尊重することが必要な時代であり、これからの未来をつくっていくのは、今の子どもたちである。

だからこそ、子どもの声にもっと耳を傾け、よりよい未来を今から作りあげていくために対応する必要があると思う。



自由記述
— 保護者 —

■シングルマザー、自営業で生計を立てています。新型コロナウイルスによる影響で収入が減少してしまいました。元夫からは、養育費はもらえず、自事業の収入と、児童扶養手当・児童手当・緊急小口資金貸し付け・1人10万円の給付金等で生活を維持してきました。緊急事態宣言解除となりましたが、以前のような客足がいつ戻るか、リバウンドへの不安と収入への不安は大きいです。

●ヤングケアラーという言葉がとりざたされ、うちの子たちも、そうなんだ、と気付きました。

親ができないときは、きょうだいで面倒を見る、ということがあたりまえと思っていたけど、小さいときから、何かしら、がまんさせていたのかなあと考えると、悲しくなる。

同じ(障害があるきょうだい)立場のきょうだい児同士のサークルや、親に言えない悩みや思いが言える第三者やおしゃべりできる会等を企画して、交流の場があればいいなと思った。

◆コロナでWワークができなくなり、収入は減ってしまった。仕事が1つだけでは、子どもの進学のコストが不安である。給与水準を上げてほしい。Wワークでは気持ち(精神的)に余裕がなく子どもにも悪い影響が出てしまいそうで不安。

■子どもはかわいいけど、自分が払いが遅れたりして恥ずかしい気持ちになってないのか?他の子は洋服など買ってもらったってよ、と話しをしたときに、自分の子どもはもらいものだったり、ごめんって気持ちになるときがときどきあります。

●子どもの年齢が上がるにつれて、ゲーム機や携帯電話やパソコン等をほしがっています。周りの友人が持っているとはやはりほしいようで、近い友人に親に何でも買ってもらえる子がいると、比べてしまうようで、ケンカになり、親も子ども嫌な気持ちになります。

収入にゆとりがあれば、もう少し喜ばせてあげられるのですが…。

■母子家庭で出費を少しでもおさえるため、学童を辞めさせました。学童はとても助かりましたが、費用のことを考えると通えさせられませんので、その援助があればいいなと思います。

●子どもに係る費用を減らしてもらえると家計も助かります。授業料や制服、体育着、学級費、PTA費、等々月々なにかと徴収されてぎりぎりです。

余裕があれば、子どもを水族館に連れて行ってあげられたり、どこかに行けるのになと思います。日々、生活していくのに精一杯です。

■父子家庭です。子ども達の教育資金等でとても厳しい生活を送っています。長女の通う高校は、PTA会費・研究費等で2か月で11万円近く支払いがありました。大学進学費用も大きく借入しても返済できるか不安です。下の子達の進学をあきらめなければならぬ状況に進んでいるため、親失格とならないか悩んでいます。

■高校生のバス利用について所得制限をはずし、みんなが使えるようになってほしい。

友だちは対象外だから…と一緒にバス登校できず結果、遠い道のりを歩いて登校してます。

■バス通学支援制度（オキカが配布されています）を活用させて頂いていますが、指定された路線1本しか使用できずそのバスを待つため1時間以上要することもあります。

目的地が同じであれば、他の路線も乗ることができれば便利になると思います。

■子どもが多いため、教育費や生活費がかかり、思うように教育資金（専門学校や大学）が貯められません。

現在、児童手当を頂いていますが、第3子以降の手当ての増額や、対象を高校まで引き上げてもらえると助かります（高校生は、部活、交通費、衣服費、食費がかかります）。

■ 現在就学援助を受けていますが、担任の先生に知られていることが少しショックでした。あと、医療助成を受ける際に保健室に行くことは、とてもハードルが高く、結局は自費で支払うことにしています。もっと使いやすくなると助かるのですが。

◆ 就学援助も、手続きや、負い目から手続きできない。修学旅行や、学費にかかるお金も、周りに知られるのも、恥ずかしいし手続きしなくても、母子父子手当を受けている家庭に、給付してほしい。

■ 無料塾とかも、良いのですが、厳しい家庭の子だけを特別に集めるような形の学習支援ではなく、通常の塾に通って、その費用を援助するというような支援がいいと思います。子ども達には「うちは貧乏だから…」という引け目のようなものをできるだけ感じないで過ごせるような形の支援の仕方を望みます。家庭環境は子ども達のせいではありませんから。

■ 給付金を支給して頂いたとき、使えないことはないけど、ボロボロだった子どもたちの服やくつを買いなおしたり、普段節約のため買えない子どもたちの大好きな寿司のテイクアウトもさせてあげることができました。ありがとうございました。

■ コロナ禍が2年も続くと正直とても厳しい。自営業で観光業のため収入が5割以上減っている。飲食店のみに協力金等の援助があるが、観光産業全般大変厳しいのでは？ 一括支援金などないと、いつまでもつかわからない。生活福祉の貸付もしているが、免除にならないと、また、借金返済からスタートだと、生活が安定する見込みはほぼゼロ。低所得者に関しては、貸付返済免除をぜひ希望する。

■ 子どもに対し、ひとり親で申し訳なく感じる。服やくつ等買ってあげれない時期あり、私が体調悪いときは食事も作ってやれない日もある。子どもは、居場所に通わせて頂きとてもイキイキし、感謝しています。

◆昼、夜働いても、ギリギリの生活で、現在生保を受給しているが、毎月生活が厳しく、成長期の子どもたちに満足にご飯を食べさせてあげられない。

私は基本1日1食で食べない日もある。貯金も0で、子どもの将来が不安。中学卒業後の進路についてお金がないので何もしてあげられない。親として申し訳ない。

■私の家庭は、子どもが多く、保育料や学費など、日々の生活費など出費がかさみ大変でしたが、市のソーシャルワーカーさんと出会い、私もパートに出て、下の子を保育園に入れることができました。

保育料、給食費、医療費etc.とても子育てについてのバックアップが充実していて、とても助かっています。

今でもソーシャルワーカーさんと、連絡を取り合い、子育てのことなどすごく相談しやすく、助かっています。友だちや家族などに相談しづらい人もいると思います。みんなが、相談しやすい支援員さんがいると助かります。

●低所得者を対象とした制度などが目立ち、私のような収入（低所得以上中所得以下）の人たちは、ただただ税金をとられるだけのマシンのように感じる。私たちのような世帯も優遇される制度を望みます。

◆沖縄子ども調査は、とてもありがたいです。教員をしていますが子どもを取り巻く状況は、すさまじいです。学校では対応できないほどの問題があり、行政が助けて頂けることで、日々なんとか乗り切っている形です。

ですので、直接子どもから“聴き取る”調査を行って、支援へつなげてほしいと強く感じます。経済の立て直しも急務ですが子どもへの投資は、“みらいへの投資”です。誰一人取り残さないウチナーの未来のために共に頑張りましょう！

◆データ収集のため統計を取られるのは、大いに結構ですが、データ収集のための調査に留まらず、実際に子育て家庭の支援策が生活の中で反映・実感できるような状況になることを願います。